

博士論文

ヨーゼフ・フランクの住宅作品の
空間デザインに関する研究

A Study on the Spatial Design of
Josef Frank's Houses

2013年

八代美智子

博士論文

・ 題目 ・

ヨーゼフ・フランクの住宅作品の空間デザインに関する研究
A Study on the Spatial Design of Josef Frank's Houses

指導教員 河田 克博 教授

工学研究科博士後期課程 社会工学 専攻
平成 22 年 4 月 入学

(学籍番号) 20518511

(氏名) 八代 美智子

(平成 25年 6月 28日 提出)

凡例

- (1) 本論文は、序論（第1章）、ウィーンにおける前期住宅から後期住宅への展開（第2章）、スウェーデンにおける住宅作品について（第3章）、ウィーンとスウェーデンにおける住宅作品の比較（第4章）、結論（第5章）、からなる。
- (2) 各章ごとに表・図・写真・補注を挿入し、補注は章末にまとめた。
- (3) 文中の図・表は、次のように示す。

章番

節番

表 1 - 1

図 1 - 1 (a, b, c, d)

写真 1 - 2 (a, b, c, d)

『ヨーゼフ・フランクの住宅作品の空間デザインに関する研究』

論文要旨

オーストリア出身の建築家ヨーゼフ・フランク Josef Frank (1885～1967)は、オットー・ワグナーやヨーゼフ・ホフマン、アドルフ・ロースなどのウィーンの先輩建築家たちが開拓した近代デザインの継承者とされる。ヴァイゼンホーフ・ジードルンク住宅展（ドイツ、1927）には、オーストリアから、ただ一人出品した。しかし、その内部空間のデザインに、バウハウスに代表される近代デザインへ若干批判的姿勢を示している。また、CIAM（近代建築国際会議、1928）には、第1回から参加しているが、のちに、こうした近代デザインの潮流から大幅に逸脱するような、フランク独自のデザイン観、建築観を確立するに至るとされる。建築作品とともに、建築に関する理論的言説も遺した建築家でもある。

しかし、当時のフランクの盛んな活動にもかかわらず、現在、日本では勿論、オーストリア以外の国々において、フランクの知名度は低いと思われ、その建築作品や家具・テキスタイルのデザインについての研究は数少ない。

そこで本研究は、フランクの空間デザインを研究する上で重要と考えられる1戸建住宅の、その年代を代表する作品をウィーンとスウェーデンのファルステルボーとに国別に取り上げ分析し、フランクの住宅作品の空間的特質の一端を明らかにすることを目的とする。

本論文は次の5章から成る。

第1章「序論」では、本研究の対象であるフランクの略歴を年表とともに紹介し、主要建築作品のリストを掲載した。次に、研究対象として収集した先学の論文と書籍のリストを掲載した。そして、本研究の目的と意義について述べ、研究の位置づけを論じ、本研究の重要性を明確化したうえで、本研究の構成について記述した。

第2章「ウィーンにおける前期住宅作品から後期住宅作品への展開」では、フランクの初期の代表的作品といえる「ショル邸 (Sholl House, 1913～1914)」・中期の代表作品といえる「ベーア邸 (Beer House, 1929)」・後期の代表作品といえる「第2ブツ

ル邸(Second Buntzl House, 1935)」を取り上げ、動線に着目して、平面形態からはじめ、全体形態と空間全体を分析し、内部空間の統合手法を探り、空間的特質について考察した。その結果、ショル邸は、概ね左右対称を保持した1ボリュームの全体形態であり、内部空間は視覚的に水平に広がるホールがメイン階段と連携した高さの異なる床を空間的に統合していた。また、ベアー邸では、1ボリュームの一部を崩した全体形態であり、吹き抜けをともなう中央ホールとそこに配置された変化に富んだメイン階段が連携して、高さの異なる床を空間的に統合していた。そして第2ブンツル邸では、異なる4つの直方体ブロックを分散的に配置した全体形態を持ち、玄関ホールとつながるオープンな階段が高さの異なる床を空間的に統合していたことが明らかとなった。

第3章「スウェーデンにおける住宅作品について」では、ファルステルボーにおける6建築作品の概要を一覧表にしたうえで分析を行った。すなわち、6軒の夏の家のヴィラ・クラソン(Villa Claeson, 1924~1927)、ヴィラ・カールステン(Villa Carlsten, 1927)、ヴィラ・セット(Villa Seth, 1934)、ヴィラ・ローフトマン(Villa Laftman, 1934)、アトリエ・アンデシュ エステリング(Atelier Anders Östering, 1934)、ヴィラ・ウェッチェ(Villa Wehtje, 1936)の全体形態と各内部空間についての分析を行い、フランク特有の動線の手法による、変化ある空間の展開を確認した。そして、6軒のヴィラの動線について、フランクの「論文」の概念にもとづき、さらに分析を行い、内部空間の統括手法を見出した。

第4章「ウィーンとスウェーデンにおける住宅作品の比較」においては、ウィーンの第2ブンツル邸と建築年代の近いファルステルボーのヴィラ・ウェッチェの内部空間を比較した。その結果、2住宅の内部空間は、同様に機能別ブロックに分割され、「ホールと階段」により空間的に統合されており、また全体形態は、初期の概ね左右対称を保持した1ボリュームから、後期の分散的形態へ変遷していることを確認した。しかし、ヴィラ・ウェッチェは曲線的平面形態であり、第2ブンツル邸は、直線的平面形態であった。

第5章「結論」では、第2章から第4章の分析結果を受けて総括し、ヨーゼフ・フランクの住宅作品の持つ空間デザインの、他一般の近代建築家とは一線を画する独自の特質を導き出し、最後に、本研究の問題点と今後の課題についての展望を述べた。

目次

| | |
|--------------------------------|----|
| 第1章 序論 | 1 |
| 第1節 研究の対象 | 1 |
| 1-1-1 ヨーゼフ・フランクの略歴 | 1 |
| 1-1-2 主要な建築作品 | 2 |
| 1-1-3 ウィーンとスウェーデンの住宅作品 | 4 |
| 第2節 既往研究 | 6 |
| 第3節 研究の目的と意義 | 9 |
| 1-3-1 研究の目的 | 9 |
| 1-3-2 研究の方法 | 9 |
| 1-3-3 研究の位置付け | 10 |
| 第4節 本論文の構成 | 11 |
| 注記 | 11 |
| 図版出典 | 12 |
| | |
| 第2章 ウィーンにおける前期住宅作品から後期住宅作品への展開 | 13 |
| 第1節 ショル邸の空間的特質 | 14 |
| 2-1-1 平面形態と動線 | 14 |
| 2-1-2 全体形態と内部空間の統合手法 | 14 |
| 第2節 ベーア邸の空間的特質 | 17 |
| 2-2-1 平面形態と動線 | 17 |
| 2-2-2 全体形態と内部空間の統合手法 | 18 |
| 第3節 第2ブンツル邸の空間的特質 | 21 |
| 2-3-1 平面形態と動線 | 21 |
| 2-3-2 全体形態と内部空間の統合手法 | 22 |
| 第4節 3つの住宅作品のあいだの差異性と共通性 | 25 |
| 2-4-1 差異性 | 25 |
| 2-4-2 共通性 | 25 |
| 2-4-3 ボリュームの変遷 | 26 |

| | |
|--------------------------------|----|
| 第5節 小結 | 29 |
| 注記 | 30 |
| 図版出典 | 32 |
| 第3章 スウェーデンにおける住宅作品について | 33 |
| 第1節 ファルステルボーの位置とフランクの6軒のヴィラの概要 | 33 |
| 3-1-1 ファルステルボーの位置 | 33 |
| 3-1-2 ヨーゼフ・フランクデザインのヴィラの配置 | 34 |
| 3-1-3 6軒のヴィラの建築概要 | 35 |
| 第2節 6軒のヴィラの空間的特質 | 36 |
| 3-2-1 ヴィラ・クラークソンの空間的特質 | 36 |
| 3-2-2 ヴィラ・カールステン空間的特質 | 39 |
| 3-2-3 ヴィラ・セットの空間的特質 | 43 |
| 3-2-4 ヴィラ・ローフトマンの空間的特質 | 46 |
| 3-2-5 アトリエ・アンデシュ エステリングの空間的特質 | 49 |
| 3-2-6 ヴィラ・ウェッチェの空間的特質 | 50 |
| 第3節 6軒のヴィラの動線 | 56 |
| 3-3-1 フランクの「論文」による動線の分析 | 56 |
| 3-3-2 6軒のヴィラの動線の比較 | 56 |
| 3-3-3 6軒のヴィラの平面形態と動線 | 57 |
| 第4節 小結 | 58 |
| 注記 | 58 |
| 図版出典 | 59 |
| 第4章 ウィーンとスウェーデンにおける住宅作品の比較 | 61 |
| 第1節 2住宅作品の平面形態と機能別ブロック | 61 |
| 4-1-1 第2ブンツル邸の平面形態と機能別ブロック | 61 |
| 4-1-2 ヴィラ・ウェッチェの平面形態と機能別ブロック | 62 |
| 第2節 2住宅作品の機能別ブロックの比較 | 63 |
| 第3節 小結 | 66 |

| | |
|------------------------|----|
| 図版出典 | 66 |
| 第5章 結論 | 67 |
| 第1節 総括 | 67 |
| 第2節 本研究の問題点と今後の課題 | 69 |
| 参考文献一覧 | 71 |
| 引用文献 | 73 |
| 発表論文対応表 | 76 |
| 謝辞 | 77 |
| 資料編 | 79 |
| 対象史料（建築外観写真・内部空間写真・図面） | |

第1章 序 論

第1章 序論

第1節 研究の対象

1-1-1 ヨーゼフ・フランクの略歴

ヨーゼフ・フランク (Josef Frank, 1885～1967)¹⁾は、集合住宅のプロジェクトや1戸建住宅などから家具や織物のデザインまで、その活動は多岐にわたる近代建築家である。フランクはまた、こうした建築作品とともに建築に関する理論的言説も遺した建築家でもある。フランクは、他のモダニスト達と同世代であり、アドルフ・ロース (Adolf Loos 1870～1933) の思想の後継者であるとされる。フランクの年譜を、主要建築作品と併せて表1-1に示す²⁾。

フランクは、1885年に南部オーストリア州バーデンで生まれ、1903年から1908年までウィーン工科大学で学んだ。1912年にオーストリア工作連盟の設立メンバーとなり、1919年から1925年までウィーン応用芸術学校の教授として教鞭をとった。1925年からインテリアの会社でハウス・ウント・ガルテン (Haus & Garten) をウィーンで経営するが、1938年ナチスに没収された。1927年にドイツ工作連盟開催のシュトゥットガルト郊外で開催されたワイゼンホーフ・ジードルング住宅展示会にオーストリア人として唯一人招待された。フランクは、ウィーンの個人的な顧客の住宅プロジェクトや労働者の住む地域の住宅を設計しており、建築家としてデザイナーとして同世代の指導的立場にあるとされていた。ワイゼンホーフ・ジードルング住宅展示会における各住宅の表現は建築家の自由な創意に任せられ、後に「インターナショナル・スタイル」と呼ばれる陸屋根と白い箱形だけが共通の設計条件であった。フランクは他の住宅と大差のない外観の2軒家を提案したが、内装は、当時標準とされたパイプ椅子の代わりに、フランクの経営するインテリアの会社H&Gの家具でしつらえた。それは、ラウンジチェアを強い色彩の花柄の布で張り、カーテン、カーペット、ピロとソファーや、ランプシェードを縫いつけて固定した真鍮の照明器具などが挙げられる。女性的であることに加え、時代遅れとも批評されることとなり「フランクの売春宿」と酷評された³⁾。文献によれば、以下のように評されている。オーストリアでは合理主義に属する建築家としてヨーゼフ・フランクの名を挙げるができる。フランクもまた、1927

年のヴァイセンホーフ・ジードルンクに小さな住宅を出品しているが、フランク自身は、この時の建築家仲間に対して若干批判的態度を示している。フランクは、既に形骸化を示す機能主義が、装飾に対する新種の動機付けとなっているのを敏感に察知していたのである。「組織化された趣味」なるものに批判的態度をとるフランクは、数十年後に一般の建築論議にあらわれる問題を既にこの時点で先取りしていた⁴⁾。

1928年にCIAM(近代建築国際会議)に第一回から参加した。1930年から1932年までウィーンにおいて、集合住宅展の建築家の指揮をとった。

1930年代にドイツ圏でファシズムが勃興すると、ほとんどの有能な建築家たちは国外へ移住し、フランクも1933年12月スウェーデンへ入国して、インテリアの会社スヴェンスク・テン(Svenskt Tenn)のチーフデザイナーになり、その後スウェーデンの国籍を取得した。最初の仕事はスウェーデンのクラフトとデザインの協会が企画した展示会であった。フランクのインテリアは他の人々と大きく異なっていたが、それは展示会で見せた当時の他のデザインの退屈さに対する主張であった。フランクはモダンデザイン運動の方向にさらに批判的になっており、特にドイツにおいて1920年代に創りだされた毎日使用するものと建物、室内、家具の間のデザインの統合を要求するバウハウスの理想に対して強い批判を抱いていた。ワイゼンホーフの住宅展示会におけるフランクへの酷評も、フランクのモダンデザインに対するこうした批判的姿勢が理解されなかったことによるものと考えられるべきであろう。

ニューヨークへ渡り、1942年から1944年までニュー・スクール・フォー・ソーシャル・リサーチ(New School for Social Research)で教鞭をとった。

1965年オーストリア建築賞を受賞したが、終世、オーストリアへ戻ることはなく、1967年にストックホルムにて歿した。

1-1-2 主要な建築作品

フランクの主要な建築作品である、公共の施設、集合住宅、1戸建住宅、別荘などは、ヨーゼフ・フランク年譜・表1-1に併記したとおりである。

表 1-1 ヨーゼフ・フランク 年譜

| | | |
|--|---|---|
| <p>1885◆ローアオーストリア州バーデン生まれ 1903~08◆ウィーン工科大学で学ぶ 1912◆オーストリア工作連盟の創立メンバー 1919~25◆ウィーン応用芸術学校の教授 1929~38◆インテリアデザイン会社「ハウス アンド ガルテン」を経営(ウィーン) 1927◆ドイツ工作連盟開催住宅展示会に参加(シコットガルト) 1928◆CIAM(近代建築国際会議)第1回参加 1930~32◆集合住宅展のリーダー(ウィーン) 1934◆スウェーデンへ移住、インテリアデザイン会社「スペンスク・テン」と関連性を持つ 1939◆スウェーデン国籍取得 1942~44◆ニューズクール フォア ソーシャル リサーチ教員(ニューヨーク) 1965◆オーストリア建築賞受賞 1967◆逝去(ストックホルム)</p> | <p>1914●別荘 ヴンツル邸 Bunzl House (ローアオーストリア) 1914●住宅 ショール邸 Scholl House・シコトラス邸 Strauss House (ウィーン) 1921●保育所 Kinderheim, Workers Siedlung, Ortmann (ローアオーストリア) 1921●集合住宅 Hoffingergasse 団地 (ウィーン) 1921●集合住宅 dobl apartment in the Weissenhofsiedlung (シコットガルト) 1923~25●集合住宅 Widenhofer Hof (ウィーン) 1923~25●集合住宅 Winarsky Hof (ウィーン) 1924~27●別荘クラウン邸 VIII Cleesen (ファルステルポー スウェーデン) 1927●別荘 カールステン邸 Villa Carlsten (ファルステルポー スウェーデン) 1928●集合住宅 Sebastaf Kelch Gasse (ウィーン) 1929~30●住宅 ベーア邸 Villa Beer (ウィーン) 1931●集合住宅 Leppoldine Glockel Hof (ウィーン) 1934●別荘 ゼット邸 Villa Seth (ファルステルポー スウェーデン) 1934●別荘 ローフトマン邸 Villa Loftman (ファルステルポー スウェーデン) 1934●アトリエ エステリング邸 Atelier Ostering (ファルステルポー スウェーデン) 1935●住宅 第2ブンツル邸 Second Bunzl House (ウィーン) 1936●別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje (ファルステルポー スウェーデン)</p> | <p>1914~1918) 第1次大戦 1938●ナチスドイツ、オーストリア合併 第2次大戦(1939-1945) 朝鮮戦争(1950-1953) ベトナム戦争(1960-1975)</p> |
| <p>経 歴</p> | <p>主 要 建 築 作 品</p> | <p>社 会 情 勢</p> |

1-1-3 ウィーンとスウェーデンの住宅作品

フランクの個人史と、歴史的な背景をもとに生まれた住宅作品は、表1-1に示すとおりである。分析する9作品は、まさに近代建築の完成前後の時期に生まれたものと言える。本研究は、マリア・ヴェルツイヒも博士論文で述べているように、フランクを研究する上で重要と考えるウィーンにおいて計画された1戸建の「住宅」について、1910年～30年代の、それぞれ年代ごとに、フランクの代表的住宅作品を1作品ずつ、計3作品取り上げ、動線に着目して分析した。3住宅は、フランクの、その年代を代表する住宅作品として、マリア・ヴェルツイヒも取り上げている⁵⁾。

本研究で取り上げる、ウィーンにおけるフランクの1910年代、20年代、30年代を代表する3作品の所在地や規模や建築主などの概略を以下に述べる。

シオル邸は、ウィーンの西端19区のヴィルブラントゥガッセ(Wilbrandtgasse)に面する丘にあり、この地に、フランクは1913年に2戸の住宅を設計したが、その1戸である。エミール・シオル(Emil Scholl)と妻のアグネス(Agnes)のための建物は、3階建てに地下室がついた延床面積約318㎡の住宅である(写真2-1. a,b)。

ベア邸は、企業家ユリウス・ベア(Julius Beer)と妻のマルガレーテ(Margarete)のためにウィーン郊外13区の住宅地ヒーツィング(Hietzing)に1929年建設された4階建てに地下室がついた延床面積約782㎡の住宅であり(写真2. a,b)、敷地は街路ヴェンツガッセ(Wenzgasse)に面している。

第2ブンツル邸は、企業経営者フーゴ・ブンツル(Hugo Bunzl)のために、ウィーン19区の高級住宅地キマーニシュトラッセ(Chimanistrasse)に1935年建設された、2階建てに地下室のついた延床面積約300㎡の住宅である。南面に道路があり、敷地は、四辺形で、建物は、中央に配置されている(図2-4. a,b)。

一方、フランクは、中期から後期にかけて、スウェーデンのファルステルボーに6軒の住宅(Villa)をデザインした。この住宅作品についても、ウィーンと同様に、動線に着目して分析を行った。フランクの建築について、特にスウェーデンにおけるフランクの建築については、日本は勿論、スウェーデンでもその実際は、知られていない。

ファルステルボーはスウェーデンの南西の先端に位置し、エースレンド海峡に近いバルト海上の半島にある。世紀末の頃、大部分は荒漠たる砂の荒地であった。

リゾート地としての開発は1898年にストランドホテルが建てられ、同年商業都市マルメまで鉄道が開通したことによる。ファルステルボーでは、この同じ時期、最初のヴィラ (Villa、夏の家) は、様々な建築の寄せ集めのような形で建てられた。大部分の家は景色を楽しむためや、湿気の多い土地を避けるため2階建であった。現在鉄道は乗り入れておらず、マルメからファルステルボーまで1時間ほど路線バスに乗り換える必要がある(図3-1)。

1914年にヨーゼフ・フランクはスウェーデン出身のアンナ・セベニウスと結婚した。毎年夏の間、彼らは南スウェーデンのリゾート地ファルステルボーで過ごした。彼は1922年から1936年にかけて、妻の親戚や友人のためにこの地域に6軒のヴィラを設計したが、これは彼がウィーンやヨーロッパで建築家として最も活躍した時代にあたる。本研究では、これらの地域的、年代的にまとまりのある、フランクの6軒のヴィラについて分析した。

本研究で取り上げた対象作品については、上記の通りである。以下に列記する。

対象作品

① ウィーンの住宅作品

1. 1913年 ショル邸 (Scholl House)
2. 1929年 ベーア邸 (Beer House)
3. 1935年 第2ブンツル邸 (Second Bunzl House)

② スウェーデンの住宅作品

1. 1924年～1927年ヴィラ・クラーション (Villa Claeson)
2. 1927年 ヴィラ・カールステン (Villa Carlsten)
3. 1934年 ヴィラ・セット (Villa Seth)
4. 1934年 ヴィラ・ローフトマン (Villa Laftman)
5. 1934年 アトリエ・アンデシュ エステリング (Atelier Anders Ostering)
6. 1936年 ヴィラ・ウェッチェ (Villa Wehtje)

第2節 既往研究

フランクの業績に関して、1981年にヘルマン・チェヒとヨハネス・シュバルトにより、フランクの建築作品などと論文について、全体像を把握できる総合的な叢書が出版された。しかしながら、この著作以降、オーストリアにおける近代建築の重要な建築家の一人であったにもかかわらず、フランクに関する本格的出版物が見当たらない。ヘルマンチェヒらの研究から間をおいて、1994年、マリア・ヴェルツェヒはフランクについての最初の博士論文を発表した。

フランクについての、先学の研究は以下の通りである。

① Maria Welzig, *Die Winner Internationalität des Josef Frank: Das Werk des Architekten bis 1938*, der Universität Wien, Jänner 1994.

ウィーンにおけるフランクについての最初の博士論文である。マリア・ヴェルツェヒは博士論文で、時代的潮流の中でフランクが、それほど評価されなかった経緯や国際的な評価を、建築作品を通して論評している。この論文では、フランクが「住宅」を建築の最も重要な仕事と考えていたことから、フランクの建築の基本を理解する最良の方法として、「住宅」を中心に書かれている。本研究においても、最新のまとまったフランク論として、ひとつの指針となった。

② Mag. Marlene Ott, *Josef Frank (1885–1967) : Möbel und Raumgestaltung*, der Universität Wien, 2009.

フランクがデザインした家具についての博士論文である。ウィーンにおけるフランクのインテリア・ショップ・ハウス・ウント・ガルテン(Haus & Garten)の作品やスウェーデンのインテリア・ショップ(Svenskt tenn)の作品などについて詳細に分析した論文である。

③ Johannes Spalt, Hermann Czech, *Josef Frank 1885–1967*, Hochschule für Angewandte Kunst. 1981.

フランクの業績に関して、ヘルマン・チェヒとヨハネス・シュバルトによる、建築・インテリア・家具・テキスタイルと、論文について、多くの写真や図面を

含めた、フランクの作品について全体像を把握できる総合的な叢書である。本研究においても主要な参考文献となった。

④ Nina Stritzler-Levine(ed.), *Josef Frank Architect and Designer: An Alternative Vision of the Modern Home*, Published for The Bard Grduater Center for Studies in the Decorative Art, New York, by Yale University Press, New Haven and London, 1996.

フランクの建築作品や家具やテキスタイルなど生涯にわたる仕事全般について、多くの写真や図面や模型など英語により記述している。

⑤ Mikael Bergquist, Olof Michelsen, *Josef Frank Falsterbovillorna* Arkitektur Förlag, Stockholm, 1999.

スウェーデン南端のリゾート地ファルステルボーに、フランクによりデザインされた6軒のサマーハウスについて、写真と図面を主体として、詳細に解説している。フランクの建築作品のスウェーデンに限定した出版物は、これ以外殆ど見あたらない。本研究にとって貴重な参考文献となった。

⑥ Christopher Long, *Josef Frank : Life and Work*, The University of Chicago Press, Chicago and London, 2002.

フランクに関するモノグラフとしては比較的近年のもので、フランクをヨーロッパ有数のモダニストの一人として、英文で紹介している。フランクの生涯と建築作品や建築論について、マリア・ヴェルツイヒの論文なども意識しながら、綿密な調査により、実例を挙げながら、多くの写真や図面を用いて、明快に解説している。

⑦ Mikael Bergquist, Olof Michelsen, *Accidentism Josef Frank*, Birkhäuser Publishers for Architecture, Basel・Boston・Berlin, 2005.

時代の潮流の中で、フランクが主張した創造理念と生涯にわたる建築作品の変化について、スケッチや図面を配して簡潔に述べている。

⑧ Hiltrand Ast, *Die Ortmanner ein Industrie, yolk aufdem Lande*, Gesellschaft der Freunde Gutensteins Verlag: Perlach Verlag, Augsburg-Geutenstein, 1992.

下オーストリアのオルトマン村の歴史について記述されている。この村は、製紙工場を中心に発展したが、オーナと知己であったフランクのデザインした地域計画や住宅や保育園などについても詳細に記述されている。

⑨ Maria Welzig, *Josef Frank 1885–1967: Das architek rchitektonische Werk*, Hochschule für angewandte Kunst, Wien, 1998.

学位論文発表の4年後、マリア・ヴェルツィヒにより出版された。フランクの建築作品を中心に記述されている。

⑩ Architekturzentrum(ed), *Architecture in Austria. In the 20th & 21st Centuries*, Published by the Architekturzentrum, Wien, 2006.

オーストリアの20世紀21世紀の主要な建築と建築家について紹介している。フランクのヒューゴ・ブントルのサマーハウス、ベアー邸、Hoffingergasse 団地の住宅などが記載されている。

⑪ August Sarnitz, *Architecture Vienna 700 Buildings*, Published Springer-Verlag, Austria, 2008.

シュテファン大聖堂(1230) から、ウィーン中央駅(2007以降) に至るまでのウィーンの主要な700の建築作品を含むガイドブックである。その中に、フランクのショル邸、ベアー邸と、集合住宅が紹介されている。

第3節 研究の目的と意義

1-3-1 研究の目的

本研究では、フランクの「住宅作品」の空間的特質について、ウィーンにおける、前期から後期にわたる3住宅作品と、中期から後期にかけてのスウェーデンにおける6住宅作品の平面形態、全体形態、空間の統括手法を分析し、フランクの住宅作品の変遷における空間的特質を明らかにすることを目的とする。

本研究では、数少ない文献をもとに、スウェーデンに残されたフランクの作品について現地調査を主体として、その空間的特質を分析し、その性格を明らかにする。

1-3-2 研究の方法

ウィーンの3住宅作品の空間的特質を明らかにするために、まず、3住宅それぞれについて、平面形態の概要を把握した。その際、特に玄関から個室に至る動線に着目して、内部空間の繋がりを明らかにし、続いて、それぞれの住宅作品における全体形態と内部空間の統合手法を探り、最後に3作品のあいだの差異を空間的特質の変遷として捉え直して考察した。設計図(配置図、平面図、立面図、断面図、改修図)など既存の図面により外観模型や、アクソメトリック図などを作成し、これを分析し、考察した。

スウェーデンのファルステルボアの6軒の住宅(Villa)の住宅作品についても、ウィーンの3住宅と同様に分析を行った。特に内部空間について、動線に着目して分析を試みた。スウェーデンの住宅作品についての纏まった参考文献は1冊のみであったので、2度にわたる現地調査が主要な情報源となった。市の建築担当者の同行のもと現在の所有者の聞き取り調査や、外観や内部の写真撮影を行い、設計図(配置図、平面図、立面図、断面図、改修図)も得ることが出来た。その図面により外観模型や、アクソメトリック図などを作成し、分析し考察した。

こうした分析に際して、「エリア」と「ブロック」という概念を用いているが、「エリア」は、機能的に纏った平面的広がりを、「ブロック」は、形態的に纏った立体的塊を示すものとする。

1-3-3 研究の位置付け

ヨーゼフ・フランクは、近代建築の、時代を代表するオーストリアの重要な建築家の一人であった。ヘルマン・チェヒらの研究から間をおいて、1994年、マリア・ヴェルツィヒは博士論文で、時代の潮流の中でフランクが、それほど評価されなかった経緯や国際的な評価を、建築作品とフランクが記した論文を通して論評している。マリア・ヴェルツィヒの論文は、1戸建の住宅作品を中心に、各建築の内部と外部について、多くの図面を資料として、事実を詳細に述べており、フランクの建築作品と創造理念は概観できる。しかし、内部空間の特質を本格的に分析しているとは言い難い。マリア・ヴェルツィヒが対象としていない、フランクの「住宅作品の空間的性質」について、9住宅作品を取り上げ、それぞれ各住宅の動線に着目して、分析を行った。

ウィーンの3住宅作品について、各平面形態から始めて、空間全体を把握し、全体形態と内部空間の統合手法を探り、3住宅作品の間の差異を空間的性質の変遷と捉え直して考察を行った。空間の統合手法を論じた研究は、他に見当たらない。

ウィーンの3住宅作品は、初期・中期・後期のそれぞれの年代毎に、1作品ずつ選択したために、約20年にわたる間の変遷を確認した。

一方、スウェーデンの6住宅作品は、中期から後期に集中しており、約10年間にわたりデザインされたという作品である。フランクの創造理念を述べた論文「道と広場としての建築」(Das Haus als Weg und Platz, 1931)は、中期には、完成していたと考えられる。平面形態と全体形態を看取することにより、各内部空間におけるその動線を繋ぐフランクの手法を見出す手段として、上記の論文を手掛かりとしたことは、他の論文にはみられない点である。

これまで殆ど紹介されたことのないスウェーデンの6住宅作品を、いわば発掘して分析したと言える。スウェーデンの6住宅に注目することで、フランクの前期から後期に至る作品の一貫性を、多角的にかつ実証的に示すことができていると考えられる。

第4節 本論文の構成

第1章「序論」では、まず初めにフランクに関する博士論文、著作、フランク自身による論文を総覧し検討、ヨーゼフ・フランクの略歴を年表とともに紹介し、研究対象として収集した住宅作品のリストを掲載する。

第2章「ウィーンにおける前期住宅作品から後期住宅への展開」では、ウィーンにおける、フランクの3住宅作品の空間的特質を明らかにする。

第3章「スウェーデンにおける住宅作品について」では、スウェーデンのファルステルボーにおける、フランクの6住宅作品の空間的特質を明らかにする。

第4章「ウィーンとスウェーデンにおける住宅作品の比較」では、ウィーンとスウェーデンの後期の住宅を1戸ずつ選択、比較し、前期から後期に至る作品の空間的特質の一貫性をさらに明確にする。

第5章「結論」では、各章を概観、統括し、ヨーゼフ・フランクの住宅作品の空間的特質について総括、加えて本研究の問題点とこれからの課題を述べる。

注記

- 1) Josef Frank はドイツ語のカタカナ表記「ヨーゼフ・フランク」とする。その他オーストラリアの地名・人名もドイツ語のカタカナ表記とする。
- 2) Architekturzentrum(ed), *Architecture in Austria. In the 20th & 21st Centuries*, Published by the Architekturzentrum, Wien, 2006. pp.364.を参照。
- 3) Mikael Bergquist, Olof Michelsen, *Josef Frank Falsterbovillorna*, Arkitektur Förlag, Stockholm, 1999. pp.7.を参照。
- 4) Lampugnani カタカナ表記『現代建築の潮流』（川向正人訳）鹿島出版、159頁を参照。原書：V. M. Lampugnani, *Architektur und Stadtebau das 20. Jahrhundert*, Stuttgart, 1980.
- 5) Maria Welzig, *Die Winner Internationalität des Josef Frank, Das Werk des Architekten bis 1938*, diss. Wien, 1994. S.8-10.を参照。
フランクの活動時期の区分に関しては、上記ヴェルツィヒの博士論文に示された

ものを採用している。

図版出典

表1-1) Architekturzentrum(ed), *Architecture in Austria. In the 20th & 21st Centuries*, Published by the Architekturzentrum, Wien, 2006. pp.364. 等多くの資料を参考に筆者作成。

第2章 ウィーンにおける前期住宅作品から 後期住宅作品への展開

第2章 ウィーンにおける前期住宅作品から後期住宅作品への展開

本研究で取り上げる、フランクの1910年代、20年代、30年代を代表する3住宅の面積を比較すると、表2-1のようである¹⁾。

表2-1 3住宅の面積比較

| エリア | 区分 | Pa | H | L | Pe | S | 計 |
|--------------|--------------|------------------------|--------------------------|-------------------------|-------------------------|--------------|---------|
| | エリア | パッセージ | ハウスワーク | リビング・ダイニング | パーソナル | サニタリー | 計 |
| | 室名 | 玄関 廊下 ホール 階段 勝手口 | 台所 倉庫 仕事部屋 乾燥室 ｸｰｸ | 居間 食堂 サロン 喫茶室 ホール | 寝室 個室 子供室 書齋 使用人室 | 便所 浴室 更衣室 | |
| ① シヨル邸 | 1階 | 34.872 | 39.379 | 62.405 | | 1.269 | 137.925 |
| | 2階 | 26.831 | | | 77.568 | 15.776 | 120.175 |
| | 3階 | 7.086 | 52.334 | | | | 59.420 |
| | 計 | 68.789 | 91.713 | 62.405 | 77.568 | 17.045 | 317.520 |
| | 延べ床面積に占める占有率 | 21.66% | 28.88% | 19.65% | 24.43% | 5.37% | 100.00% |
| ② バーア邸 | 1階 | 70.668 | 37.580 | 146.042 | | 4.600 | 258.890 |
| | 2階 | 31.761 | | 33.403 | 38.080 | 5.600 | 108.844 |
| | 3階 | 71.148 | | 32.265 | 114.874 | 41.618 | 259.905 |
| | 4階 | 38.074 | | | 90.874 | 25.025 | 153.973 |
| | 計 | 211.651 | 37.580 | 211.710 | 243.828 | 76.843 | 781.612 |
| | 延べ床面積に占める占有率 | 27.08% | 4.81% | 27.09% | 31.20% | 9.83% | 100.00% |
| ③ 第2ブントル邸 | 1階 | 45.908 | 28.823 | 74.963 | 73.887 | 9.188 | 232.769 |
| | 2階 | 13.723 | | | 46.713 | 10.304 | 70.740 |
| | 計 | 59.631 | 28.823 | 74.963 | 120.600 | 19.492 | 303.509 |
| | 延べ床面積に占める占有率 | 19.65% | 9.50% | 24.70% | 39.74% | 6.42% | 100.00% |

第1節 ショル邸の空間的特質

2-1-1 平面形態と動線

台形の敷地に、建物は通りに面して、北を正面に、左右対称を南西角で崩した「台形」の平面形態が配置された²⁾。1階西側には、入口と螺旋階段とその両側にある台所とクローク、南西角に張り出した硝子窓のある食堂がある。中央のホールは、北側は居間として、南側は通路として、機能する。東側の3段(約45cm)高い床は、室内庭園となり、折り返し階段が置かれ、階段を挟んで仕事部屋がある。1階は、台所、食堂と仕事部屋だけが壁で仕切られ、その他の空間は、最小限の耐力壁で区画され、また床の高さを変えて機能別に分節されている。ホールは、食堂や室内庭園へも視覚的に広がりがあるよう計画されている(図2-2.a)。2階は控室を囲んで、子供室や寝室、使用人室などの個室と浴室がある(図2-4.b)。3階は、倉庫や乾燥室など作業部屋群となっている(図2-2.c)。建物は、1階のホール以外の各室と、2階の3個室や浴室、3階の両端の作業部屋2室は直角でないコーナーを持つ変形の空間である(図2-2.a,b,c)。

次にショル邸の動線について述べる。1階西側中央付近の入口から、クロークを経て、ホールの南側を通り東側の折り返し階段まで、家を通り抜ける主要な水平動線がある。さらにホールの南のエリアは、庭に向けて開かれており外部へ動線が繋がる。同じホール内の北側には居間的な空間がある。屋内庭園からも庭へ繋がる動線がある。東側の折り返し階段は、1階のホールから室内庭園を経る水平動線を、この家のメインの垂直動線として2階までを繋いでいる。もう一方の垂直動線として、西寄りの螺旋階段があり家族や使用人用として、1階の入口や台所、クロークから、3階までを繋いでいる(図2-3)。

2-1-2 全体形態と内部空間の統合手法

ショル邸の全体形態は、台形の平面形態を積み上げ、テラス状に纏まったひとつの「ブロック」を成している(図2-2.d,e)。簡素で閉鎖的な正面の窓は、左右対称の全体形態の建物の立面に、非対称に配されている(写真2-1.a)。正面とは対照的に後方南立面は、庭へ開放され、1階の食堂だけが南西角へ張り出し、上階はテラスとなっている(写真2-1.b)。これらの変形により立方体に近い基本形

を崩している。建物全体は、下地の煉瓦の感触が伝わる薄い白色のスタッコ塗りの外装である。

内部空間の統合はアクソメトリック図で提示するように動線の要であり、視覚的にも水平に広がるホールが、約45cm高い床に置かれたメインの階段の垂直動線へも繋がっていくことでなされている(図2-3)。

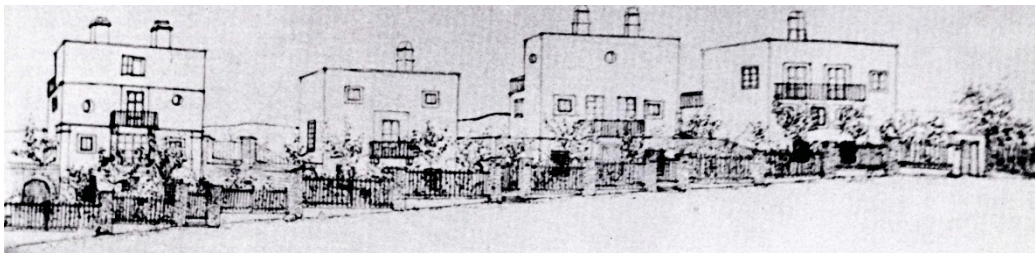
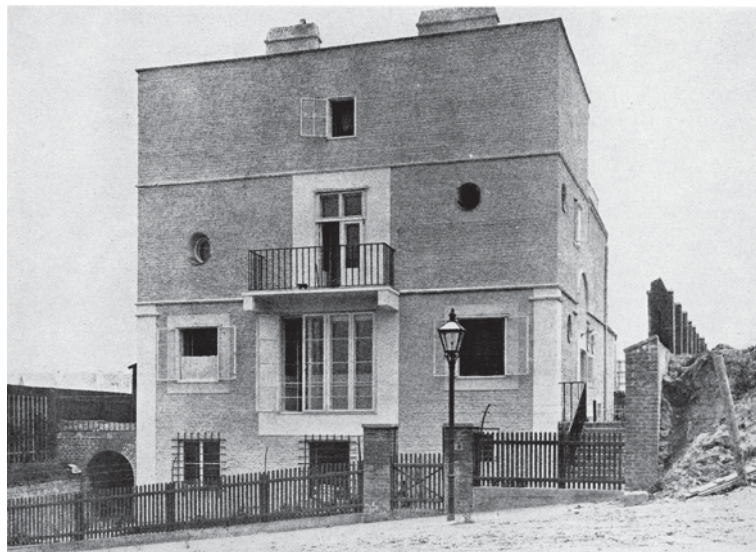


図2-1 ヴィルブラントウガッセ景観



a. 正面・北面 街路側

写真2-1 (前半)



b. 背面・南面 庭側

写真 2-1 (後半) ショル邸の外観写真

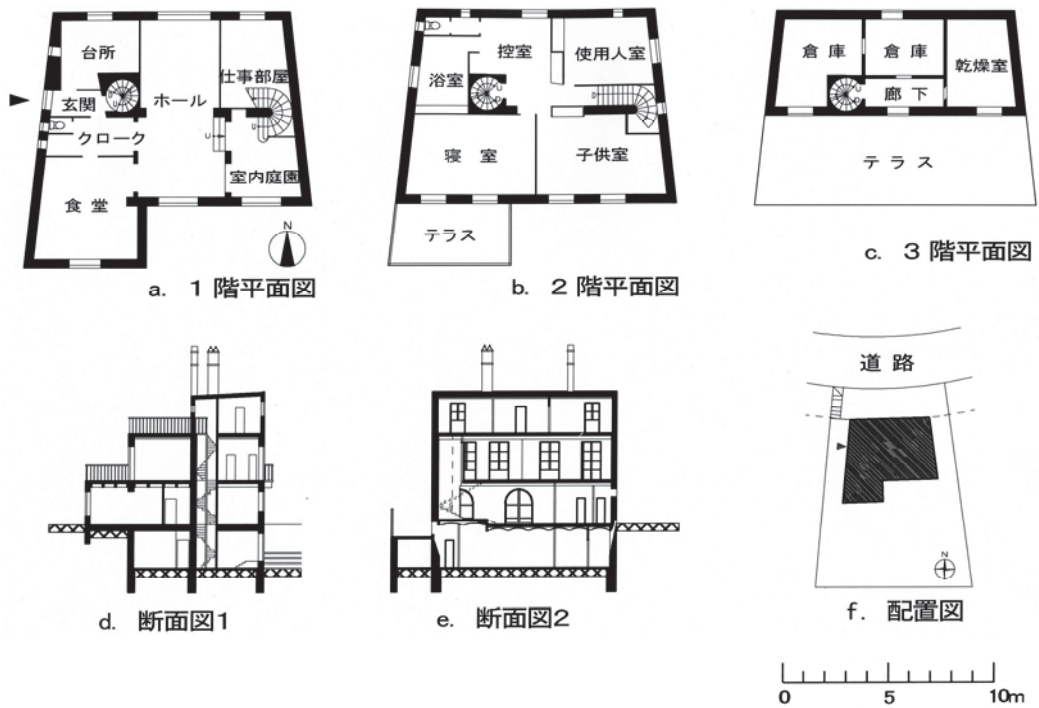


図 2-2 ショル邸図面

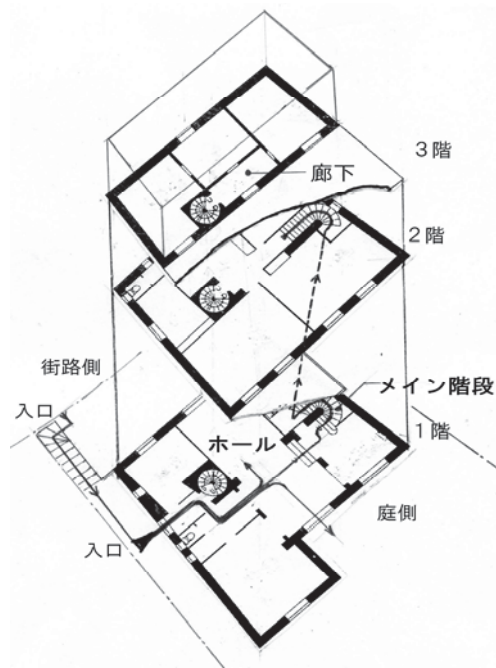


図 2 - 3 ショル邸 動線の分析

第 2 節 ベーア邸の空間的特質

2 - 2 - 1 平面形態と動線

敷地は、奥に長い四辺形で、建物は北西を正面として横長の切欠きのある変形の「長方形」の平面形態が道路寄りに配置され、後方は広い庭である。ベーア邸は、東角に切欠きのある「長方形」の平面形態を、地下を除き 4 層積み重ねたものである(図 2 - 4.a-d)。玄関から個室に至るまでの動線を踏まえて説明すると、まず、街路側の正面入口に直結して、2 層分を吹き抜ける天井の高いホールがある(写真 2 - 2.c)。ホール南東面には、庭に張り出したガラス窓に囲まれた座る場所がある。庭側には、2 層分を吹き抜ける食堂が隣接し、反対の、ホールに置かれた階段上には、1 階より約 125cm 高い床面に、テラスが付属した見晴らしの良い居間がある。勝手口に近接して、回り階段と周囲には配膳室や台所があり、食堂へと繋がっている(図 2 - 4.a)。2 階には、この家の中心と言える、開放的な音楽サロンと丸窓のある喫茶室(写真 2 - 2.d)と書庫、使用人室がある(図 2 - 4.b)。3 階は来客用寝室が連なり、広い浴室や体育室があり寛ぎの空間となる。庭側に

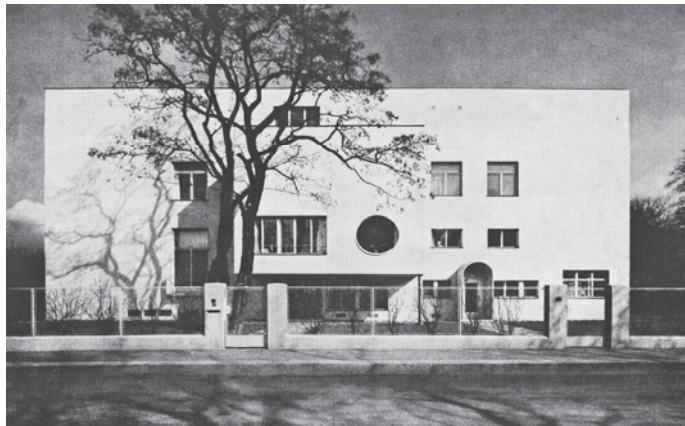
は朝食用食堂と、テラスがある(図2-4.c)。4階は、家族用個室があり、屋上テラスが配置されている(図2-4.d)。

要するにベア邸の動線について、まず、正面入口から繋がる動線は、中央のホールで、食堂と居間の2方向に分岐する。ホールに置かれた階段は主要な垂直動線として計画され、ホールから90度折れて、団欒の空間である開放的な居間へ繋がり、その一端を通過して、2階の音楽サロン踊り場へと直線的に導かれる。さらに動線は、音楽サロンから上って折り返した直後に3階に至るといふ、意外性有る展開となっている。3階と4階の個室群を結ぶ、廊下の水平動線を、階段周りのホールが集め、階段へ繋ぐ。もう一方の垂直動線としての回り階段は、家族や使用人用として、1階から主に家事作業のためのエリアを経て4階の家族の個室までを繋いでいる(図2-5)。

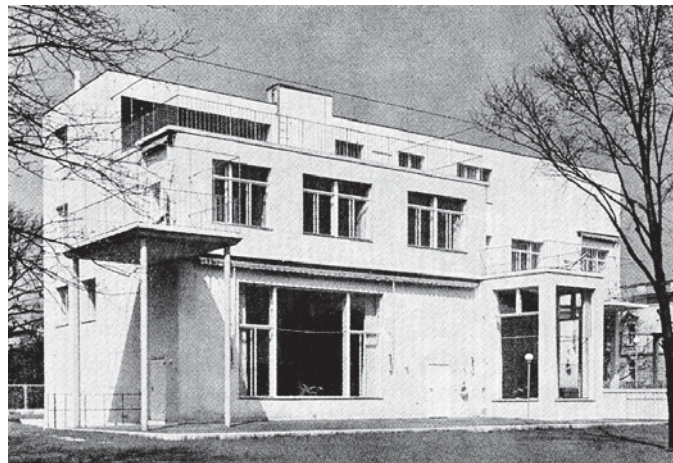
2-2-2 全体形態と内部空間の統括手法

ベア邸の全体形態は、「長方形」を地上4層分積みあげ、凹凸をともないながらも、纏まったひとつの「直方体のブロック」を成している(図2-4.g)。中央に大きい出窓のある正面は、プライバシーを確保するかのよう閉鎖的であるが(写真2-2.a, 図2-4.e)、後方の立面は開放的なデザインである(写真2-3.b, 図2-4.f)。この建物はフランクの生涯における代表的な作品とされる³⁾。

内部空間の統合は、アクソメトリック図で提示するように、吹き抜けをとまなう中央ホールと、そこに配置された変化に富んだメインの垂直動線としての階段が約125cm高い居間の床へと繋ぎ、内部空間の視覚的な、また動線的な要として機能することでなされている(図2-5.b)⁴⁾。



a. 正面・北東面 街路側



b. 背面・南西面 庭側



c. 1階ホール(吹き抜け)



d. 2階 音楽サロン

写真2-2 ベーア邸の外観および内部写真

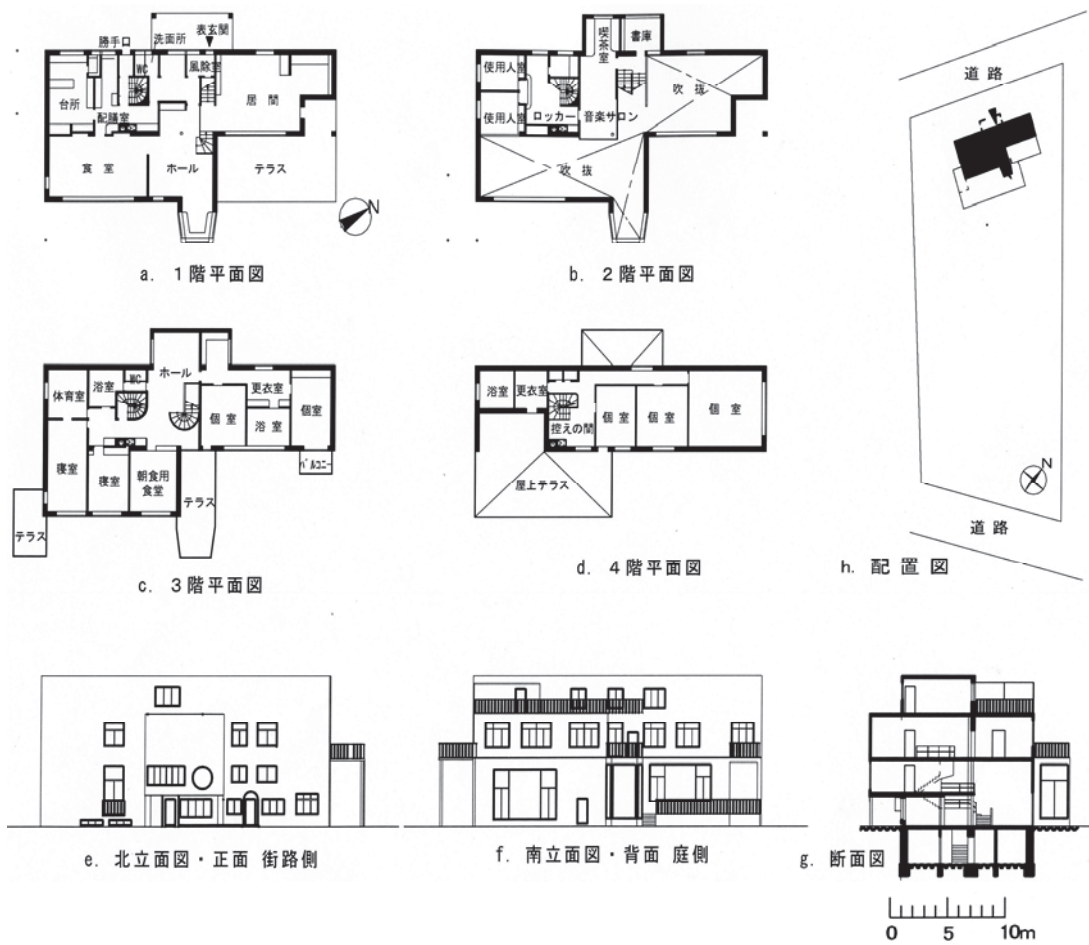


図 2 - 4 ベア邸図面

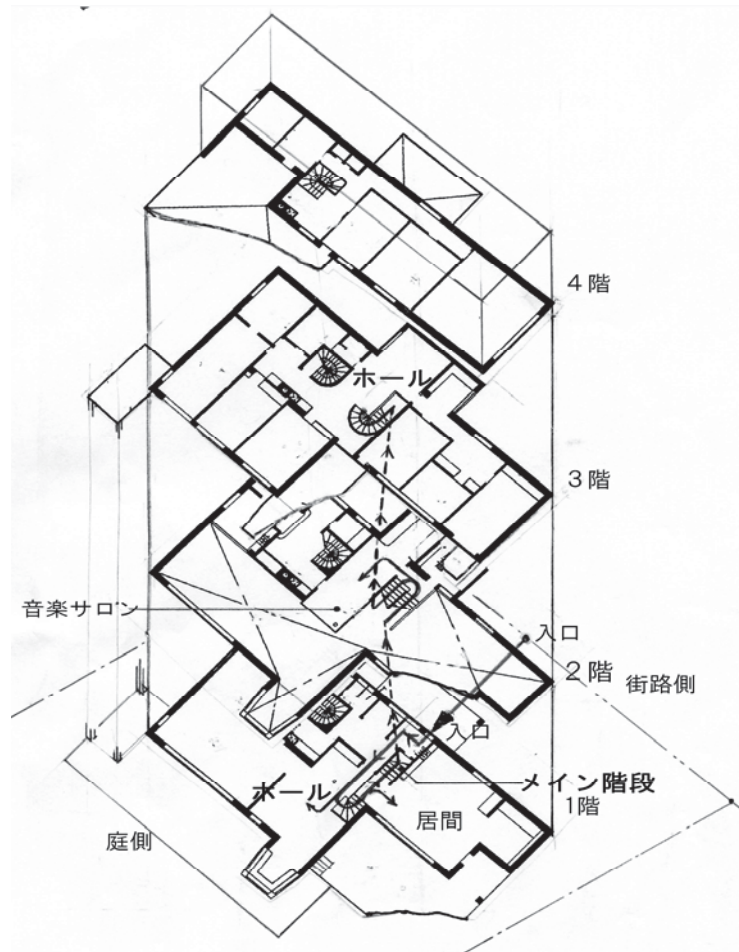


図 2-5 ベア邸 動線の分析

第 3 節 第 2 ブンツル邸の空間的特質

2-3-1 平面形態と動線

敷地は、街路に面した奥に長い長方形で、中庭を囲む、左右対称を崩した、基本的には「コの字型」に構成された平面形態をもち、1階の「コの字」の各部分と2階部分が、それぞれに大別可能な4つの、関連する機能別のエリアに分割されていることが分かる⁵⁾。1階には、玄関ホールとキッチンなどを含む西側のハウスワークエリア、一部、庭へ張り出しのあるリビング・ダイニングを含む北側のエリア、1階の床より約44cm高い床面の、廊下と3個室の南側のエリアがある(図2-6.a)。2階には、プライベートな3個室のある2階西側のエリアがあり(図2-6.b)、この個室のエリアには、浴室が付属する。「コの字型」の懐には中庭が

配され、ここは、前面道路からは隠された私的な憩いの空間となっている(写真2-3.b)。

次に第2ブンツル邸の動線は、街路から直進し南西角の小さな入口(写真2-3.a)から控えの間へ入り、直角に左手へ曲ると、玄関ホールへ出る。ここで動線が分岐する。ホールを経由して左手へ進むと、居間・食堂へ至り(写真2-3.c)、右手に進み、階段を3段上がると小さい踊り場がある(写真2-3.d)。左手には廊下があり、3寝室に繋がっている。この踊り場から右手の階段を上がると、2階には、中庭に面するテラスのある2個室へと繋がる。垂直動線は、ホール内に位置しながら、1階と2階の廊下とを結んで、動線上の直接的結節点となっている。以上のように、1階の各エリアは、中庭を囲む玄関ホールや廊下など通路となるエリアの動線で水平的に繋がれ、1階と2階のエリアは、動線が分岐する玄関ホールに開かれた階段により、垂直的に繋がれている(図2-7)。

2-3-2 全体形態と内部空間の統括手法

上記のエリアは、それぞれ、異なる寸法の直方体のブロックをなし、概ね「コの字型」に組み合わせられており、外形は、左右対称ではない。1階では、入口から控えの間や、玄関ホールと廊下、階段などを含む西側から庭の面に至るエリアと台所が1ブロックを形成する。さらに北側には、一部張り出したコーナーがある。居間・食堂が1ブロック、南側に、1階の床より高い床面にある廊下と2寝室が1ブロックを形成している。2階は、西側のプライベートな2個室が1ブロックを成す。各ブロックは、3つの床レベルで分節されそれぞれ機能的纏まりを与えられていた。第2ブンツル邸の全体形態は、こうした独立性の高い4つの直方体の異なったブロックを、「コの字型」に分散的に配したものである。

内部空間の統合は、アクソメトリック図で提示するように、4ブロックからなる分散的空間を、玄関ホールと、約44cm高い床へ導くオープンな階段から、2階へ繋がる垂直動線が、この住宅の3つの床の高さを結ぶ動線の要として働くことでなされている(図2-8.c)⁶⁾。



a. 正面玄関



b. 中庭



c. リビング・ダイニングコーナー



d. 階段

写真 2-3 第2ブントル邸の外観および内部写真

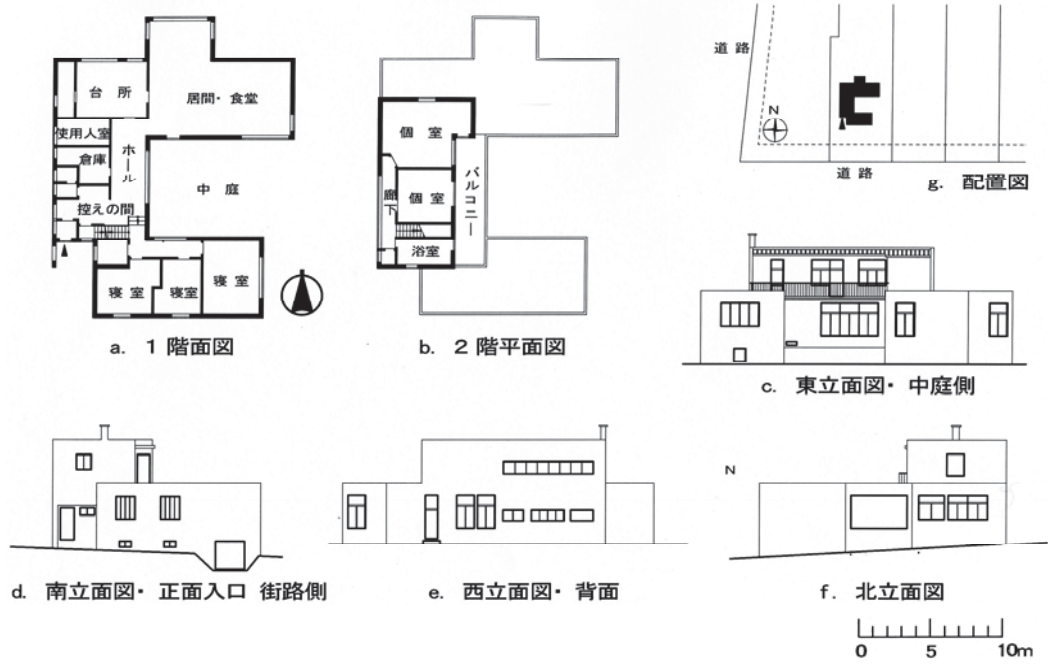


図 2-6 第2ブンツル邸図面

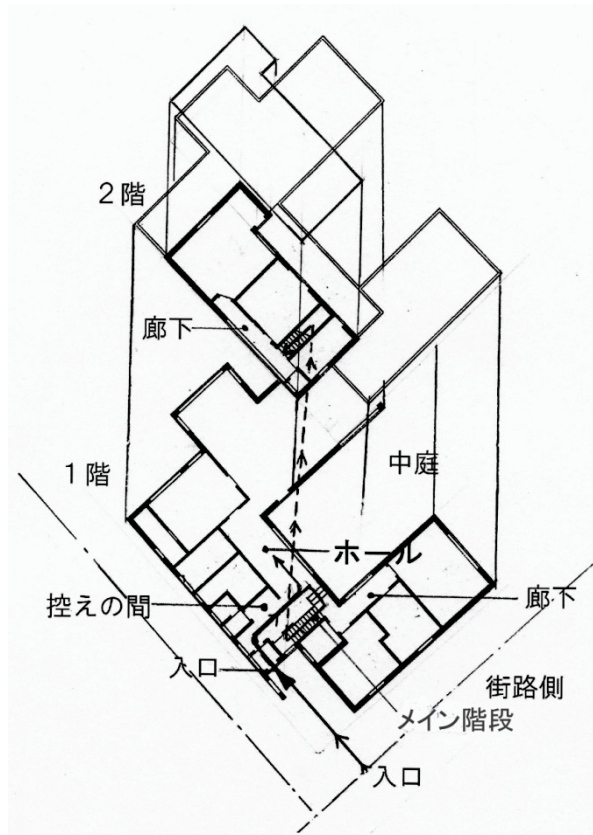


図 2-7 第2ブンツル邸 動線の分析

第4節 3つの住宅作品のあいだの差異性と共通性

2-4-1 差異性

3作品のあいだには、平面形態と全体形態に関する下記のような明瞭な差異が認められた(図2-8. a, b, c)。

(1) 平面形態

ショル邸は左右対称の「台形」で、ベア邸の各階はそれぞれ異なった切欠きを持つ「長方形」、第2ブンツル邸は「コの字型」である。

(2) 全体形態

ショル邸は「テラス状立方体ブロック」、ベア邸は「大きな直方体ブロック」、第2ブンツル邸は「異なる直方体ブロックの組み合わせ」である。

2-4-2 共通性

上記のような差異性にもかかわらず、平面形態と全体形態に関する共通として以下の(1)が見出せる。他に、動線に関する4つの共通性(2)~(5)も見出せた。

(1) 3作品の外形は、それぞれ基本となる形態を持ちながら、平面形態・全体形態いずれにおいても、その基本形を認識出来る範囲で、変形を加えている。変形の手法としては、基本形に対して、張り出しや、切欠きを施す方法、左右対称を崩す方法が認められる。

(2) 1階には、水平動線が集まる広いホールと、ホールと一体、または、ホールと視覚的に一体感のあるメイン階段が存在する。

(3) 垂直動線として、基準階(1階)より約44cm~125cm高い床を經由して、上階へ上るメイン階段が設定されている。

(4) 水平動線は、廊下から、階段周りのホールに繋がれ、垂直動線としての階段へ至る。

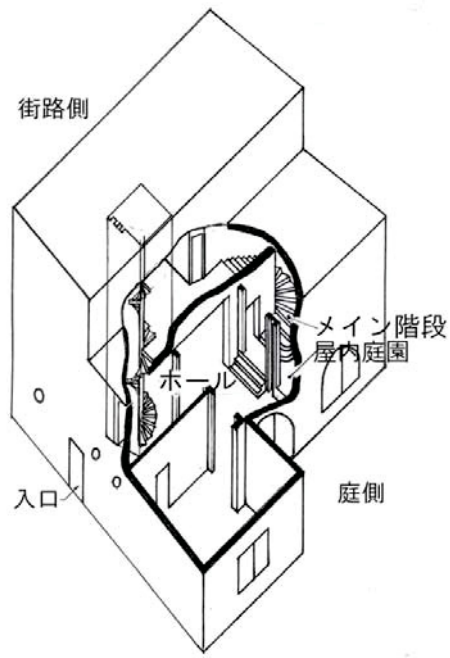
(5) 3住宅は、ホールや居間から庭へ、また個室からはテラスへと、内部から外部空間へと繋がる広がりのある空間構成をもつ。

2-4-3 ポリユームの変遷

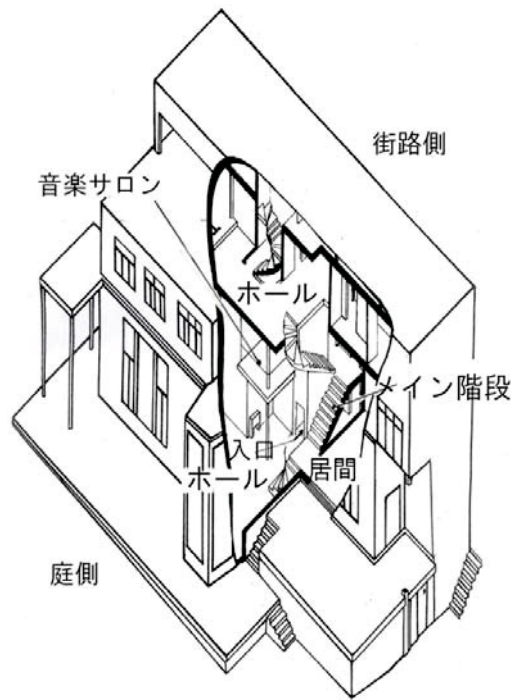
本研究では、1910年代・20年代・30年代を代表するフランクの住宅作品を取り上げて考察したが、その他のフランクの住宅作品をあわせて考えると、図11の初期の第1ブンツル邸が寄棟の1ポリユームであることや、図2-10の後期のウェッチェ邸(Villa Wehtje, 1936)が「コの字型」の平面形態であることなどを想起すれば⁸⁾、3住宅作品のあいだの変化が、フランクの住宅作品の大きな変遷の傾向を示していることが分かる。すなわち、フランクの住宅作品は、初期の概ね左右対称を保持した1ポリユームの全体形態から、中期の1ポリユームの一部を崩した全体形態へ、その後、後期の分散的形態へと移って行ったのである⁹⁾。

全体形態を1ポリユームとし、その閉じた内部空間において、開放的な階段により様々な床レベルを繋ぐというショル邸やベア邸の手法は、アドルフ・ロースのラウムプラン(Raumplan)がもつ、スペースを節約するという近代建築の合理性に通じるものがある¹⁰⁾。フランクは、初期から中期において、ロースの手法を次第に崩しながらも継承した。しかし、論文「道と広場としての住宅」ではすでに中期のベア邸を例として、機能性だけでは解決出来ない、空間の大きさや形について述べている。

中期から後期に至るなかで、モダニズムから離脱するデザインとも言える第2ブンツル邸のような、独自の分散的全体形態の内部に、垂直動線を繋ぐ手法を創出していったと考える。

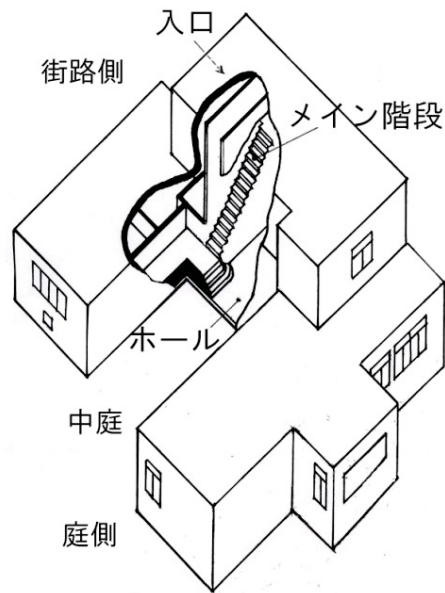


a. シヨル邸



b. ベア邸

図 2 - 8 (前半) 全体形態と垂直動線としての階段・ホール (アクソメトリック図)



c. 第2ブンツル邸

図2-8(後半) 全体形態と垂直動線としての階段・ホール (アクソメトリック図)



図2-9 ブンツル邸図面 (ローアオーストリア, 1914)

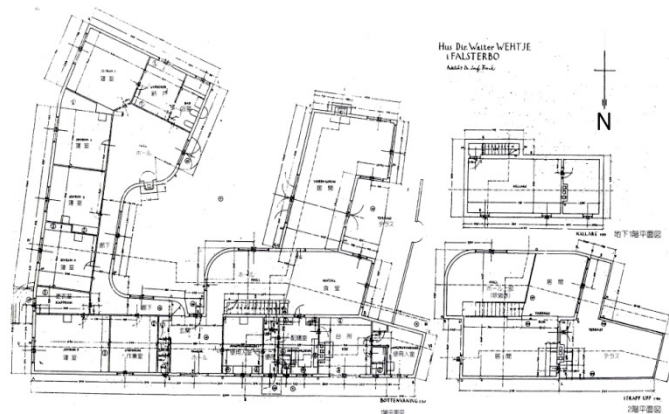


図 2-10 ウェッチェ邸図面(ファルステルボー, 1936)

第5節 小結

各住宅作品の動線の分析により、内部空間の繋がりが明確になり、平面形態・全体形態と内部空間の統合手法について、各住宅作品間の差異と共通性を把握した。この差異から、ヨーゼフ・フランクの住宅作品の空間的特質の変遷を見出すことが出来る。

平面形態は、初期のショル邸では、1910年代の定形とも言われる矩計から、「台形」を創出し、中期のベア邸では、異なる切欠きを持つ「長方形」を、各階の床として積み重ね、後期の第2ブンツル邸では、四辺形でない平面形態、すなわち異なる長方形を「コの字型」に組み合わせた平面形態へ変化していた。

全体形態は、ショル邸では、伝統的な「立方体に近いブロック」であるが、左右対称を崩す試みをなし⁷⁾、ベア邸では、正面は閉鎖的で、背面は変化の多い内部空間が表出するような、「大きな直方体のブロック」を創造し、第2ブンツル邸では、「機能別ブロックを組み合わせた分散的形態」へと変化していた。

3住宅作品の内部空間は、ホールとメイン階段とが連携しながら、動線の要として、高さの異なる床を空間的に統合していたが、より詳細には、初期のショル邸から中期のベア邸、後期の第2ブンツル邸へと至るなかでホールとメイン階段とが、一体性を高めていることが分かる。

これとは対照的に、平面形態と全体形態は、初期・中期から後期に至るなかで

分散化する傾向がある。

すなわち、シヨル邸では、〈内部におけるホールとメイン階段の一体性〉が相対的に弱く、〈全体形態における纏まり〉は強い。第2ブンツル邸では、〈内部におけるホールとメイン階段の一体性〉が強く、〈全体形態における纏まり〉は弱い。ベーア邸では、〈内部におけるホールと階段の一体性〉、〈全体形態における纏まり〉ともに強い。内部におけるホールとメイン階段の一体性と、全体形態における纏まりを同時に達成したのがベーア邸であったと言える。

注記

- 1) 3住宅作品の面積は、文献に記載された図面から筆者が算出したものである。
- 2) アドルフ・ロース(Adolf・Loos, 1870～1933)のシヨイ邸(Scheu House, 1912)との類似を指摘される。テラス状の外形は類似しているが、シヨル邸では、階段状テラスが街路を背に庭側へ向けて置かれるが、シヨイ邸では、テラスと街路・庭との関係が90度回転している。
- 3) フランクの作品にふれた多くの文献で、このように評価されている。
Architekturzentrum(ed), *Architecture in Austria. In the 20th & 21st Centuries*, Published by the Architekturzentrum, Wien, 2006, S. 289. 参照。フランクの代表的住宅作品として、上記書籍にも掲載されている。
- 4) ベーア邸の完成後1931年に出版されたフランクの論文「道や広場としての住宅」
“Das Haus als Weg und Platz”には、ベーア邸のデザインを引き出した動線に関する独自の理念が記されている。一部を引用しておく。「家の中で一番大切なのは階段である。階段は片道でなく続いている。(中略)。階段の形は小さくならないように、また曲がることが大切である。曲がることは、スペースのためでなく階段を続けるためである。(中略)理想的な家は、様々な考えがあるが、庭の入り方はどうするか、家の入口はどう開けるか、玄関ホールはどんな形にするか、コート置き場から居間までどのようにして行くか、座る場所と窓をどうアレンジしたか、そのような問題の回答は部分的なものである。部分から全体の家をつく

る。これが現代建築である。」以上の理念がベア邸のホールとメイン階段に具現していると考えられる。

- 5) 同じ施主のためにフランクは第2ブンツル邸以前、シヨル邸とほぼ同じ時期に第1ブンツル邸をデザインしている。これは、屋根勾配のきつい1ボリュームの田舎家として郊外に建てられた。代表作のヴィラ・ベア Villa Beer (1928~30)、ホフマンやロースの住宅作品も、屋根形状のヴァリエーション、テラスの付加にかかわらず、いずれも矩形を基本としている。
- 6) 拙稿、「第2ブンズル・ハウスとヴィラ・ウェッチェの平面計画について」日本建築学会 2011 年度大会、学術講演梗概 753 頁を参照。
- 7) フランクは、伝統的な建築形態を無視していなかった。ヘルマン・チェヒ「ヨセフ・フランクに寄せて」(後藤美恵訳)『都市住宅』1983 年 4 月号、12~13 頁を参照。ちなみに、同じフランク初期に建てられ、シヨル邸と同じ通りに面した作品シュトラウス邸 (Strauss House, 1913~1914) の平面は、矩形である。
- 8) これはスウェーデン南端のリゾート地にデザインされたサマーハウスである。変形の敷地に従って、矩形の平面形態を離れた曲線を含む「コの字形」の平面を持つ。拙稿「ヨセフ・フランクのスウェーデンにおける建築作品の空間特質に関する研究—空間展開と動線の設計手法」、日本インテリア学会論文報告集 21 号 2011 年 3 月、93~100 頁、及び、Mikael Bergquist, Olof Michelsen, *Josef Frank Falsterbovillorna*, Arkitektur Forlag, 1999. を参照。
- 9) フランクは、1940 年代、女性の友人ダグマー・グリルのために、スケッチやコメントによって、不規則な平面形を持つ 13 の住宅プランを提供した。Mikael Bergquist, Olof Michelsen, *Accidentism Josef Frank*, Birkhäuser—Publishers for Architecture, 2005. を参照。類似のアイデアを持つものとして、同時代のドイツ表現主義の建築家フーゴ・ヘーリング (Hugo Häring, 1882~1958) による変形平面の建築が著名である。フランクはヘーリングの影響を受けたとヴェルツィヒは分析するが、ロングによる反論もある。Welzig, *op. cit.*, S219-226、および、Long, *op. cit.*, pp. 208. を参照。
- 10) 伊藤哲夫、「アドルフ・ロース」(SD 選書) 鹿島出版会、1980 年、168 頁~185 頁を参照。

図版出典

表 2-1) 資料をもとに筆者作成。

写真 2-1) Johannes Spalt, Hermann Czech, *Josef Frank 1885-1967*, Hochschule für Angewandte Kunst, 1981, S. 16-17. を複写。

写真 2-2. a, b) Professor Max Eisler, “Ein Wohnhaus von Josef Frank und Oskar Wlach, Wien “ in *Moderne Bauformen*, Monatshefte, für Architektur und Raumkunst, XXXI, 1932, S. 88, 91. を複写。

写真 2-2. c, d.) Christopher Long, *Josef Frank, Life and Work*, The University of Chicago Press, 2002, pp. 148. を複写。

写真 2-3. a, b, d) Long, *op. cit.*, pp. 201. を複写。

写真 2-3. c) Spalt and Czech, *op. cit.*, S. 46. を複写。

図 2-1) Ibid. S. 15. を複写。

図 2-2) Ibid. S. 18 掲載の図面を筆者リライト。

図 2-3) 図 2-2 をもとに筆者作図。

図 2-4) Josef Frank, “Das Haus als Weg und Platz” in *Journal Baumeister*, Nr. 29, 1931, S. 317, 319, 321. 掲載の図面を筆者リライト。

図 2-5) 図 2-4 をもとに、筆者作図。

図 2-6) Ibid. S. 18, 46. 掲載の図面を筆者リライト。

図 2-7) 図 2-6 をもとに筆者作図。

図 2-8. a, c) 図 2-2, 図 2-6 の図面をもとに筆者作図。

図 2-8. b) Nina Stritzler-Levine (ed.), *Josef Frank Architect and Designer: An Alternative Vision of the Modern Home*, Published for The Bard Graduate Center for Studies in the Decorative Art, New York, by Yale University Press, New Haven and London, 1996, pp. 88. をもとに筆者作図。

図 2-9) Spalt and Czech, *op. cit.*, S. 13. を複写。

図 2-10) Bergquist and Michelsen, *op. cit.*, pp. 58. を複写。

第3章 スウェーデンにおける住宅作品について

第3章 スウェーデンにおける住宅作品について

第1節 ファルステルボー(Falsterbo) とフランクの6軒のヴィラ¹⁾について

3-1-1 ファルステルボーの位置

1920年代の中頃この地域にヴィラ建設の時代が始まり、ヨーゼフ・フランク²⁾をはじめ多くの建築家によりヴィラはデザインされた。1936年シーグルド・レヴェレンツ(Sigard Lewerentz 1885~1975)³⁾のデザインのヴィラが近くに完成し2010年も現存している。



図3-1 ファルステルボーの位置

3-1-2 ヨーゼフ・フランクデザインのヴィラの配置

ファルステルボーにおける6住宅作品は、図3-2のように配置された⁴⁾。



1. ヴィラ・クラーツン
2. ヴィラ・カールステン
3. ヴィラ・セット
4. ヴィラ・ローフトマン
5. アトリエ・エステリング
6. ヴィラ・ウェッチェ

図3-2 ヨーゼフ・フランクデザインのファルステルボーのヴィラ配置図

3-1-3 6軒のヴィラの建築概要

6軒のヴィラの概要を表3-1に示す。

表3-1 ヨーゼフ・フランクデザインのファルステルポールにおけるヴィラ概要一覧

| | 作品① | 作品② | 作品③ | 作品④ | 作品⑤ | 作品⑥ |
|------|-------------------------|----------------|----------------|----------------|--------------------|----------------------|
| 名称 | ヴィラ・クラーン | ヴィラ・カールステン | ヴィラ・セット | ヴィラ・ローフトマン | アトリエ・アンデジュー・エステリング | ヴィラ・ウエッチェ |
| 建築年 | 1924-1927 | 1927 | 1934 | 1934 | 1934 | 1936 |
| 平面型 | 矩形 | 矩形 | 矩形 | 矩形 | 矩形 | 変則形 |
| 延床面積 | 188.96㎡ | 105.16㎡ | 94.45㎡ | 96.61㎡ | 不明 | 471.96㎡ |
| 階数 | 地下1階、地上3階 | 地下1階、地上2階 | 地上2階 | 地上2階 | 平屋 | 地下1階、地上2階 |
| 天井高 | 2.550 2.450 3F 2.250 | 2.200 2.200 | 2.250 2.250 | 2.300 2.200 | 不明 不明 | 2.450~ 25.70 2890 |
| 屋根形式 | 陸屋根 | 寄棟 | 寄棟 | 寄棟 | 陸屋根 | 陸屋根 |
| 外壁 | 煉瓦 | 不明 | アルミニウムパネル | アルミニウムパネル | 不明 | アルミニウムパネル |
| | 煉瓦色 | 白色(元・薄いピンク) | 白色(元・薄いピンク) | 白色(元・薄いブルー) | 白色 | 白色(元・薄いピンク) |
| 構造 | 1階煉瓦 2階木造 | 木造 | 木造 | 木造 | 木造 | コンクリート造 |
| 備考 | 改修していない | 1930フランクが改修 | 2008 改修 | 改修 | 1998 全面改修 | 1977 改修 |

第2節 6軒のヴィラの空間的特質

3-2-1 ヴィラ・クラソン Villa Claeson の空間的特質

一連の設計の中で最初のもはクラソン Claeson の「夏の家」であった。依頼人はフランクの義理の弟アクセル・クラソンと妻のシグンヒョールド・クラソンであり、1924年から始めて1927年に完成した。

その「家」はテラスと屋上の見晴らし台から海を望んで砂の荒地の上にボートのように建っていた。建物の外観は、窓の寸法を統一し形や適切な配置により整然とした印象である。

1階入口前の広いテラスから入るとホールがありそこから螺旋階段を上り、2階のテラスへ、また3階のキャビン風小屋のあるテラスまで直接行くことができる。1階の内部空間は、シンプルな大きな窓から光が入り、あたかもインテリアとエクステリアの境を取り外したように、自然と融合出来るように計画されている。2階のベッドルームは、他の階から影響されることはない。階段を上がると一転して3階のテラスでは、外気の中で暖炉を囲んで長い夏の夜に周辺の風景を楽しむことができる。この建物は殆ど改修されていない(写真3-1、写真3-2、図3-3、図3-4、図3-5)。



a. 正面 道路側



b. 背面 庭側

写真3-1(前半) ヴィラ・クラソン外観写真



c. 1階階段



d. リビングコーナー

写真3-1(後半) ヴィラ・クラークソン 内部写真

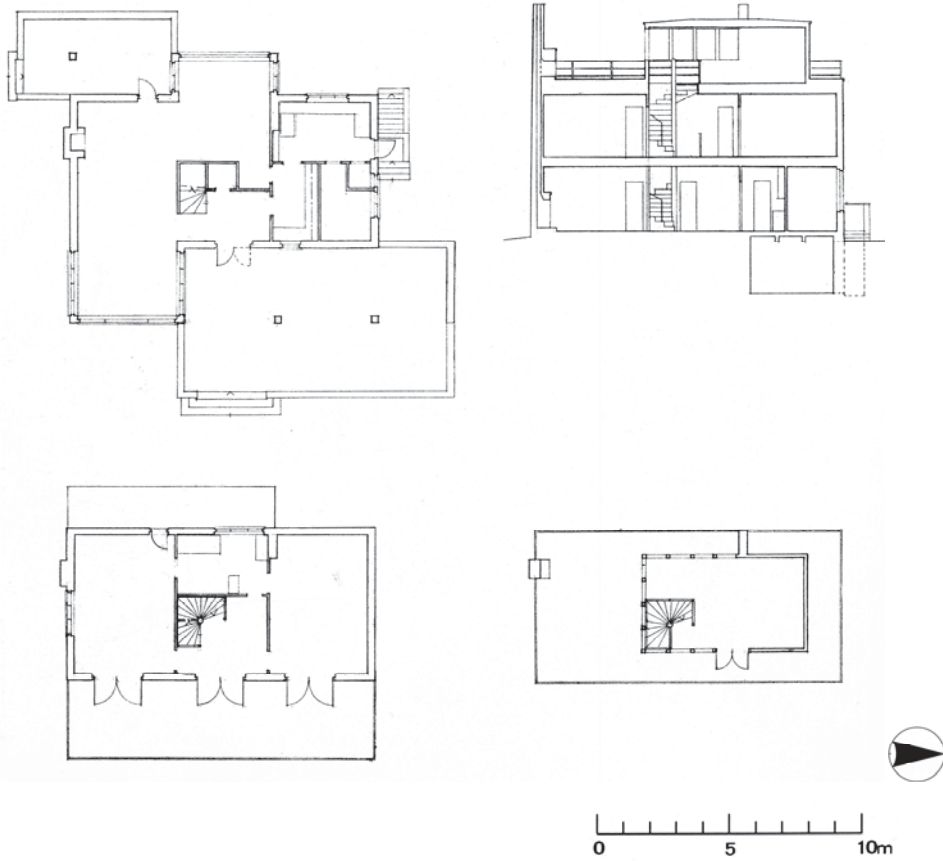


図3-3 ヴィラ・クラークソン平面図・断面図

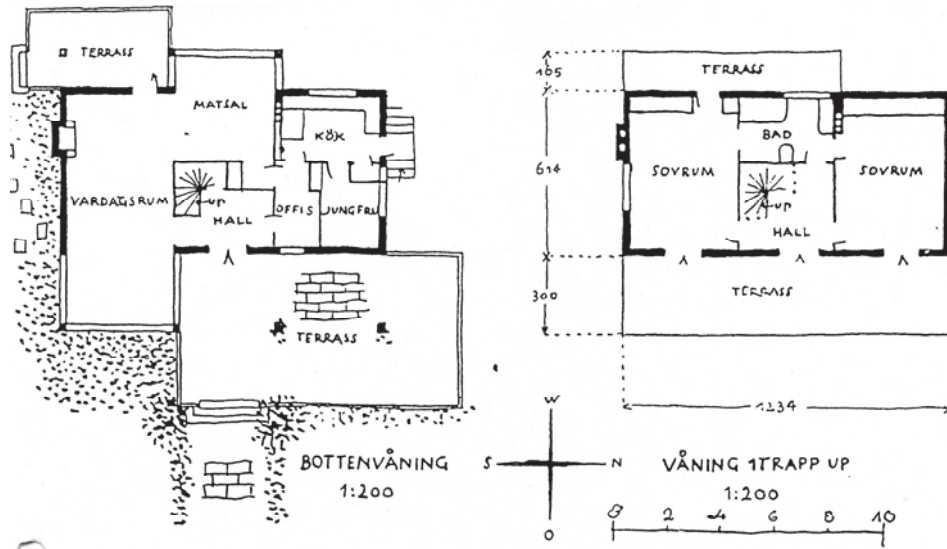


図 3-4 ヴィラ・クラークソン平面図スケッチ

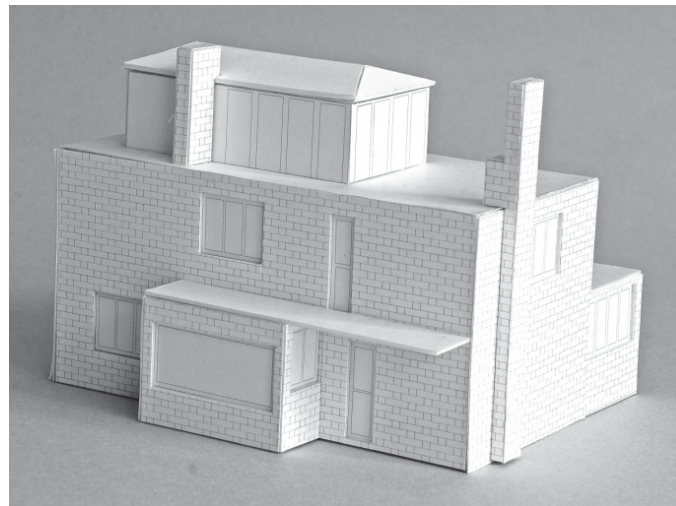


写真 3-2 ヴィラ・クラークソン全体形態(模型)

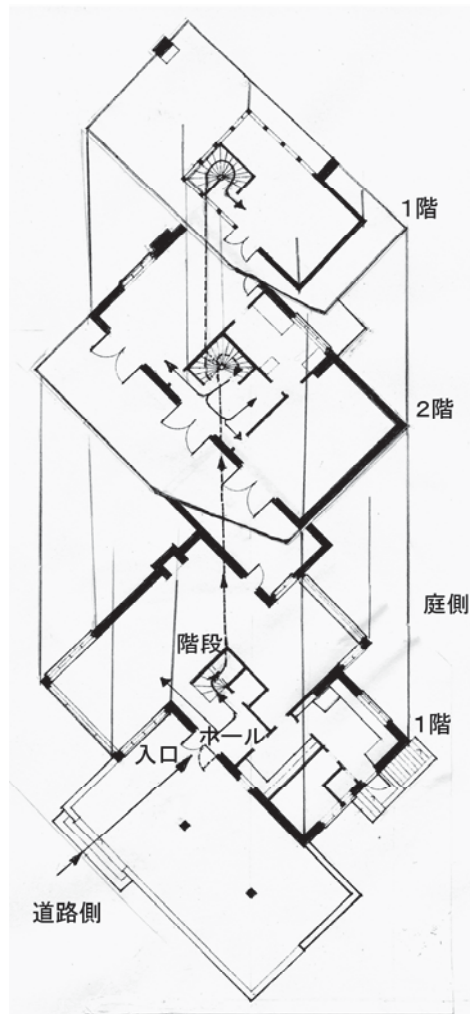


図3-5 ヴィラ・クラースン 動線の分析

3-2-2 ヴィラ・カールステン Villa Carlsten の空間的特質

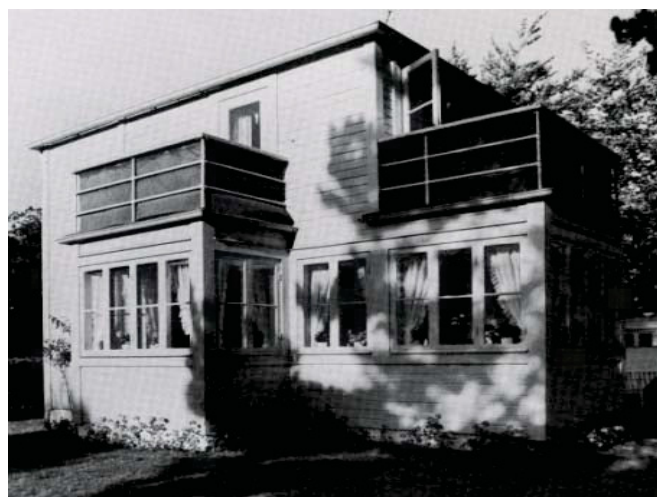
1927年小さい木の「家」カールステンは、アラン・カールステンと妻のシグネのため建てられた。最も海に近い位置にあり2階のテラスの一つからエーレスンド海峡の景色が見え、もう一つのテラスからバルト海が見えた。ピンク色の建物で4つの部屋があった。顧客は小さい「家」を依頼し完成したが、1年以内にフランクにより北の方へ増築された。

現在の住人(フランス人)はフランクの友人からオリジナルの家具付でこの家を購入した。地形の状況からも、この家は遠くの景観を楽しむステージとして機能している。

小さな玄関ホールを入ると南側の広いリビングコーナーへ繋がっており、そのコーナーの窓際には移動可能な家具が置かれている。さらに西側の窓際には固定した厚い詰め物の椅子がはめ込まれた居心地の良いコーナーがある。この空間の中心は暖炉である。2つの出窓のあるコーナーは、矩形の箱から、2つの小さい箱を引き出したように見える。暖炉の手前で階段を上ると上階の2つのベッドルームへ行くことができる。メインのベッドルームは、東側と西側のテラスから光と風が通る空間である。もう1室にはテラスは設けられていない(写真3-3、写真3-4、図3-6、図3-7)。



a. 道路側



b. 背面・庭側

写真3-3(前半) ヴィラ・カールステンの外観写真



c. 1階ダイニングコーナー



d. 1階リビングコーナー

写真3-3(後半) ヴィラ・カールステンの内部写真

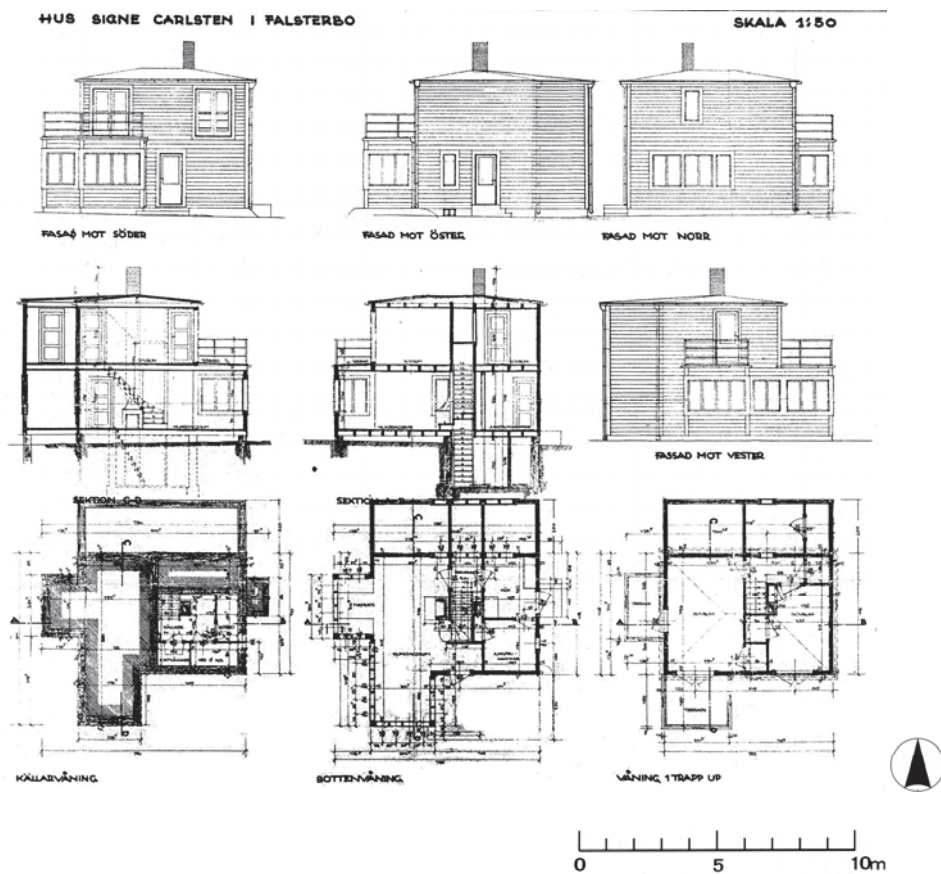


図3-6 ヴィラ・カールステン 平面図・立面図・断面図

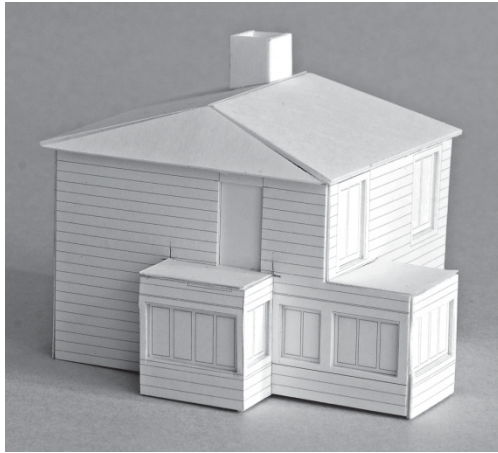


写真3-4 ヴィラ・カールステン全体形態(模型)

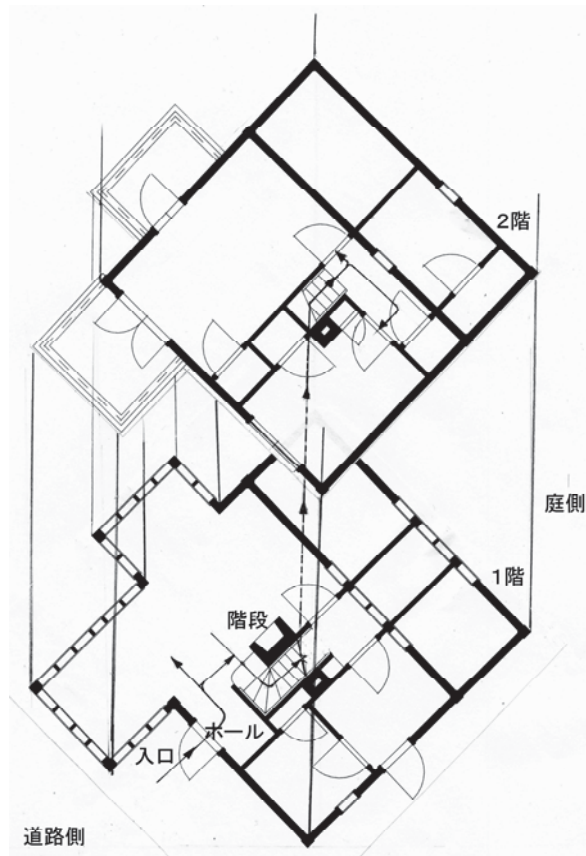


図3-7 ヴィラ・カールステン 動線の分析

3-2-3 ヴィラ・セット Villa Seth の空間的特質

1934年、隣接した土地にヴィラ・ローフトマンとともに建設された。フランクはアンナ・フランクの友人である2人の姉妹のために別々の家をデザインした。ヴィラ・セットとヴィラ・ローフトマンのイメージは、「木の箱」であった。形も寸法も似ているが方向を変えて配置された。2軒ともテラスの中央に玄関があった。また基本的な平面計画は、ヴィラ・クーラソンとヴィラ・カールステンに似ている。

ヴィラ・セットの基本形は、正方形に近い。玄関の左側には引き出された小さい箱のような空間がある。小さなホールを通過してリビングとダイニングコーナーへ入るが、その空間には壁もドアも無い。2軒とも玄関の右側にキッチンと料理を準備する部屋があり左手はリビング、ダイニングのコーナーがある。ヴィラ・セットは玄関ホールを入るとすぐにリビングコーナーと階段に別れ、直接にベッドルームへ行ける。階段を上がりそのまま左手へ進むとメインのベッドルームがあり、階段に隣接して、左側に180度回転すると1室、右側に180度回転するともう1室のドアがあり、3室とも東南方向にテラスがある。テラスには仕切りが無く続いているが、各ベッドルーム以外からは出入りができない。

1階のリビング、ダイニングの空間は、東南のコーナーに座る場所があり、やや北寄りの角に暖炉がある。両方の家には地下室が無いが、1階のテラスに道具室がある。ヴィラ・カールステン、ヴィラ・セット、ローフトマンの施工は、典型的なスウェーデンタイプの白色の壁の家である。フランクは施工業者に様々な注文をしたという。セットとローフトマンに関する遺された記述には「外の色は夫々異なるが、内部は白色で、木部はオイル仕上げで、石のような硬い壁は糊の白色である」とある⁵⁾。当時ヴィラ・セットは薄いピンク色であり、ヴィラ・ローフトマンは薄いブルーであった(写真3-5、写真3-6、図3-8)。

ヴィラ・セットは2008年に、建築家Ulf Sjogrenにより、フランクの作品の優れた特色を残しながら図のように改築された。元の家に加えて祖母のための別棟が作られた(写真3-5.b、図3-9)。



a. 正面



b. 増築部分



c. 1階階段と暖炉



d. 1階ダイニングルーム

写真3-5 ヴィラ・セット外観および内部写真

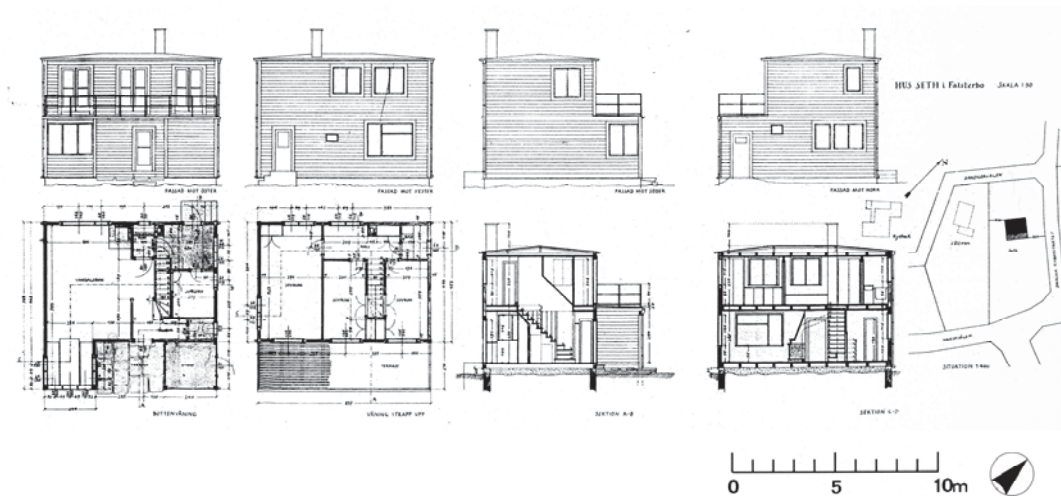


図3-8 ヴィラ・セット 平面図・立面図・断面図・配置図

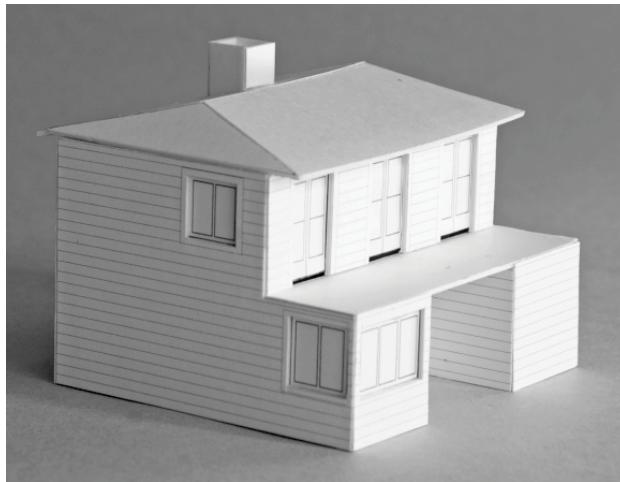


写真 3-6 ヴィラ・セット全体形態(模型)



図 3-9 ヴィラ・セット 改修図面 (2008, Ulf Sjogren 設計)

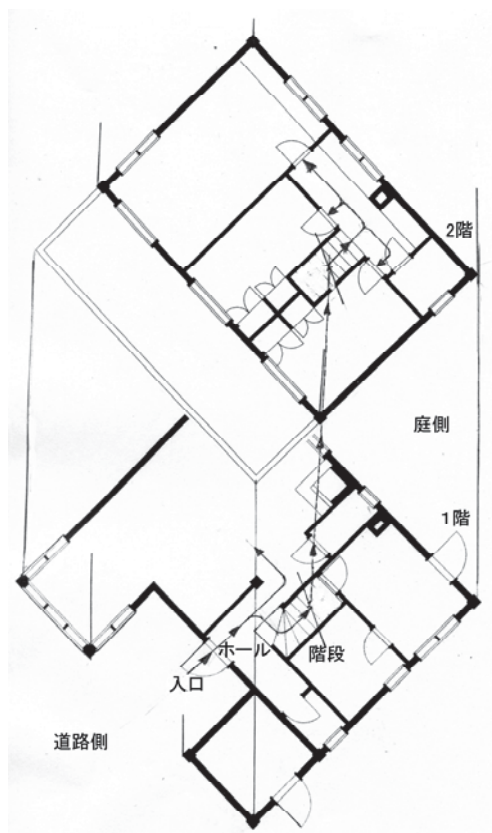


図 3-10 ヴィラ・セット 動線の分析

3-2-4 ヴィラ・ローフトマン Laftman の空間的特質

1934年、隣接した土地にビラ・セットとともに建設された。2軒に関する共通事項はヴィラ・セットの概要に述べた。基本形は、ほぼ南北に長い矩形である。玄関からリビング、ダイニングの空間へ進むと中ほど右手に折階段がある。階段を上ると小さいホールがあり、3方向にドアがあり、ベッドルームが北西側に1室、南東側に2室とシャワールームがあり、最初の計画にテラスが入っていなかったため動線は室内までである。細長いリビングコーナーの南側には食事の場所があり北側には寛ぐ場所がある。この空間の階段あたりで動線が分岐する。(写真3-7、写真3-8、図3-11)。



a. 正面 道路側



b. 背面 庭側



c. 1階段と暖炉

写真3-7 ヴィラ・ローフトマン 外観および内部写真

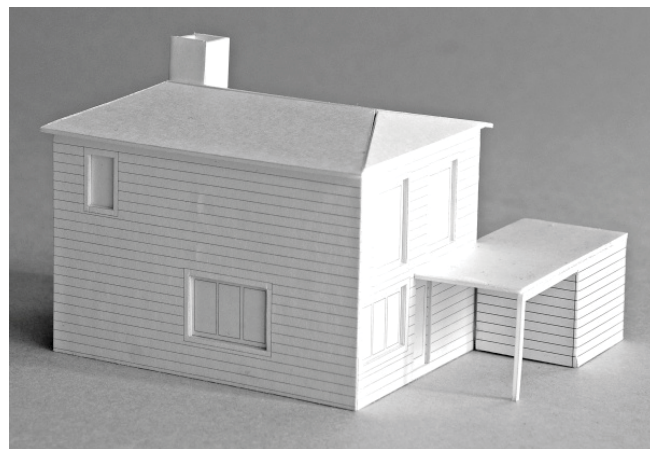


写真3-8 ヴィラ・ローフトマン 全体形態(模型)

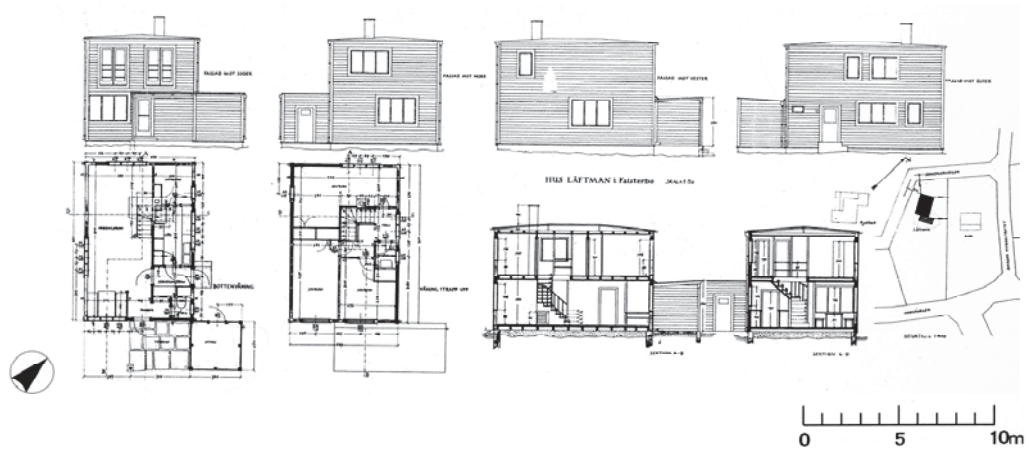


図 3-11 ヴィラ・ローフトマン 平面図・立面図・断面図・配置図

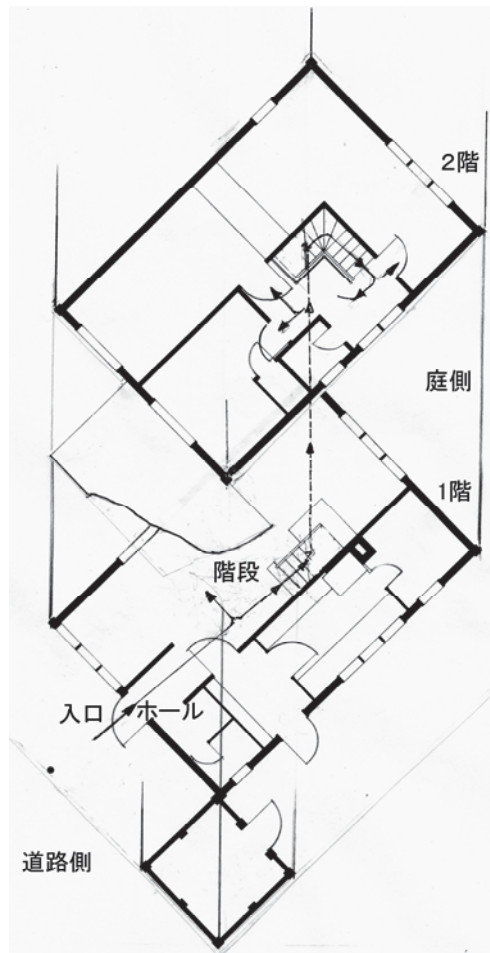


図 3-12 ヴィラ・ローフトマン 動線の分析

3-2-5 アトリエ・アンデシュ エステリング Atelier Anders Ostering の空間的特質

詩人アンデシュ・エステリングは1912年建築にされた家を持っていたが、1934年に50歳の誕生日を祝って、フランクのデザインでアトリエを作った。アトリエは、1辺でもとの家につながっていた。ヴィラ・セットやヴィラ・ローフトマンと同じイメージで作られたという。アトリエは1部屋であるが、リビングコーナー、アトリエ、バスルームがあり簡単に仕切られていた。平面形は矩形であるが、西南角は斜めに切り取られており、この形は印象深い。外観は地味で周辺からも目立っていない。1998年に全体の改修が行われ、現在はフランクのデザインは殆ど残されていない(写真3-9.a,b、図3-13)。



a. アトリエ外観



b. 本家外観



c. アトリエ外観



d. 暖炉

写真3-9 アトリエ・アンデシュ エステリング 外観及び内部写真

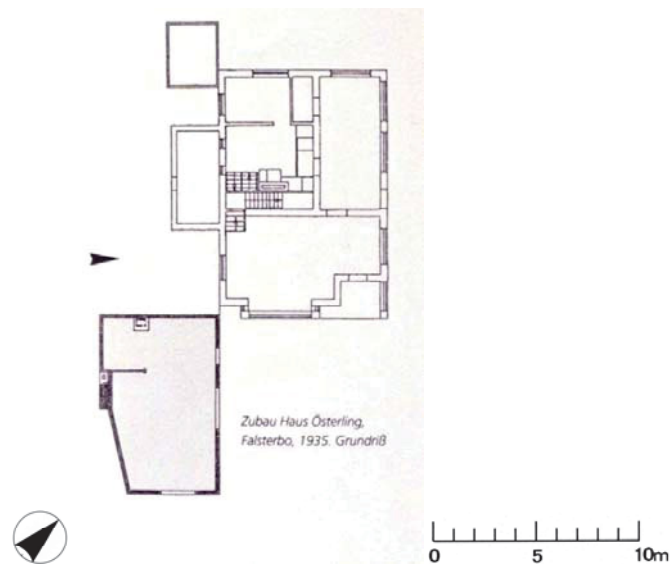


図 3-13 アトリエ・アンデシュ エステリング 平面図

3-2-6 ヴィラ・ウェッチェ Villa Wehtje の空間的特質

1936年にヴィラ・ウェッチェは、マルメからの生産業者バルテル・ウェッチェ Walter Wehtje のために不規則な敷地1杯に建てられた。天井の高さが様々で、ドラマチックな動きのある空間である。休暇期間を快適に過ごすためのピンク色のスタッコで仕上げた大規模な「家」は、フランクの最盛期のものである。この「家」はこの地域でフランクの最後の仕事となった。

ヴィラ・ウェッチェは、その基本形は不規則である。3つの庭の回りに数軒の家が取り囲んでいるように見える。しかし敷地の状況にもとづいて建築面積最大限に境界線に従って建てられている。実際この家は「コの字型」の平面をもち、カーブした壁や予想外の角度や違う階にある窓やテラスにより変則的である。切り倒したくない数本の松の木を残した中庭を取り囲んでカーブを描いた建物が計画された。建物の外観は、変則的に見えるが、窓の配列は2又は3の規則的なユニットの繰り返しである。

建物の2つの翼の間にある中庭を通過して玄関へ入ると、北面に額縁の枠のように後方の木々を捉える大きな丸窓が明り取りになっている空間に到る。床は大理石の大きな黒と白のタイルが敷かれ、窓辺には真鍮の金色の脚部を持つ飾り気の無い黒い大理石のベンチがある。壁面と天井は白色の空間である。その個性的な小さいホールを境界として、一方にある階段を3段上がるとベッドルームのエリアがある。大きなベッドルームの外側に日本庭園があり、このホールのガラスのドア

が開かれている時は外に座っているような感じである。1方は社交の場へと分けられており、180度他方向へ向き直ると狭く高い天井の廊下から中央ホールへ導かれる。大きなガラスの開口部を通して南の光が流れこんでいる。南向きのカーブのある空間はこの「家」の中心であり、階段はここから上の階のリビングルームへと続いてゆく。上階のリビングルームの床は2段に別れておりルーフテラスから海が見える。1階では、中2階の低い床の下部分にダイニングテーブルがあり、低い天井は居心地の良い空間を創っている。ダイニングコーナーの北側はキッチンや使用人室や配膳室などのサービスエリアがある。ここから南の方向に縦に細長い矩形のホールを行くと暖炉を中心とする横に広いリビングコーナーに到る。リビングコーナーに近い開口部か外に出て庭を歩くことができる。

この家を全体的に観ると、次章図4-1⁶⁾のように機能別ブロックに分かれている。全体は、中庭を囲む、崩れた「コの字型」であり、それが、4つの機能別エリアに分割されていることが分かる。すなわち1階には玄関ホール、キッチン、使用人室などを含む北側のサービスエリア、リビング・ダイニングを含む南側のエリア、1階の床より約50cm高い床面にある廊下に続くホールと個室の東側のエリア、2階にある北側リビングエリアの4ブロックに分割されている。これらのエリアは、それぞれ緩やかに関わる変形のブロックをなしており。住宅全体は、この4つのブロックによって構成されている。ベッドルームのエリアとキッチンを含むハウスワークエリアを除くと、全体が一つの大きな開放された空間である。階段も2階も低い囲いはあるが天井までの仕切りが無くステージのように見える。海の景観や庭を眺めるよう計画され、パーティの開催や、来客の滞在できる社交の場ともいえる夏向きの家である。自然を室内に取り入れるデザインは、ある意味では日本的空間とも言える。年代は不明であるが2階のテラスは部屋に改修されている(写真3-10、写真3-11、図3-10.a-d、図3-14)。



a. 中庭



b. 1階ホール



c. 2階テラス



d. 1階ホール

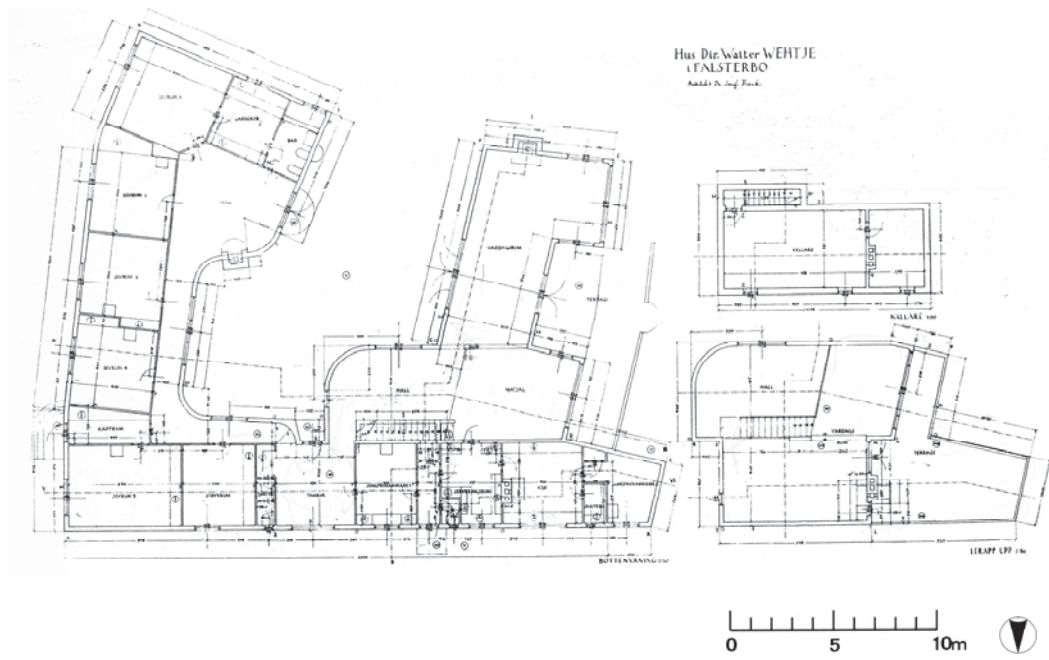


e. 1階ホール



f. 2階居間

写真3-10 ヴィラ・ウェッチェ外観および内部写真

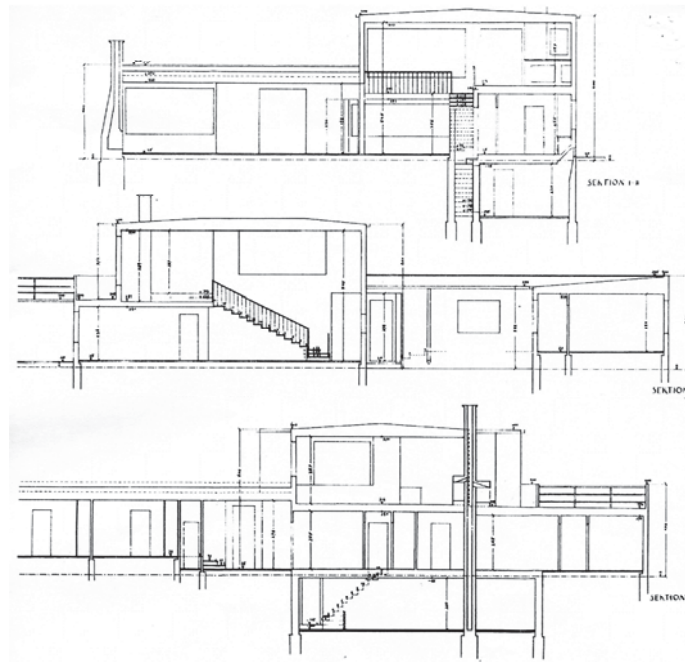


a. 1階・2階 平面図



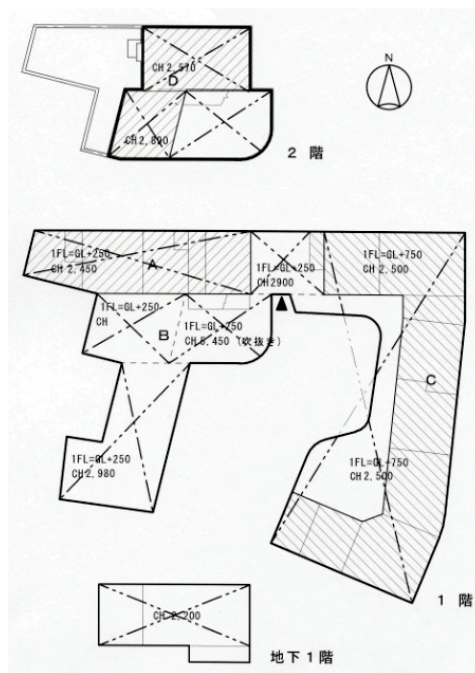
b. 立面图

图 3-14 (前半)



c. 断面図

図3-14 (後半) ビラ・ウェッチェ 平面図・立面図・断面図



- A ハウスワークエリア(台所、配膳室) B パッセージエリア(廊下、ホール)
 C パーソナルエリア(個室) D リビングエリア(居間)

図3-15 ヴィラ・ウェッチェのエリア別天井高

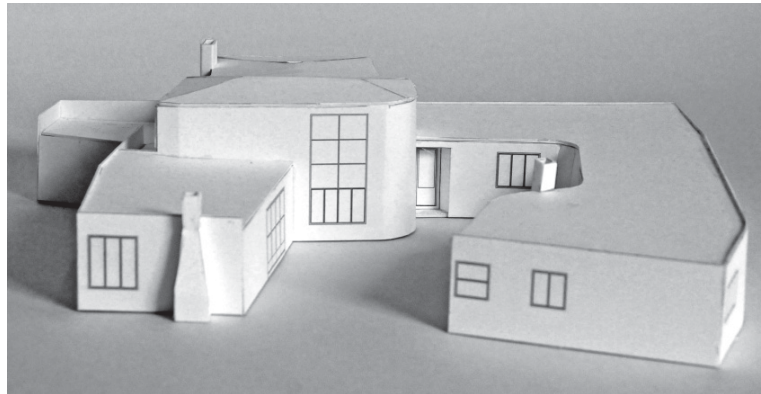


写真 3-11 ヴィラ・ウェッチェ 全体形態(模型)

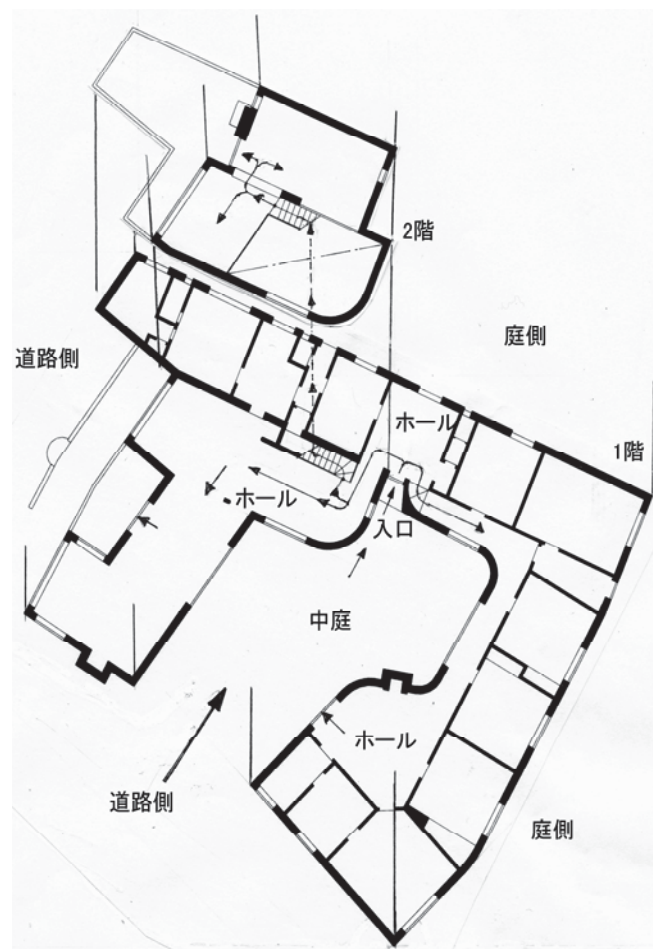


図 3-16 ヴィラ・ウェッチェ 動線の分析

第3節 6軒のヴィラの動線について

3-3-1 フランクの論文による動線の分析

文献によれば、フランクは彼の建築を通して、近代の空間性の捉え方の問題に深く関わっていた。部屋は住宅の外側へ広がり、静的でなく、開放され光と空気に満たされていた。ヴィラのプロジェクトにおいて彼は19世紀のデザインにおける構成と近代の動的な部屋とを結びつけたとされる⁷⁾。

フランクは、1931年出版の論文「道や広場としての住宅」(Das Haus als Weg und Platz)⁸⁾で、町を通り抜けるように人はどのように家の中を動くべきかを述べている。さらに、家の中で一番大切なのは階段であり、階段は片道ではなく往復の動きである。また大きな部屋は便利でない場合があり、短い道は好ましくない場合がある。フランクが1920年代と1930年代にデザインした作品には不変で意識的な家を通り抜ける動線があると記述されている。この概念に基づき分析した6軒の建築作品の空間特質としての動線を、具体的に整理すると次のようである。廊下や階段を「道」としてホールやリビングルーム、ダイニングルームやテラスを「広場」として捉えて分析した。

3-3-2 6軒のヴィラの動線の比較

それぞれのヴィラの、一番特徴的な繋がり(片道)を以下に示す。

- ・ヴィラ・クラークソンの動線

入口—広場—道(階段)—広場—道—広場

- ・ヴィラ・カールステンズの動線

入口—広場—道(階段)—道もしくは広場—個室

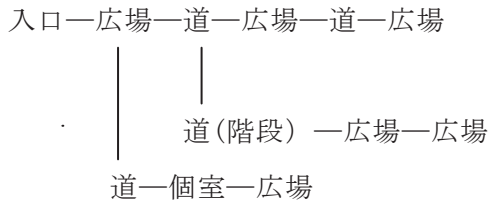
- ・ヴィラ・セットの動線

入口—広場—道(階段)—道もしくは広場—個室—広場

- ・ヴィラ・ローフトマンの動線

入口—広場—道(階段)—広場—個室

・ヴィラ・ウェッチェの動線



・アトリエ・アンデシュ エステリング (改修により、フランクの作品から変化している。)

それぞれのヴィラの動線を比較すると、小規模な4軒のヴィラの動線よりも、大規模なヴィラの動線は複雑である。しかし、小空間の中にも、考えぬいたであろう動線の操作がうかがえる。どのヴィラも、「道」は「広場」に繋がっていた。

3-3-3 6軒のヴィラの平面形態と動線

6軒のヴィラは、海沿いの地域において、およそ東西150m、南北250mの範囲に点在している。いずれのヴィラも夏の期間の使用が目的と考えられる。フランクのデザインによるヴィラは、表3-1のように延べ床面積について見れば、約190㎡が1軒、約100㎡が3軒、約472㎡が1軒、不明1軒である。建築年で見れば、1924年から1936年の期間に建設されている。6軒のヴィラを概観すると、大幅に異なる2種類のタイプの平面形態を確認した。やや大きい面積のヴィラ・クラウンも加えた5軒の小規模のヴィラの平面は矩形であり、大規模なヴィラ・ウェッチェの平面は「コの字形」であった。2タイプとも長短や上下の動線の強調を意識している。

小規模ヴィラの動線については、階段の位置や、ドアや窓の位置などを変化させることにより、眺望に恵まれ、また日常の生活を快適にする空間を創り出した。小規模ヴィラは、1920年代には玄関とリビング、ダイニングルームや階段には仕切りがあったが、その後取り払い、一つの空間の中に食事の場所や寛ぎの場所や階段も配置し広く開放的にデザインした。1階のリビングルーム「広場」から2階へ繋ぐ階段「道」のデザインは重要であり、リビングルームと2階のテラス「広場」を関連させている。

変則的平面の大規模なヴィラ・ウェッチェの動線は、外部の景観や庭などへの開口部に関連していた。中庭を囲む「コの字型」の内部は、全体的にはオープン

な空間であったが機能別ブロックに分かれていた。さらにフランクはヴィラの内部で、図3-15に表示した天井の高さの変化と関連して、狭い場所から広い場所へ、壁面で囲われた閉じた空間やガラスを使用し外部の自然を感じられる空間を配して、変化ある建築作品として創りあげた。広い空間「広場」の中にも大きく循環する水平方向の動線「道」があり、また上下に向けて縦軸方向の動線「道」が繋がっている。

第4節 小結

ヨーゼフ・フランクのスウェーデンに現存する6作品について動線に着目して、住宅を表現するためにどのような構成手法を用いたかを現地調査と文献により分析した。その結果、小規模な空間のヴィラ5軒と1軒の大規模な空間のヴィラの2種類に大別できた。小規模な空間のヴィラの平面形は直線的構成の矩形で、意外性ある動線の操作により建築空間として纏めあげられていた。一方大規模なヴィラは、中庭を中心とした「コの字型」平面形で、動線は、開放的な室内を、上下、左右と回り開口部から外部へと繋がっていた。ファルステルボアの6軒のヴィラのプロジェクトはフランクがウィーンや他のヨーロッパの地域で最も活躍した時期に行われた。フランクは、工場労働者のための集合住宅を数多く手がけており、これらの設計手法も少なからず戸建住宅に反映していると察せられる。

要するにフランクは、小規模なヴィラの空間特質を最大限に生かして変化を創造した。また大規模なヴィラについては、外部周辺を含めたより大きな視点から動線をとらえ、各空間を創造したと考えられ、国は異なるものの、同様の変化が読みとれる。

注記

- 1) Villa は、本論文では、海辺の別荘即ち「夏の家」を意味し、片仮名の「ヴィラ」と表記する。
- 2) Josef Frank は、ドイツ語のカタカナ表記「ヨーゼフ・フランク」とする。その他スウェーデンの地名・人名は、スウェーデン語のカタカナ表記とする。
- 3) シーグルド・レヴェレンツ (Sigurd Lewerentz, 1885～1975)。スウェーデンの建築

家。1914年アスプルンドと共同で、ストックホルムの「森の墓地」の設計競技に応募して入賞し、その後も建築家として活躍、晩年は、90歳でなくなるまで教育にたずさわった。

- 4) Mikael Bergquist, Olof Michelse, *Josef Frank Falsterbovillorna*, Arkitektur Förlag, Stockholm, 1998, pp. 18. を参照。
- 5) Maria Welzig, *Josef Frank 1885-1967: Das architektonische Werk*, Hochschule für angewandte Kunst, Wien・Köln・Weimar, 1998. pp. 184. を参照。
- 6) 建築当初の図面(断面図)から制作した。設計図は、スウェーデン Vellinge Kommun から入手。
- 7) Mikael Bergquist, Olof Michelsen, *Accidentism Josef Frank*, Birkhäuser Publishers for Architecture, Basel・Boston・Berlin, 2005. pp. 9. を参照。
- 8) Josef Frank “Das Haus als Weg und Platz” in *Journal Baumeister*, Nr. 29, 1931, S. 316-323. を参照。

図版出典

- 表 3-1) 図 3-3、3-5、3-6、3-8、3-9 の図面をもとに筆者算出。
- 図 3-1) 白地図をもとに筆者作成。
- 図 3-2) Mikael Bergquist, Olof Michelse, *Josef Frank Falsterbovillorna*, Arkitektur Förlag, Stockholm, 1999. pp. 18. を参照。
- 図 3-3) Ibid. pp. 54. 掲載図面を複写。
- 図 3-4) Maria Welzig, *Die Wiener Internationalität des Josef Frank, Das Werk des Architekten bis 1938*, der Universität Wien, Jänner 1994, S. 209. 掲載図面を複写。
- 図 3-5) 上記図面をもとに筆者作図。
- 図 3-6) Mikael Bergquist, Olof Michelse, *Josef Frank Falsterbovillorna*, Arkitektur Förlag, Stockholm, 1999. pp. 55. 掲載図面を複写。
- 図 3-7) 上記図面をもとに筆者作図。
- 図 3-8) Ibid. pp. 57. 掲載図面を複写。
- 図 3-9) スウェーデン Vellinge Kommun から入手した図面を複写。

- 図 3 - 10) 図 3 - 8 をもとに筆者作図。
- 図 3 - 11) Mikael Bergquist, Olof Michelse, *Josef Frank Falsterbovillorna*, Arkitektur Förlag, Stockholm, 1999. pp. 56. 掲載図面を複写。
- 図 3 - 12) 上記図面をもとに筆者作図。
- 図 3 - 13) Maria Welzig, *Josef Frank (1885-1967)*, bohlaus, S. 185. を複写。
- 図 3 - 14) Bergquist and Olof Michelsen : *Josef Frank Falsterbovillorna*, Arkitektur Förlag, Stockholm, 1999. pp. 58-60. 掲載図面を複写。
- 図 3 - 15) 図 3 - 14 をもとに筆者作図。
- 図 3 - 16) 図 3 - 14 をもとに筆者作図。
- 写真 3 - 1) 筆者撮影(2008 年 8 月)。
- 写真 3 - 2) 図 3 - 3 をもとに筆者作成の模型を撮影。
- 写真 3 - 3) a 筆者撮影。
b. c. d Johannes Spalt, Hermann Czech, *Josef Frank 1885-1967*, Hochschule für Angewandte Kunst. 1981. S. 30. を複写。
- 写真 3 - 4) 図 3 - 6 をもとに筆者作成の模型を撮影。
- 写真 3 - 5) a. b. d 筆者撮影。
c Bergquist and Michelsen, *op. cit.*, pp. 42. を複写。
- 写真 3 - 6) 図 3 - 8 をもとに筆者作成の模型を撮影。
- 写真 3 - 7) a. b 筆者撮影。
c Bergquist and Michelsen, *op. cit.*, pp. 42. を複写。
- 写真 3 - 8) 図 3 - 11 をもとに筆者作成の模型を撮影。
- 写真 3 - 9) a. b 筆者撮影(2008 年)。
c. d Bergquist and Michelsen, *op. cit.*, pp. 11. を複写。
- 写真 3 - 10) a. d. e. f 筆者撮影(2008 年)。
b. c Bergquist and Michelsen, *op. cit.*, pp. 17. を複写。
- 写真 3 - 11) 図 3 - 14 をもとに筆者作成の模型を撮影。

第4章 ウィーンとスウェーデンにおける住宅作品の比較

第4章 ウィーンとスウェーデンにおける住宅作品の比較

本章では、2章、3章の結果をふまえて、フランク後期の同年代の作品で、国を異にするオーストリアとスウェーデンで設計された2つの住宅作品、第2ブンツル邸(The second Bunzl House, 1935～1936年、ウィーン)とヴィラ・ウェッチェ(Villa Wehtje 1936年、スウェーデン)とを取り上げ、既往研究と現地調査によりながら、それらの平面計画を分析し、その空間的特質を明らかにした。

第1節 2住宅作品の平面形態と機能別ブロック

4-1-1 第2ブンツル邸の平面形態と機能別ブロック

第2ブンツル・ハウスは、その平面図(1935年)を概観してみると、全体はテラスを囲む「コの字型」であり、それが関連する機能別に4つのエリアに分割されていることが分かる(図4-2)。すなわち、1階には、玄関ホールとキッチンなどを含む西側のハウスワークエリア(A)、リビング・ダイニングを含む北側のエリア(B)、1階の床より約50cm高い床面にある、廊下と3個室の南側のエリア(C)が、2階には、プライベートな3個室のある2階西側のエリア(D)がある。これらのエリアは、それぞれ概ね矩形のブロックをなしており、住宅全体はこの4つのブロックの組み合わせによって構成されている。

次に第2ブンツル邸の動線は、街路から直進し南西角の小さな入口から控えの間へ入り、直角に左手へ曲ると、玄関ホールへ出る。ここで動線が分岐する。ホールを経由して左手へ進むと、居間・食堂へ至り、右手に進み、階段を3段上がると小さい踊り場がある。左手には廊下があり、3寝室に繋がっている。この踊り場から右手の階段を上がると、2階には、中庭に面するテラスのある2個室へと繋がる。「コの字型」の懐には庭を望むテラスが配され、ここは、前面道路からは隠された私的な憩いの空間となっている。

以上のように、1階の3つのブロックは、テラスを囲む動線で水平的に繋がれ、1階と2階のブロックは、動線が分岐する玄関ホールに開かれた階段によって、垂直的に繋がれている。4つのブロックは、全体として「コの字型」を採り、3つの床レベルに区分されることで、個々に独立性を付与されながら、玄関ホール

を動線の要とすることで、空間的に統合されていると言える。

4-1-2 ヴィラ・ウェッチェの平面形態と機能別ブロック

前章でふれたように、ヴィラ・ウェッチェは、その平面図(1936年)を概観してみると、全体は、中庭を囲む、崩れた「コの字型」であり、それが、4つの機能別エリアに分割されていることが分かる(図4-1)。すなわち1階には玄関ホール、キッチン、使用人室などを含む北側のサービスエリア(A)、リビング・ダイニングを含む南側のエリア(B)、1階の床より約50cm高い床面にある廊下へ続くホールと個室の東側のエリア(C)、2階にある北側リビングエリア(D)の4ブロックに分割されている。これらのエリアは、それぞれ緩やかに関わる変形のブロックをなしており。住宅全体は、この4つのブロックによって構成されている。

次に動線について述べる。中庭を通り、エリアA南側の建物のほぼ中央に位置する小さな入口を入ると、北面の白色の壁に直径約2.2mの丸窓が印象的な玄関ホールがある。この玄関ホールの東南角から階段を3段上がるとエリアCの廊下と個室があり、日本庭園を望むホールに続いている。玄関ホール西側には、サービスエリアAがあり、玄関ホールを介して東へ、作業室、北東角の個室と続きエリアCへ繋がっている。玄関ホール西南角から、天井の高い狭い通路を行くと南側に曲面の壁と幅2.5m、高さ5mの大開口部のあるエリアBのホールへ導かれる。玄関ホールとこのホールから動線が分岐する。ここから社交や団欒のリビング・ダイニングエリアBへ続いている。ダイニングコーナーは、天井の低い居心地の良い空間であり、L字型のリビングコーナーは庭のテラスへと接続している。エリアBの吹き抜けのホールにオープンに置かれた階段を上がると2階のリビングエリアDに至る。2階のエリアDの床は2段に分節され、その上段からは、海に見えるルーフテラスへと導かれる。「コの字型」の懐の中央に、玄関が配置されているが、庭が造られ、道路からは隠されている。

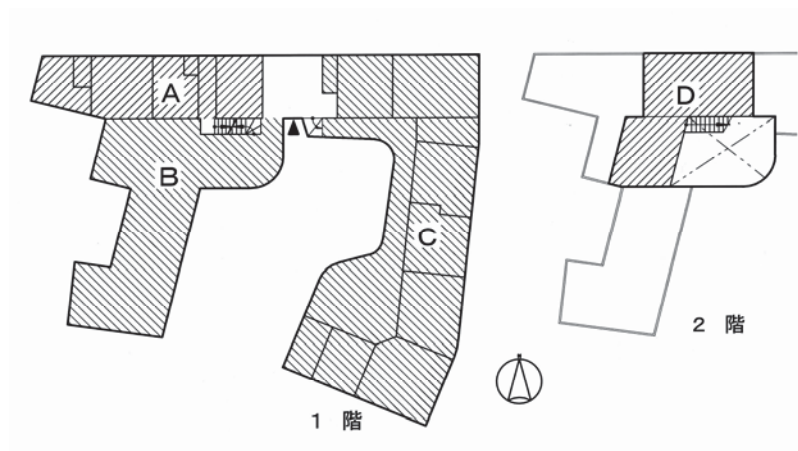
以上のように1階の3つのブロックは、玄関ホールを包括する中心的ホール付近で水平方向に繋がれ、またこのホールに置かれた階段により垂直方向に繋がれている。4つのブロックは、全体として崩れた「コの字型」を形成し、3つの床レベルに区分されることで、個々に独立性を付与されながら、玄関ホールと吹き抜けのホールを動線の要として、空間的に統合されている。

第2節 2住宅作品の機能別ブロックの比較

2作品に共通するものとして、双方とも全体として矩形ではなく「コの字型」の平面形態を採用しているため、この2作品を選択して比較した。またこの全体形を概観すると、機能別に4つのブロックに分節し、1階の中央付近に、動線の要である玄関ホールを配してここを基点に4ブロックを水平、垂直方向に統合している点が共通している。

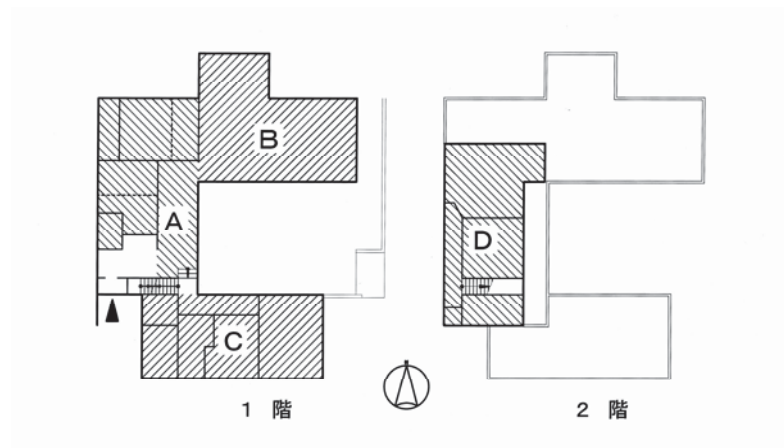
2作品において異なるのは、第2ブンツル邸は、平面形態が直線的で、各部屋の平面は矩形であるが、それに反して、ヴィラ・ウェッチェの平面形態は曲線や直角以外の角度もあり、各部屋は矩形でない。また第2ブンズル邸のリビング・ダイニングエリアBは、ハウスワークエリアAと引き戸により仕切られている部屋であるのに対して、ヴィラ・ウェッチェの場合は、ハウスワークエリアAとリビング・ダイニングエリアBは仕切りのない連続した空間となっている。この例からも、ブロック間の関係は、第2ブンツル邸の場合は、相互に閉じた関係にあり、ヴィラ・ウェッチェの場合は相互に開かれた関係にあることを示すと考えられる。さらにヴィラ・ウェッチェのブロック間の開かれた関係を示すのが、エリアBの吹き抜けホールが2階のエリアDと階下のエリアBを視覚的に一体化していることである。また、この吹き抜けホールと、直接連続する玄関ホールがブロックを跨いで一体となって、動線の分岐点を形成していることも、ブロック間の関係を反映したものであろう。

ヴィラ・ウェッチェ(図4-1)と第2ブンツル邸(図4-2)の機能別ブロックを以下に表示する。



- A ハウスワークエリア(台所・仕事部屋)
- B リビング・ダイニングエリア(居間・食堂ホール)
- C 個室のエリア(寝室・使用人室)
- D リビングエリア(居間)

図4-1 ヴィラ・ウッチェ 機能別ブロック



- A ハウスワークエリア(台所・倉庫)
- B リビング・ダイニングエリア(居間・食堂ホール)
- C 個室のエリア(客室・使用人室)
- D 個室のエリア(寝室)

図4-2 第2パルツル邸 機能別ブロック

ちなみに、ウィーンの、シヨル邸、ペーア邸、第2ブンツル邸の、機能別エリアを以下に示す。

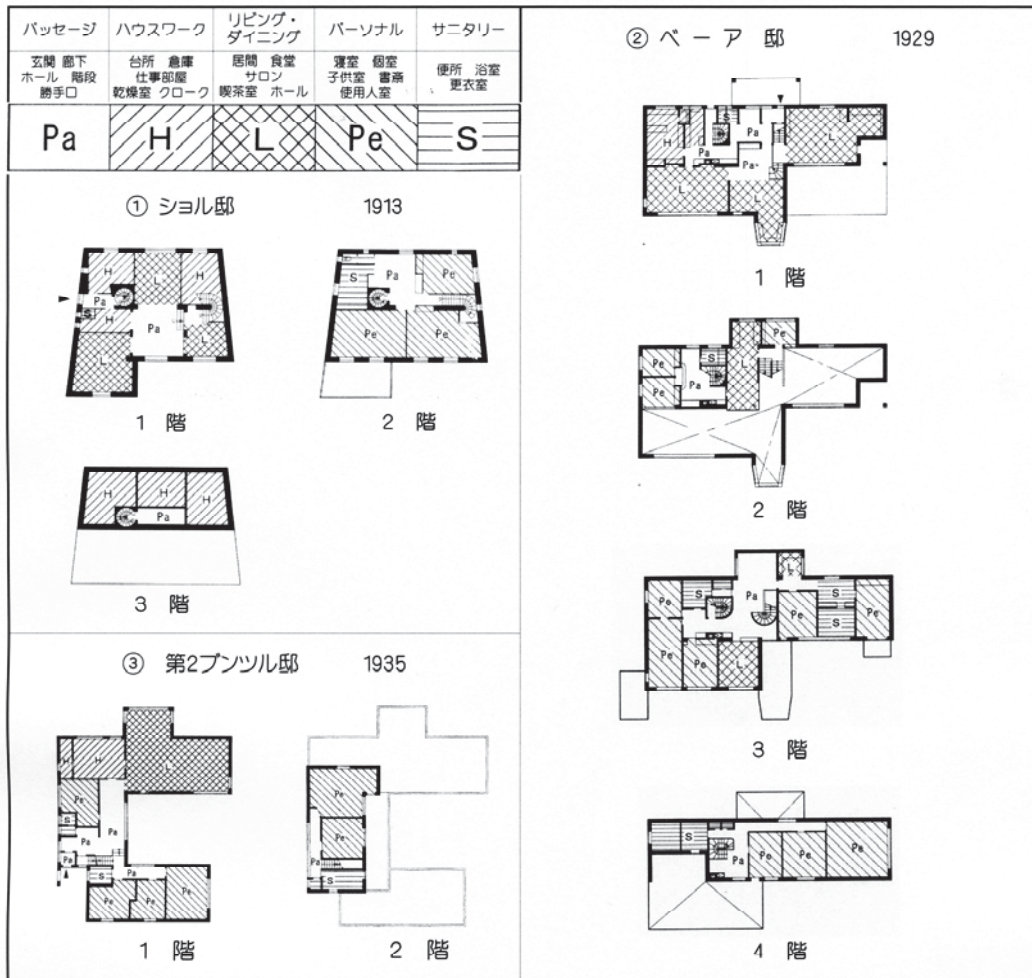


図4-3 シヨル邸、ペーア邸、第2ブンツル邸 機能別エリア

第3節 小結

2 作品の平面計画を分析し、その共通する計画的特質として、

1. ブロックによる「コの字型」の平面構成、
2. 垂直動線を含むホールの存在、を見出した。

フランクによる最初のブンツル・ハウス(カントリーハウス)、代表作のヴィラ・ベアー Villa Beer(1928～30年)、ホフマンやロースの住宅作品も、屋根形状のヴァリエーション、テラスの付加にかかわらず、いずれも矩形を基本としている。

1のブロックによる「コの字型」の平面構成という特質は1930年代には特異であったと言える。その後、フランクは、定形とも言える矩形の住宅作品から、ここで考察した2作品を経て、定形を破る自由な平面形態を特徴とする計画案を発表していくようになる。

内部空間の統括手法として、垂直動線を含む動線の要としてのホールの存在という特質は、オープンな階段により様々な床のレベルを繋ぐ、ロースの空間構成に通じるものがある。こうした垂直動線を用いた構成手法を、ブロックによる「コの字型」の内部空間を統合するものとして適用したところに、フランクの独自性を見ることができる。

図版出典

図4-1) 図3-14をもとに筆者作図。

図4-2) 図2-6をもとに筆者作図。

図4-3) Christopher Long, *Josef Frank : Life and Work*, The University of Chicago Press, 2002. pp. 37, 146, 201. を参考文献として、筆者作図。

第5章 結 論

第5章 結論

第1節 総括

ヨーゼフ・フランクの住宅作品の空間的特質を明らかにするために、年代を追って、ウィーンにおける、その年代を代表するフランクの3住宅作品と、スウェーデンのある地域に纏って建てられたフランクの6住宅作品(Villa, 夏の家)を分析した。ウィーンの3住宅は、フランクの初期・中期・後期の作品であり、スウェーデンの住宅は、中期から後期の作品である。

第1章では、当時の社会的な背景のもとでの、フランクの個人史と建築作品について論じ、本研究において、特に「住宅」を研究対象とした理由を論じた。

第2章では、ウィーンの3住宅作品の空間的特質を明らかにするために、3住宅の平面形態の概要を把握した。特に動線に着目して、内部空間の繋がりを明らかにした。続いて、それぞれの住宅作品における全体形態と内部空間の統合手法を探り、最後に3住宅作品のあいだの差異を、空間的特質の変遷として捉え直して考察した。この差異から、ヨーゼフ・フランクの住宅作品の空間的特質の変遷を見出すことが出来た。

平面形態は、初期のショル邸(1914)では、1910年代の定形とも言われる矩計から、「台形」を創出し、中期のベア邸(1929~30)では、異なる切欠きを持つ「長方形」を、各階の床として積み重ね、後期の第2ブンツル邸(1935)では、四辺形でない平面形態、すなわち異なる長方形を「コの字型」に組み合わせた平面形態へ変化していた。

全体形態は、ショル邸では、伝統的な「立方体に近いブロック」であるが、左右対称を崩す試みをなし、ベア邸では、正面は閉鎖的で、背面は変化の多い内部空間が表出するような、「大きな直方体のブロック」を創造し、第2ブンツル邸では、「機能別ブロックを組み合わせた分散的形態」へと変化していた。

3住宅作品の内部空間は、ホールとメイン階段とが連携しながら、動線の要として、高さの異なる床を空間的に統合していたが、より詳細には、初期のショル邸から中期のベア邸、後期の第2ブンツル邸へと至るなかでホールとメイン階段とが、一体性を高めていることが分かる。

これとは対照的に、平面形態と全体形態は、初期・中期から後期に至るなかで分散化する傾向がある。内部におけるホールとメイン階段の一体性と、全体形態における纏まりを同時に達成したのがベアー邸であったと言える。

第3章では、スウェーデンにおける6住宅作品の空間を分析した。6住宅作品に、2タイプの空間を確認した。第一のタイプは、矩形の平面形態の小空間の住宅であり、ヴィラ・クラソン(1924~1927)、ヴィラ・カールステン(1927)、ヴィラ・セット(1934)、ヴィラ・ローフトマン(1934)、アトリエ・アンデシュ エステリング(1934)の5戸であった。第2のタイプは、曲面を持ち直交軸を崩した変形の分散的平面形態を持つ大空間の住宅ヴィラ・ウェッチェ(1936)であった。

類似した形態の小規模な5戸の各ヴィラの内部空間の差異を追究し、このグループと、大規模な平面形態のヴィラ・ウェッチェとの相違を確認するために、フランクの論文「道と広場としての住宅」の理論の適用を試み、動線の軌跡を辿った。ちなみに、この論文(1931)は、前出のベアー邸(1929~30)を例に論じている。

スウェーデンの大きく異なった2タイプの空間は、いずれも動線を強調していた。要するにフランクは、小規模なヴィラの空間を、動線の操作により、空間を最大限に生かしてそれぞれに、変化ある展開を創造した。また大規模な変形の全体形態を持つヴィラについては、内部に幾通りもの動線を想定し、変形の敷地に沿った外部空間をも含めたより大きな視点から動線をとらえ、空間を創造したと考えられる。

第4章では、フランクの空間的特質の一貫性を明確にするために、同時代の作品で国を異にするウィーンの第2ブンツル邸(1935)とファルステルボーのヴィラ・ウェッチェ(1936)の内部空間を比較した。その結果、後期の分散的形態のこれら2住宅の類似点と相違点を見出した。類似点は、機能別ブロックによる「コの字型」の平面構成と垂直動線を含むホールの存在であり、相違点は、矩形の機能別ブロックと、変則的な機能別ブロックを連結する形態であった。さらに、この2住宅作品の後に提案された自由な平面形態を特徴とする計画案の出発点が、ヴィラ・ウェッチェであったことを確認した。

垂直動線を含む動線の要としてのホールの存在という特質は、オープンな階段により様々な床のレベルを繋ぐ、ロースの空間構成に通じるものがある。しかしながら、「コの字型」の平面構成という特質は1930年代には特異であったと言え

る。こうした垂直動線を用いた構成手法を、ブロックによる「コの字型」平面を統合するものとして適用したところに、フランクの独自性を見ることができる。

フランクの住宅作品の空間は、フランク独自の建築理論にしたがい、初期・中期・後期へと変化していった。伝統的な1ブロックから、自然を包括する「コの字型」への変遷を確認した。

ウィーンとスウェーデンの作品の変化を見ていくと、ウィーンは都市住宅であり、スウェーデンは別荘であるが、中期から後期にかけての、それぞれ2つの国の住宅作品は、本論に書かれていたように同様の変化をしていることがわかった。

その変化が、モダニズムの合理性、倫理性を具現化したアドルフ・ロースの影響下にあった初期の段階を経て、フランク独自の分散的形態へと展開する過程として、この変化を捉えることが出来るであろう。

第2節 本研究の問題点と今後の課題

ヨーゼフ・フランクの住宅作品の空間的特質について時系列で論じるに際して、対象作品として選択したのは、ウィーンの都市住宅であり、スウェーデンの別荘であった。別荘は、日常の住まいとしての機能は限定的であるため、同じ住宅として扱うことを躊躇したものの、地域を異にする作品は、フランクのデザインの一貫性を探るためには、必要と考えた。

「最後期の実験的住宅」の分析も今後の課題と考える。後期住宅までのフランクの作品の中に、そうした実験住宅への萌芽がうかがえた。一見、不規則で感覚的とも見える、ヴィラ・ウェッチェの空間創造の中に、動線によるフランクの意図を読み取ることができたと考えるが、さらなる分析が必要である。

「フランクの理論的言説と作品との関係」については、本研究において、フランクの論文を一部、住宅作品の内部空間に適用させ論じたが、さらに、フランクの理論的言説と作品を照らし合わせて考察を深めるなら、フランクの全体像をよりの確に捉えることができるであろう。代表的な論文として、「道と広場としての住宅」の他に、「シンボルとしての建築」などが挙げられるであろう。

本研究の考察から展開できるテーマとして「テキスタイルとインテリア」が、まず考えられるであろう。動線にもとづいて考察を行ったが、さらに、部屋の性

格を演出するテキスタイルや家具に着目すれば、フランクの空間の特質をより詳細に捉える事ができるであろう。

参考文献一覧

- 1) Josef Frank “Das Haus als Weg und Platz” in *Journal Baumeister*, Nr. 29, 1931, S. 316–323.
- 2) Johannes Spalt, Hermann Czech, *Josef Frank 1885-1967*, Hochschule für Angewandte Kunst, 1981.
- 3) ヘルマン・チェヒ「ヨゼフ・フランクに寄せて」(後藤美恵訳)『都市住宅』1983年4月号、12～13頁。
- 4) Lampugnani カタカナ表記『現代建築の潮流』(川向正人訳)鹿島出版、1985。原書: V. M. Lampugnani, *Architektur und Stadtebau das 20. Jahrhunderts*, Stuttgart, 1980。
- 5) ヘルマン・チェヒ「ヨーゼフ・フランクの新たな解釈のために」(川向正人訳)『A+U』、通巻254号、1991年11月、20～37頁。
- 6) HilstrandAst, *Die Ortmanner ein Industrie, volk aufdem Lande*, Gesellschaft der Freunde Gutensteins Verlag: Perlach Verlag, Augsburg-Geutenstein, 1992.
- 7) Maria Welzig, *Die Wiener Internationalität des Josef Frank, Das Werk des Architekten bis 1938*, der Universität Wien, Jänner 1994.
- 8) Kristina Wangberg-Eriksson, *Josef Frank*, Bokforlaget Signumi Lund AB, 1994.
- 9) Nina Stritzler-Levine (ed.), *Josef Frank Architect and Designer: An Alternative Vision of the Modern Home*, Published for The Bard Graduate Center for Studies in the Decorative Art, New York, by Yale University Press, New Haven and London, 1996.
- 10) Maria Welzig, *Josef Frank 1885-1967: Das architektonische Werk*, Hochschule für angewandte Kunst, Wien, 1998.
- 11) Mikael Bergquist, Olof Michelsen, *Josef Frank Falsterbovillorna*, Arkitektur Förlag, Stockholm, 1999.
- 12) Hedvig Hedqvist, *Svensk Form International Design*, Bokforlaget DN, 2002.
- 13) Uuve Snidare, *at home : In Sweden 1900-2000*, Bokforlaget Prisma, 2002.
- 14) Christopher Long, *Josef Frank : Life and Work*, The University of Chicago

Press, Chicago and London, 2002.

- 15) Mikael Bergquist, Olof Michelsen, *Accidentism Josef Frank*, Birkhäuser Publishers for Architecture, Basel · Boston · Berlin, 2005.
- 16) Architekturzentrum(ed), *Architecture in Austria. In the 20th & 21st Centuries*, Published by the Architekturzentrum, Wien, 2006.
- 17) Blundell Jones カタカナ表記『モダニズム建築—その多様な冒険と創造』（中村敏男訳）、建築思潮研究所、2006。原書：P. Blundell Jones, *Modern Architecture Through Case Studies*.
- 18) August Sarnitz, *Architecture Vienna 700 Buildings*, Published Springer—Verlag, Austria, 2008.
- 19) Mag. Marlene Ott, *Josef Frank (1885—1967) : Möbel und Raumgestaltung*, der Universität Wien, 2009.
- 20) 拙稿「ヨセフ・フランクのインテリアデザインに関する研究」、名古屋造形大学研究紀要第16号、2010年3月、41頁～46頁。

引用文献

Josef Frank “Das Haus als Weg und Platz” in *Journal Baumeister*, Nr. 29, 1931, S. 316
—323. を翻訳したものである。

「道と広場としての家」

P1

アーチストが住んだアパートの屋根裏部屋が現代の家のもととなった。現代の建築家はその小さく汚いイメージを好まないが、フランクは好む。屋根裏部屋は偶然的であり下の部屋は計画的である。偶然的な部屋は命がある。壁は直線でなく、床も段差があり、窓は大きい。柱と梁がある。下のアパートは四角の部屋である。屋根裏部屋の空間は面白い。現代の普通の人の意見で、下の部屋は良いイメージで屋根裏部屋は悪いイメージである。屋根の下の部屋にはアーチストかボヘミアンが住む。フランクの考えでは、屋根の下の部屋のような動きの、下の人々もアーチストのような住まいと生活となった方が良い。建築家の仕事は、屋根の下のように柱や梁がある家を作る。良い計画の家は、街のように計画した方が良い。街では道を計画しなければならない。道は広場まで行って、広場で休むために、道と広場は少し離れた方が良い。これが、フランクの大きな家を造るための考え方であった。昔、イギリスでは街の造り方のような、家の造り方が普通であった。イギリスで、現在その考え方は無くなった。伝統はもう一度繰り返したほうがよい。家の中の道は道の感じでない方が良い。例えば入る人には、道の感じをださない方が良い。良い家は古い街に似ている。初めて来る人も市役所や市場を見つけることができる。

家と道と広場

家の中で一番大切なのは階段である。階段は片道でなく続いている。

1. 例えば家が3階であったら、3階はそれほど大切でなく、3階は少し異なった形が良い。
2. 3階がバルコニーであったら、もしも2階がベッドルームの場合、1階のリビングルームとバルコニーとの関係を作りたいので、階段は続いた方が良い。例えば隠れた階段にする。

3. 階段の形は、小さくならないように、また曲がることが大切である。曲がることは、スペースのためでなく階段を続けるためである。
4. 一番大きな部屋は、一番便利でない場合がある。一番短い道は一番楽しくない道の場合がある。
まっすぐの階段は、一番良い階段でない場合がある。家のスペースは、80 パーセントが住むためのスペースであるのは良くない。100 パーセントが住むためのスペースである。

ヴィラ・ベアーの中心は階段である。全部の部屋はバラバラに配置されている。ピラに入ると入口に階段がある。階段を上ると居間が見える。居間は一番大切な部屋である。階段に続いて仕事部屋とサロンが1階にある。階段は曲がって2階のベッドルームへ行く。普通の部屋は四角であるが、住むために便利でない。家具を入れるために四角である。必要なもののために、良い計画をつぶさないことが大切である。

良い建築は、形と内容に意味がある。四角の部屋には性格がない。部屋の面白さは形による。四角の部屋は、家具の面白さと形で作る。家具や色彩は住む人の仕事であり、部屋の形は建築家の仕事である。良い部屋であれば、家具やファブリックスの種類に関係ない。部屋は建築家のセンスが現れ、家具は住む人のセンスが現れる。良い部屋は道と広場の良いところが出てくる。家具が入っても、道と広場の良いところが分かる。四角の部屋のために、モダンの技術ばかりでは良くない。

P2

住宅の中心は、座る場所 Piazza である。(Piazza はイタリア語の広場一街の中) 住宅の広場のようなものである。居間で必要とされるのは、中心の存在である。中心により、居間の形と性格が決まる。昔中心であったのは、暖炉であったが、近年暖炉の無い場合が多い。暖炉が無ければ、建築家は中心を作らなければならない。現代の部屋を作るために、建築家にとって、窓、部屋の角、柱、その他がある。四角の部屋は中心が無い。その部屋で住むことは無理である。居間以外の部屋でも中心があり、それは道で繋がっている。その道は長さを感じさせないように面白く作らなければならない。その面白さのために、光の形、光の段階(明暗) は大切である。ドアの開け方は大切であるが、他の建築家は、すぐ忘れてしまう。フランクの考えでは、ドアは壁にぶつかるようでは駄目であるが、普通の家ではよくあることである。ドアが 180 度開くと、ドアは視界から消え、人は急に部屋に入ることになり、道(廊下) と空間が繋がら

ない。角度が小さい場合、ドアから次第に部屋の空間が廊下と繋がる。(部屋の感じが察しられる。) それ以上に、ドアを「押す」と「引く」ことを考えるべきである。その問題は新しくなく昔からあったが、それに気を付けなければならない。現代の建築の学校は、基本的なことを教えていない。現代の建築学で一番大切なことは、正面と、建物の構成と、広さではなく、結果を引き起こす作用である。フランクの意見で、学校は、一番使いやすいことを教えるのではなく、生徒達に基本を教えなければならない。(生徒達は彼等自身で、使いやすいことを考えなければならない)。現代の教師達は、生徒達に実際的なことと解答を教えているが、生徒が解答を見つけなければならない。

P3

フランクの意見で、生徒達自身は解答を見つけるための経験ができない。生徒達は基本的なものと、建築の部分の理解を教えられていない。実際に教えるのは大切であるが不足している。一番大切なことは、初めから実際的なものでなく理想的な場所を作ったほうが良い。その時に、先に実際的な部屋を作ること考えずに、色々な部屋の一番良い組み合わせと、その部屋の大きさと割合を考えればよい。これで基本的建築の理解ができるので、その理念を使って、実際に自分で作ることができる。全部の工業製品は妥協である。形、品質、価格の中庸を探さなければならない。実際的に家も同じである。けれど一番理想的な家の形は変わらない。理想的な家は、色々な考えがあるが、庭の入り方はどうするか、家の入口までの道はどうするか、家の入口はどう開けるか、玄関ホールはどんな形にするか、コート置き場から居間までどのようにして行くか、座る場所と窓はどうアレンジしたか、そのような問題は沢山あるが、その解答は「部分」である。「部分」から全体の家をつくる。これが、現代建築である。(バウハウス Bauhaus・学生、Janine Paschke 訳)

発表論文対応表

| 論文名(審査付) | 発表年月 | 発表誌名 | 本研究との関連 |
|--|---------|-----------------------|---------|
| ヨセフ・フランクのスウェーデンにおける建築作品の空間特質に関する研究 －空間展開と動線的设计手法－ | 2011年3月 | 日本インテリア学会 論文報告集21号 | 第3章に掲載 |
| ヨーゼフ・フランクの住宅作品における空間的特質の変遷に関する研究－ウィーンのショル邸・ペーア邸・第2ブンスル邸を中心に－ | 2013年3月 | 日本インテリア学会 論文報告集23号 | 第2章に掲載 |

| 論文名(審査なし) | 発表年月 | 発表誌名 | 本研究との関連 |
|--------------------------|---------|--------------------|---------|
| ヨセフ・フランクのインテリアデザインに関する研究 | 2010年3月 | 名古屋造形大学 研究紀要16号 | 第3章に掲載 |

| 口頭発表 | 発表年月 | 発表誌名 | 本研究との関連 |
|--|----------|---------------------------------------|---------|
| ヨセフ・フランクのインテリアデザインに関する研究 | 2009年10月 | 日本インテリア学会 第21回大会 研究発表梗概集 | 第4章に掲載 |
| オーストリアにおけるヨセフ・フランクの2つの建築の改修について | 2010年10月 | 日本インテリア学会 第22回大会 研究発表梗概集 | 第2章に掲載 |
| 第2ブンスル・ハウスとヴィラ・ウェッチェの平面計画について－ヨセフ・フランクの建築作品における空間的特質に関する研究1－ | 2011年8月 | 社団法人日本建築学会 2011年度大会(関東) 学術講演梗概集 | 第4章に掲載 |
| ショル・ハウスとヴィラ・ピアの空間構成について－ヨセフ・フランクの建築作品における空間的特質に関する研究2－ | 2011年10月 | 日本インテリア学会 第23回大会 研究発表梗概集 | 第2章に掲載 |
| ヨーゼフ・フランクの空間デザインにおける幾何学的文様について －ヨーゼフ・フランクの建築作品における空間的特質に関する研究3－ | 2012年10月 | 日本インテリア学会 第24回大会 研究発表梗概集 | 第5章に掲載 |

本研究にあたって、発表後の継続した研究も含めて論じている。

謝辞

本研究の機会を与えてくださり、終始親身な御指導、御鞭撻を賜りました名古屋工業大学大学院工学研究科教授、工学博士河田克博先生に謹んで感謝の意を表します。

本論文の審査を賜り、御指導を賜りました、堀越哲美教授、麓和善教授に心から感謝の意を表します。

また、本研究を行うにあたり、親身な御指導、貴重な御助言を賜りました広島工業大学環境学部環境デザイン学科准教授河田智成博士、グラーツ工科大学教授 Gorg Uiz 博士、スウェーデン Carl Malmsten 校校長 Lars Ewo 氏、スウェーデン Velling Kommum (ファルステルボー) Municipal Architect, Staffan Andersson 氏、美術史家 Margit Rognebakke 氏に心から感謝申し上げます。

さらに、本研究をまとめるにあたり、英文資料について貴重な御指導と御助言を賜りました名古屋造形大学名誉教授加藤まき子先生、名古屋 YMCA 石垣裕子先生に深く感謝申し上げます。

そして、資料収集に御協力を賜りました名古屋造形大学図書館原昌見氏、ウィーン応用芸術大学図書館 Irene Schwarz 氏、名古屋造形大学事務局村田佳子氏、名古屋造形大学非常勤講師杉崎晃久氏に感謝申し上げます。最後に、写真撮影に協力し、日常支援をいただきました家族に深く感謝いたします。

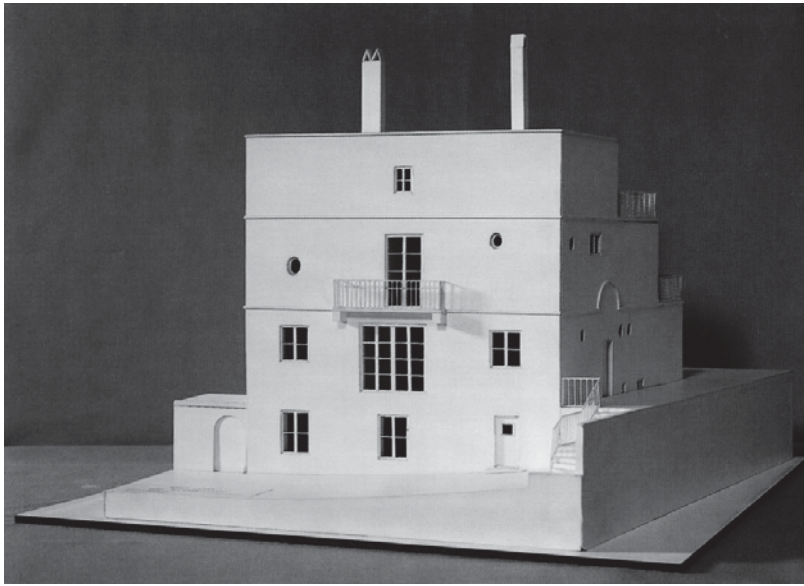
2013 年 6 月

八代美智子

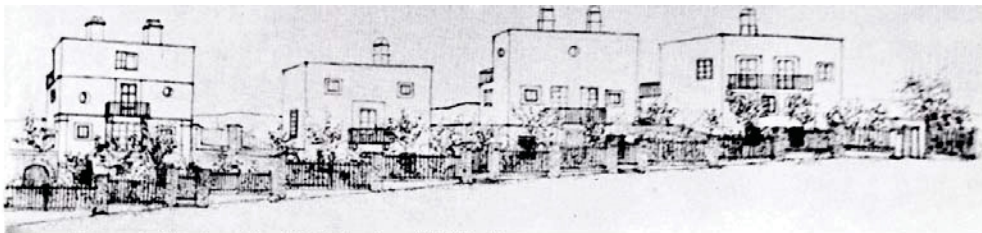
資 料 編

対象史料(建築外観写真・内部空間写真・図面)

| 資料番号 | 建物名称・制作年 |
|--------|------------------------------------|
| 1-1~13 | 住宅 ショール邸 Soholl House・1914 |
| 2-1~29 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn・1924-27 |
| 3-1~17 | 別荘 カールステン邸 Villa Carlsten・1927 |
| 4-1~15 | 住宅 ベーア邸 Soholla Beer・1929-30 |
| 5-1~10 | 別荘 セット邸 Villa Seth・1934 |
| 6-1~3 | 別荘 ローフトマン邸 Villa Laftman・1934 |
| 7-1~3 | アトリエ エステリング邸 Atelier Osterinb・1934 |
| 8-1~37 | 住宅 第2ブンツル邸 Second Bunzl Hous・1935 |
| 9-1~28 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje・1936 |

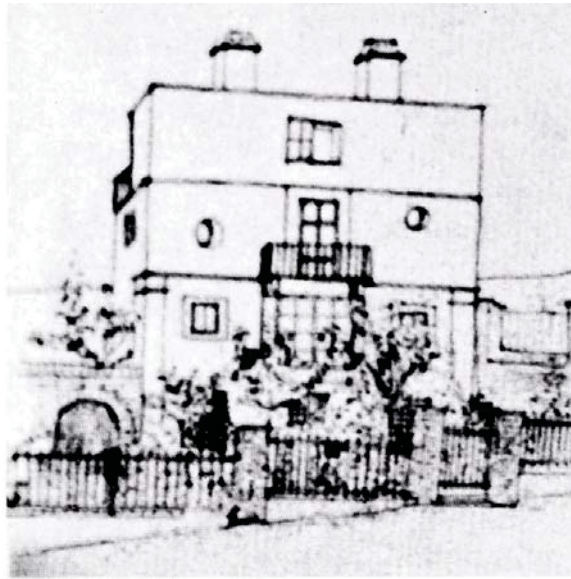


| | | | |
|-----|------------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 ショール邸 Scholl House 1914 | 資料番号 | 1-1 |
| 図名 | 模型 | 制作年 | 1914 |
| 部所名 | 所在地 ウィーン | | |
| 出典 | Josef Frank Architect and Designer | | |

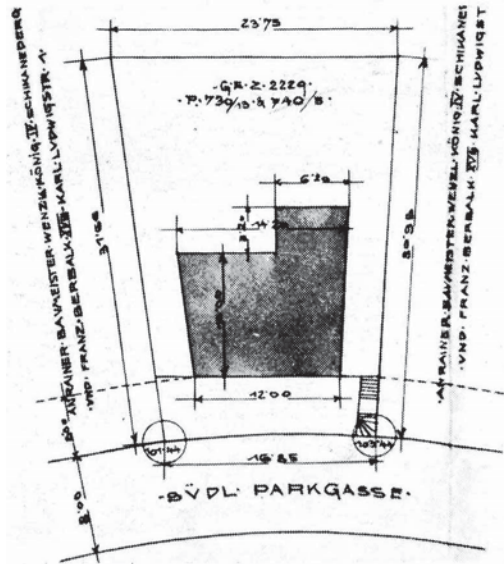


Skizze für vier Häuser an der Wilbrandtgasse, Wien, 1913 (nach einem Vortragslichtbild Franks)

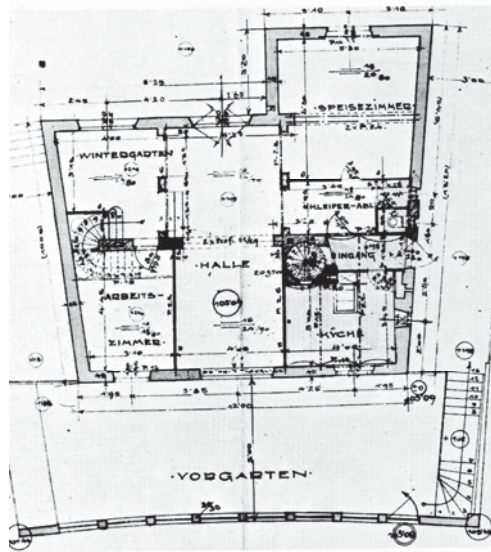
| | | | |
|-----|----------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 ショール邸 Scholl House 1914 | 資料番号 | 1-2 |
| 図名 | パース (左端がショール邸) | 制作年 | 1914 |
| 部所名 | 4軒同時計画 (道路面) | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | Josef Frank 1886-1967 | | |



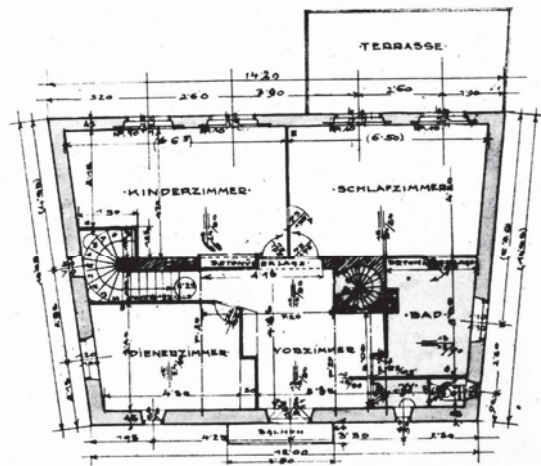
| | | | |
|-----|----------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 ショール邸 Scholl House 1914 | 資料番号 | 1-3 |
| 図名 | パース | 制作年 | 1914 |
| 部所名 | 正面 (4軒計画左端 道路面) | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | Josef Frank 1886-1967 | | |



| | | | |
|-----|----------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 ショール邸 Scholl House 1914 | 資料番号 | 1-4 |
| 図名 | 設計図 | 制作年 | 1914 |
| 部所名 | 配置図 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | Josef Frank:Life and Work | | |

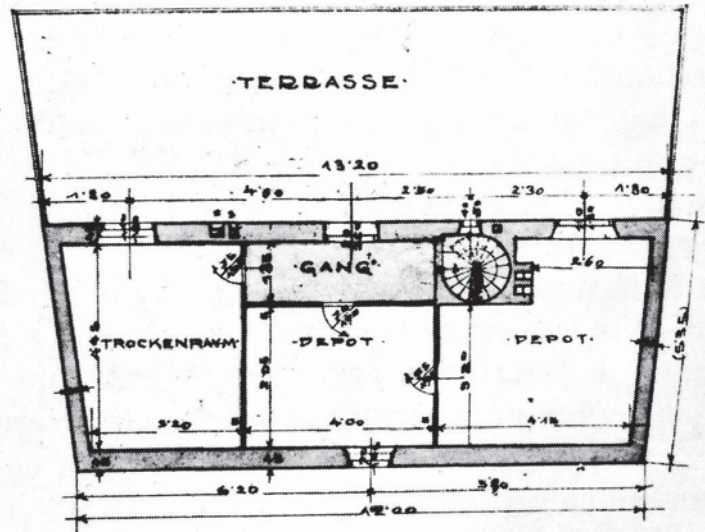


| | | | |
|-----|----------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 ショール邸 Scholl House 1914 | 資料番号 | 1-5 |
| 図名 | 設計図 | 制作年 | 1914 |
| 部所名 | 1階平面図 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | Josef Frank:Life and Work | | |

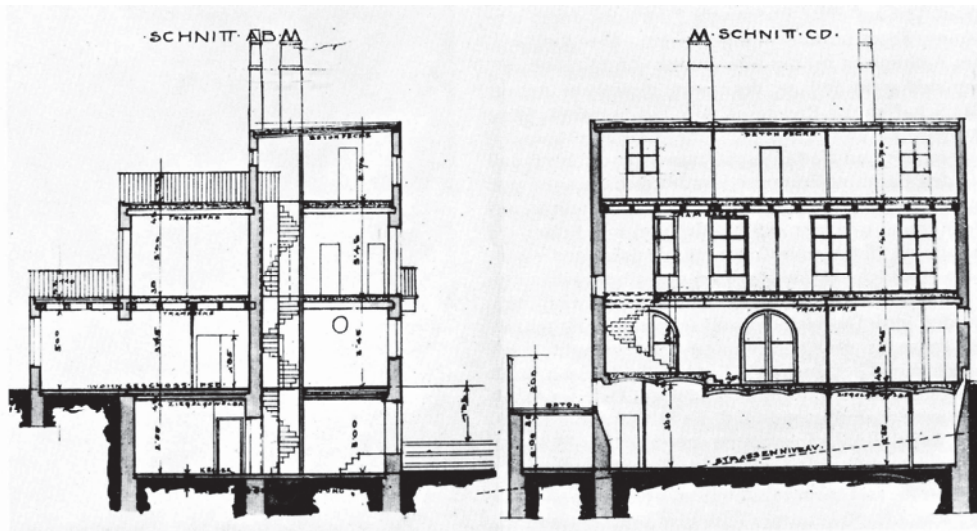


Haus Wilbrandtgasse 3, 1:200

| | | | |
|-----|----------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 ショール邸 Scholl House 1914 | 資料番号 | 1-6 |
| 図名 | 設計図 | 制作年 | 1914 |
| 部所名 | 2階平面図 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | Josef Frank:Life and Work | | |



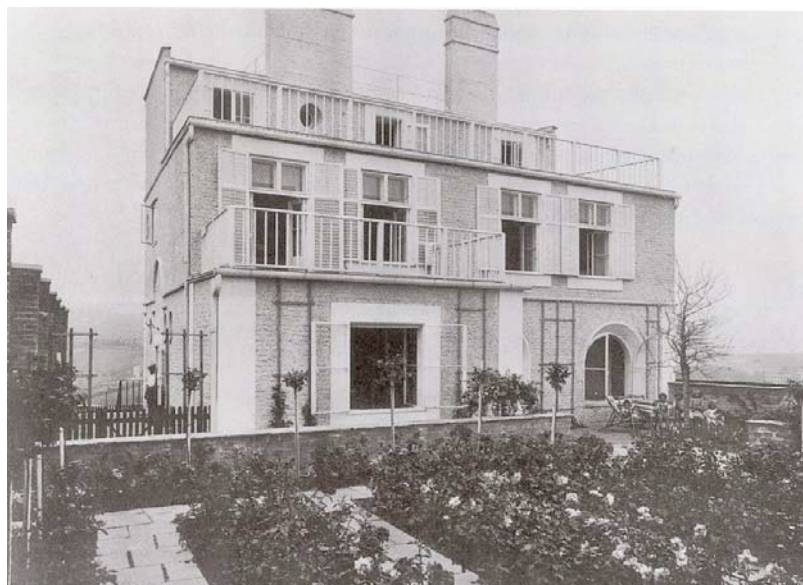
| | | | |
|-----|----------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 ショール邸 Scholl House 1914 | 資料番号 | 1-7 |
| 図名 | 設計図 | 制作年 | 1914 |
| 部所名 | 3階平面図 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | Josef Frank:Life and Work | | |



| | | | |
|-----|----------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 ショール邸 Scholl House 1914 | 資料番号 | 1-8 |
| 図名 | 設計図 | 制作年 | 1914 |
| 部所名 | 断面図 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | Josef Frank:Life and Work | | |



| | | | |
|-----|----------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 ショール邸 Scholl House 1914 | 資料番号 | 1-9 |
| 図名 | 建築当時 | 制作年 | 1914 |
| 部所名 | 正面（道路面） | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | Josef Frank:Life and Work | | |



| | | | |
|-----|----------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 ショール邸 Scholl House 1914 | 資料番号 | 1-10 |
| 図名 | 建築当時 | 制作年 | 1914 |
| 部所名 | 背面（庭面） | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | Josef Frank:Life and Work | | |



| | | | |
|-----|-----------------------|------|-------|
| 作品名 | 住宅 ショール邸 Scholl House | 資料番号 | 1-1 1 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1914 |
| 部所名 | 正面 (道路面) | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2011.9.1 | | |



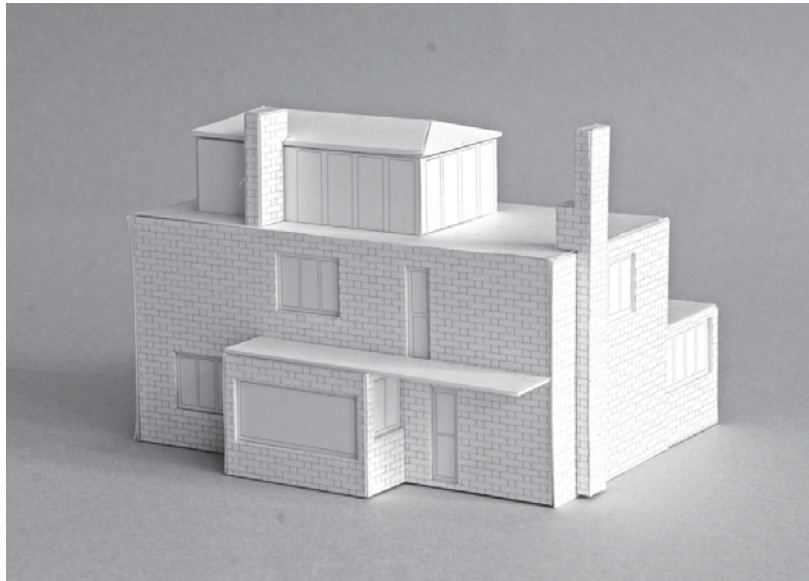
| | | | |
|-----|-----------------------|------|-------|
| 作品名 | 住宅 ショール邸 Scholl House | 資料番号 | 1-1 2 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1914 |
| 部所名 | 正面 (道路面 下部) | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2011.9.1 | | |



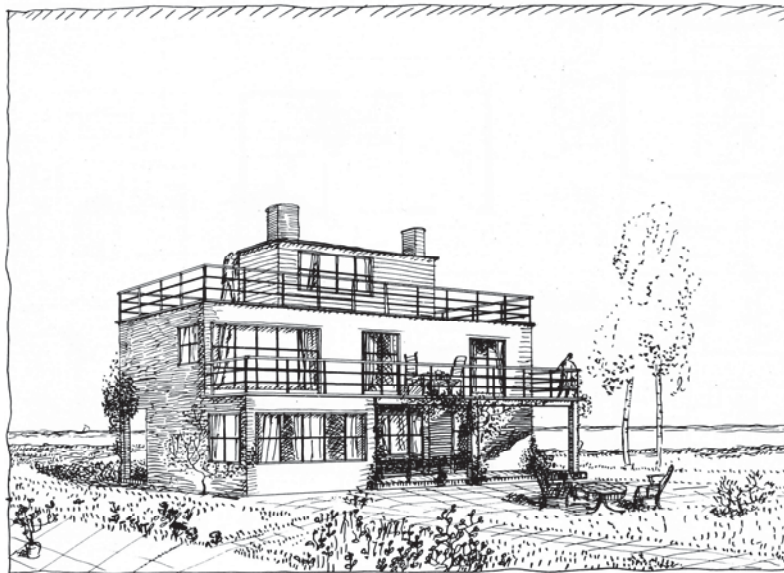
| | | | |
|-----|-----------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 ショール邸 Scholl House | 資料番号 | 1-13 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1914 |
| 部所名 | 背面（庭面） | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2011.9.1 | | |

余 白

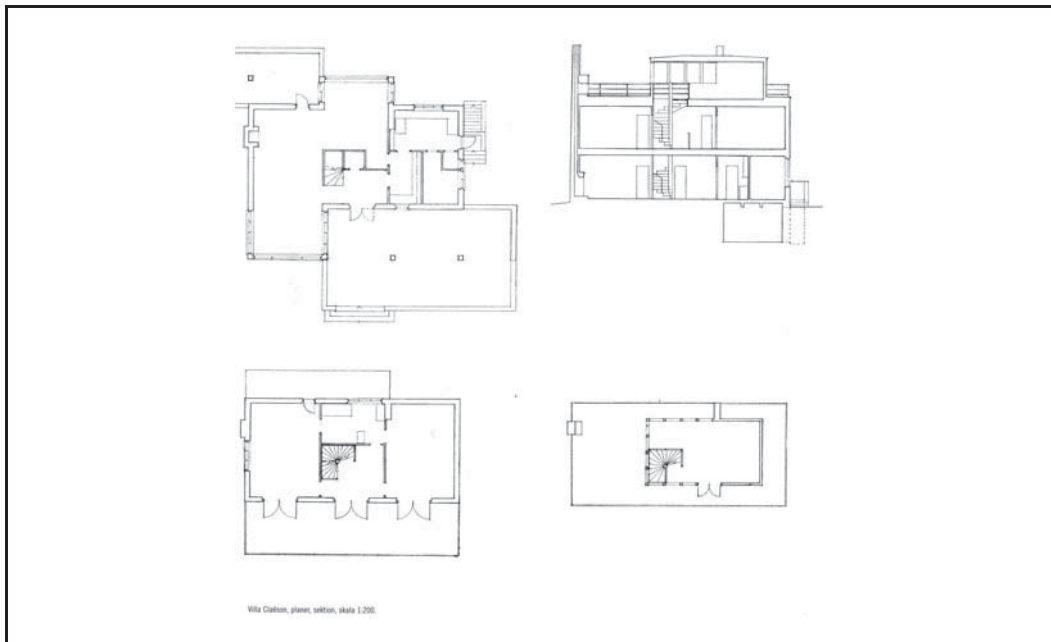
| | | | |
|-----|--|------|--|
| 作品名 | | 資料番号 | |
| 図名 | | 制作年 | |
| 部所名 | | 所在地 | |
| 出典 | | | |



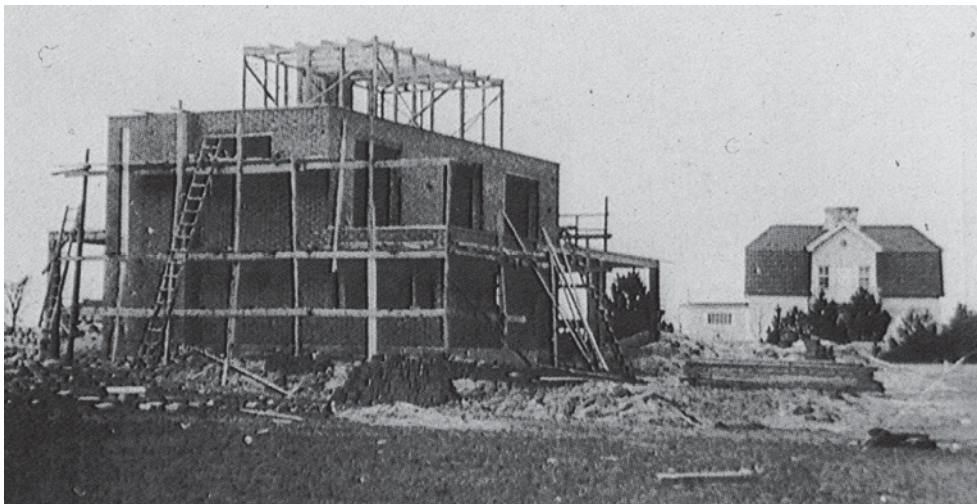
| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-1 |
| 図名 | 模型 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 北東面 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者模型作製・撮影 | | |



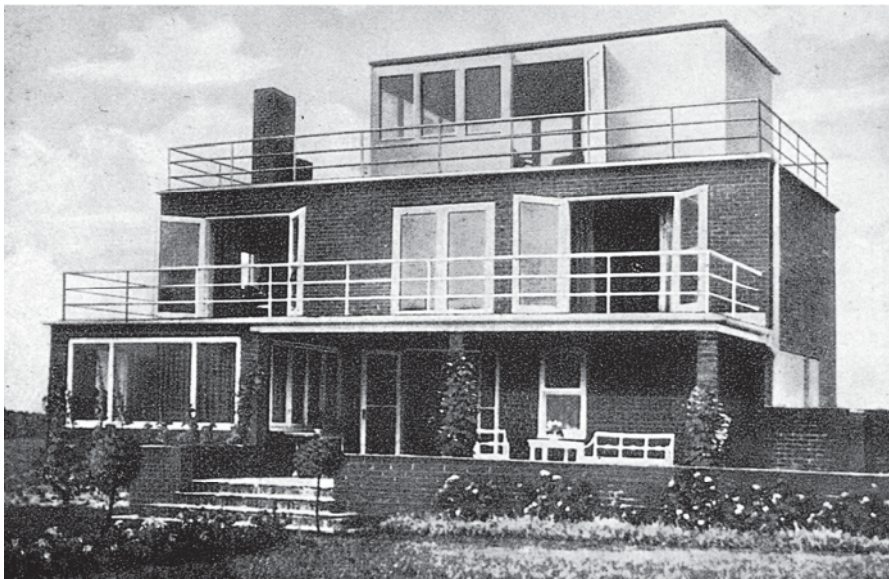
| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-2 |
| 図名 | 透視図 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 正面 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank 1885-1967 | | |



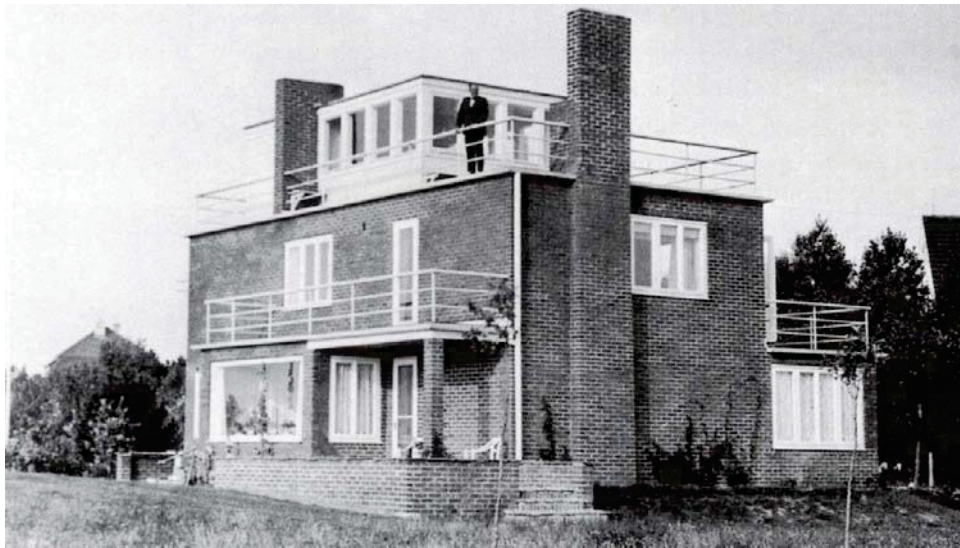
| | | | |
|-----|-------------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-3 |
| 図名 | 設計図 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 各階 平面図 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank Falsterbovillorna | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-4 |
| 図名 | 建設中 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 南東面 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank 1885-1967 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-5 |
| 図名 | 建築当初 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 東面 道路面 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank 1885-1967 | | |



| | | | |
|-----|---------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-6 |
| 図名 | 建築当時 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 北東面 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank:Life and Work | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-7 |
| 図名 | 建築当初 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 東面 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank Falsterbovillorna | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-8 |
| 図名 | 建築当初 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 北西面 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank Falsterbovillorna | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-9 |
| 図名 | 建築当初 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 南東面 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank Falsterbovillorna | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-10 |
| 図名 | 建築当初 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 西面 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank Falsterbovillorna | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-11 |
| 図名 | 建築当初 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 東面 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank Falsterbovillorna | | |



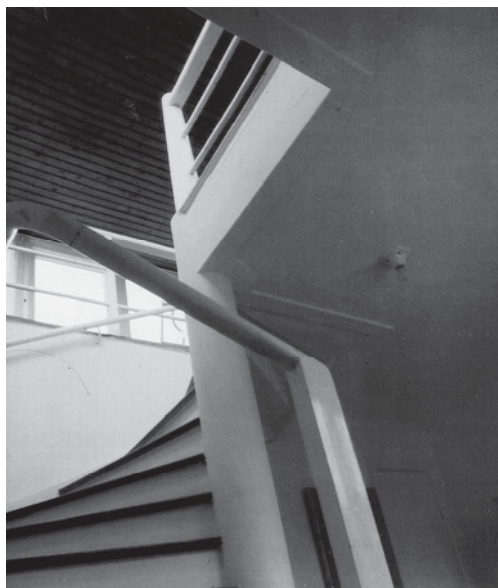
| | | | |
|-----|-------------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-12 |
| 図名 | 建築当初 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 室内 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank Falsterbovillorna | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-13 |
| 図名 | 建築当初 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 室内 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank Falsterbovillorna | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-14 |
| 図名 | 建築当初 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 室内 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank Falsterbovillorna | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-15 |
| 図名 | 建築当初 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 室内 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank 1885-1967 | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-16 |
| 図名 | 建築当初 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 室内 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank Falsterbovillorna | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-17 |
| 図名 | 建築当初 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | バルコニー | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank Falsterbovillorna | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-18 |
| 図名 | 建築当初 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 東面1階テラス | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank 1885-1967 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-19 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 東面 | 所在地 | ファルステルボーン・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-20 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 東面 | 所在地 | ファルステルボーン・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-21 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 南面 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



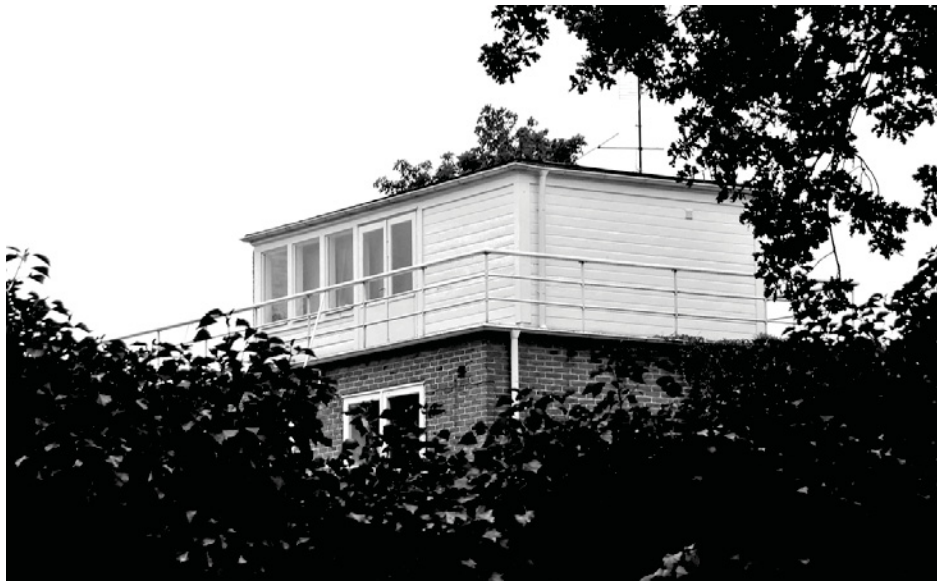
| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-22 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 西面 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-23 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 南面 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-24 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 西面 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-25 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | | 所在地 | ファルステルボーン・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-26 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 外部より室内を見る | 所在地 | ファルステルボーン・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-27 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 外部より室内を見る | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



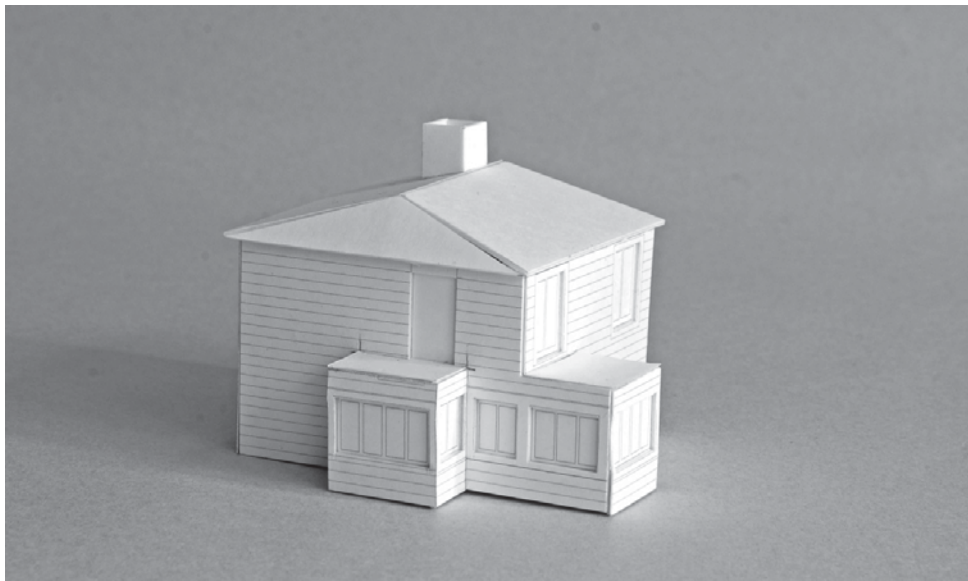
| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-28 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 外部より室内を見る | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



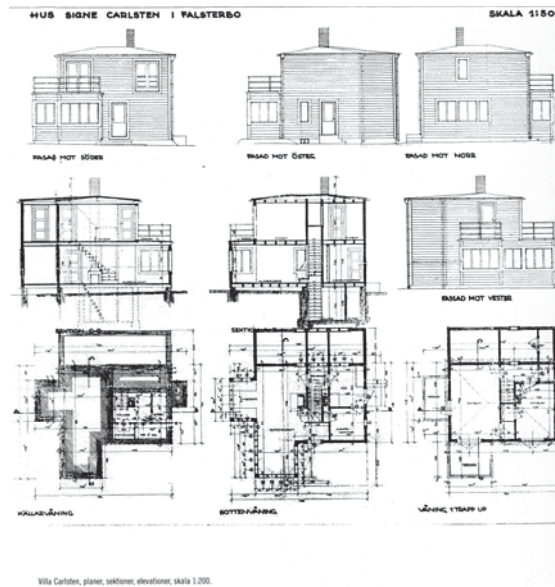
| | | | |
|-----|------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 クラーソン邸 Villa Claesn | 資料番号 | 2-19 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1924-27 |
| 部所名 | 外部より階段を見る | 所在地 | ファルステルボーン・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |

余 白

| | | | |
|-----|--|------|--|
| 作品名 | | 資料番号 | |
| 図名 | | 制作年 | |
| 部所名 | | 所在地 | |
| 出典 | | | |



| | | | |
|-----|---------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 カールステン邸 Villa Carlsten | 資料番号 | 3-1 |
| 図名 | 模型 | 制作年 | 1927 |
| 部所名 | | 所在地 | ファルステルボロー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者モデル作成・撮影 | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 カールステン邸 Villa Carlsten | 資料番号 | 3-2 |
| 図名 | 設計図 | 制作年 | 1927 |
| 部所名 | 平面図 立面図 断面図 | 所在地 | ファルステルボロー・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank Falsterbovillorna | | |



| | | | |
|-----|---------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 カールステン邸 Villa Carlsten | 資料番号 | 3-3 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1927 |
| 部所名 | 正面 南東面 (道路面) | 所在地 | ファルステルポー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|---------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 カールステン邸 Villa Carlsten | 資料番号 | 3-4 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1927 |
| 部所名 | 正面 南東面 | 所在地 | ファルステルポー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|---------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 カールステン邸 Villa Carlsten | 資料番号 | 3-5 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1927 |
| 部所名 | 玄関周り | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|---------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 カールステン邸 Villa Carlsten | 資料番号 | 3-6 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1927 |
| 部所名 | 玄関庇（後付け） | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|---------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 カールステン邸 Villa Carlsten | 資料番号 | 3-7 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1927 |
| 部所名 | 南東面 | 所在地 | ファルステルポー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|---------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 カールステン邸 Villa Carlsten | 資料番号 | 3-8 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1927 |
| 部所名 | 北西面 | 所在地 | ファルステルポー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|---------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 カールステン邸 Villa Carlsten | 資料番号 | 3-9 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1927 |
| 部所名 | 西面 | 所在地 | ファルステルポー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|---------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 カールステン邸 Villa Carlsten | 資料番号 | 3-10 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1927 |
| 部所名 | 正面 南東面 (道路面) | 所在地 | ファルステルポー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|---------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 カールステン邸 Villa Carlsten | 資料番号 | 3-11 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1927 |
| 部所名 | 門脇 | 所在地 | ファルステルポー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|---------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 カールステン邸 Villa Carlsten | 資料番号 | 3-12 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1927 |
| 部所名 | テラス防水端部納まり | 所在地 | ファルステルポー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|---------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 カールステン邸 Villa Carlsten | 資料番号 | 3-13 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1927 |
| 部所名 | 室内 | 所在地 | ファルステルボロー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|---------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 カールステン邸 Villa Carlsten | 資料番号 | 3-14 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1927 |
| 部所名 | 室内 家具類は建築当時のもの | 所在地 | ファルステルボロー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|---------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 カールステン邸 Villa Carlsten | 資料番号 | 3-15 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1927 |
| 部所名 | 家事室に転用 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



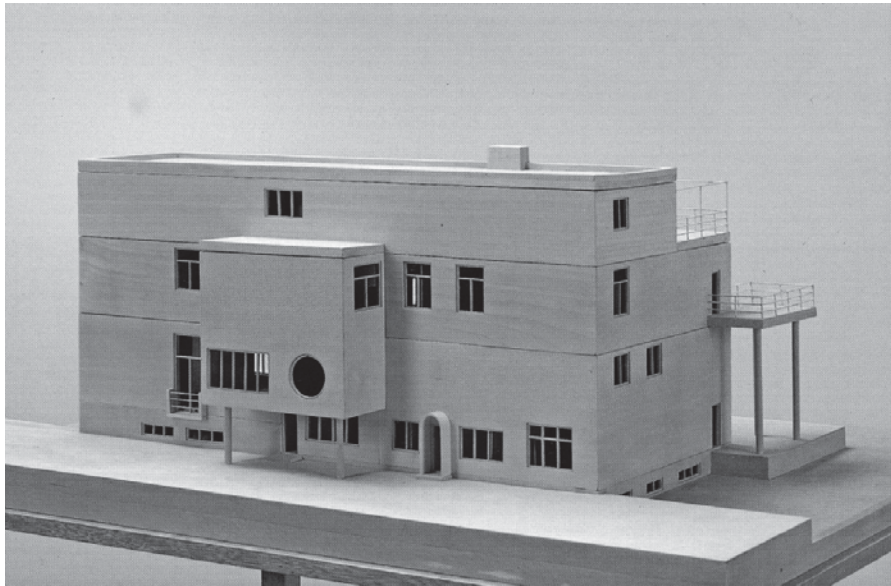
| | | | |
|-----|---------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 カールステン邸 Villa Carlsten | 資料番号 | 3-16 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1927 |
| 部所名 | 階段コーナー部分俯瞰 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



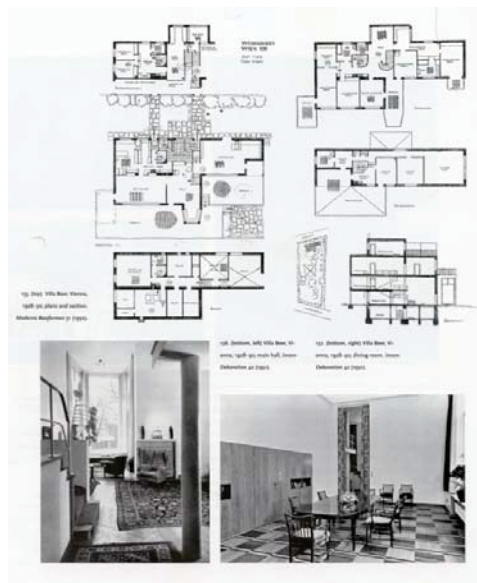
| | | | |
|-----|---------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 カールステン邸 Villa Carlsten | 資料番号 | 3-17 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1927 |
| 部所名 | 階段コーナー部分蹴込 | 所在地 | ファルステルボーン・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |

余 白

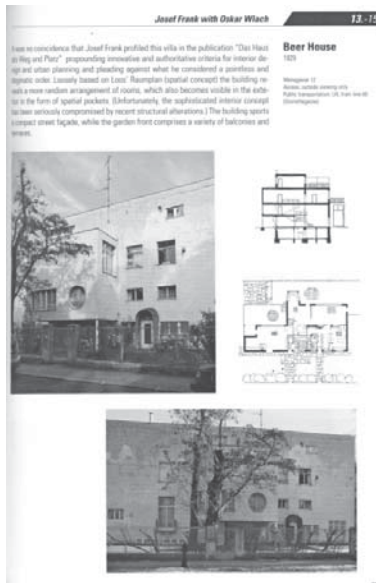
| | | | |
|-----|--|------|--|
| 作品名 | | 資料番号 | |
| 図名 | | 制作年 | |
| 部所名 | | 所在地 | |
| 出典 | | | |



| | | | |
|-----|------------------------------------|------|---------|
| 作品名 | 住宅 ベーア邸 Villa Beer | 資料番号 | 4-1 |
| 図名 | 模型 | 制作年 | 1929-30 |
| 部所名 | 正面 西側（道路面） | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | Josef Frank Architect and Designer | | |



| | | | |
|-----|---------------------------|------|---------|
| 作品名 | 住宅 ベーア邸 Villa Beer | 資料番号 | 4-2 |
| 図名 | 建築時 | 制作年 | 1929-30 |
| 部所名 | 配置図 平面図 断面図 内部 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | Josef Frank:Life and Work | | |



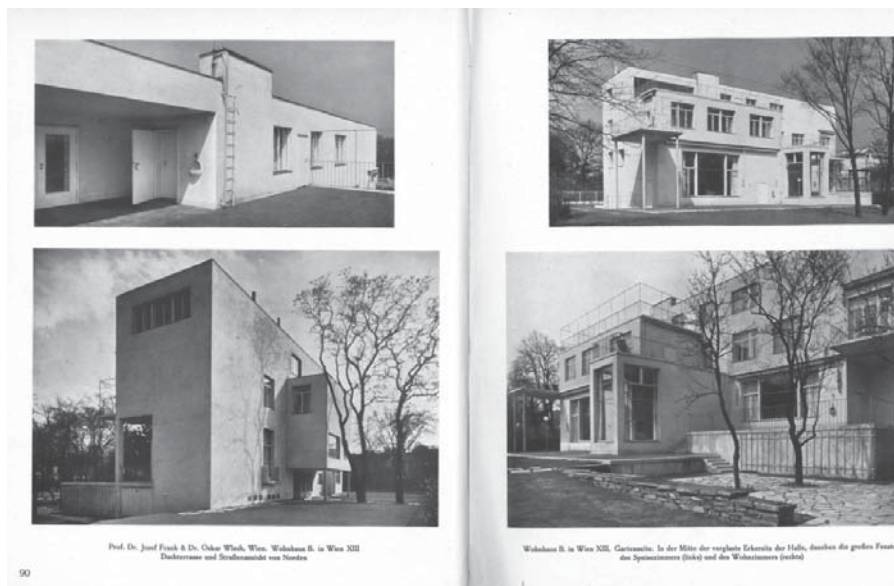
| | | | |
|-----|----------------------------------|------|---------|
| 作品名 | 住宅 ベーア邸 Villa Beer | 資料番号 | 4-3 |
| 図名 | 建築時 | 制作年 | 1929-30 |
| 部所名 | 平面図 断面図 外観 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | Architecture Vienna 700Buildings | | |



| | | | |
|-----|---|------|---------|
| 作品名 | 住宅 ベーア邸 Villa Beer | 資料番号 | 4-4 |
| 図名 | 建築時 | 制作年 | 1929-30 |
| 部所名 | 配置図 外観 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | Journal Baumejster, Nr.29, Essay "Das Haus als Weg und Platz" | | |



| | | | |
|-----|---------------------------|------|---------|
| 作品名 | 住宅 ベーア邸 Villa Beer | 資料番号 | 4-5 |
| 図名 | 建築時 | 制作年 | 1929-30 |
| 部所名 | 内部写真 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | Josef Frank:Life and Work | | |



| | | | |
|-----|--|------|---------|
| 作品名 | 住宅 ベーア邸 Villa Beer | 資料番号 | 4-6 |
| 図名 | 建築時 | 制作年 | 1929-30 |
| 部所名 | 外観 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | Journal Baumejster, Nr29, Essay "Das Haus als Weg und Platz" | | |



| | | | |
|-----|--------------------|------|---------|
| 作品名 | 住宅 ベーア邸 Villa Beer | 資料番号 | 4-7 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1929-30 |
| 部所名 | 西面 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2011.8.31 | | |



| | | | |
|-----|--------------------|------|---------|
| 作品名 | 住宅 ベーア邸 Villa Beer | 資料番号 | 4-8 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1929-30 |
| 部所名 | 正面 北西面 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2011.8.31 | | |



| | | | |
|-----|--------------------|------|---------|
| 作品名 | 住宅 ベーア邸 Villa Beer | 資料番号 | 4-9 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1929-30 |
| 部所名 | 北面 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2011.8.31 | | |



| | | | |
|-----|--------------------|------|---------|
| 作品名 | 住宅 ベーア邸 Villa Beer | 資料番号 | 4-10 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1929-30 |
| 部所名 | 南面 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2011.8.31 | | |



| | | | |
|-----|--------------------|------|---------|
| 作品名 | 住宅 ベーア邸 Villa Beer | 資料番号 | 4-11 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1929-30 |
| 部所名 | 東面 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2011.8.31 | | |



| | | | |
|-----|--------------------|------|---------|
| 作品名 | 住宅 ベーア邸 Villa Beer | 資料番号 | 4-12 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1929-30 |
| 部所名 | 東面 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2011.8.31 | | |



| | | | |
|-----|--------------------|------|---------|
| 作品名 | 住宅 ベーア邸 Villa Beer | 資料番号 | 4-13 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1929-30 |
| 部所名 | 東面 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2011.8.31 | | |



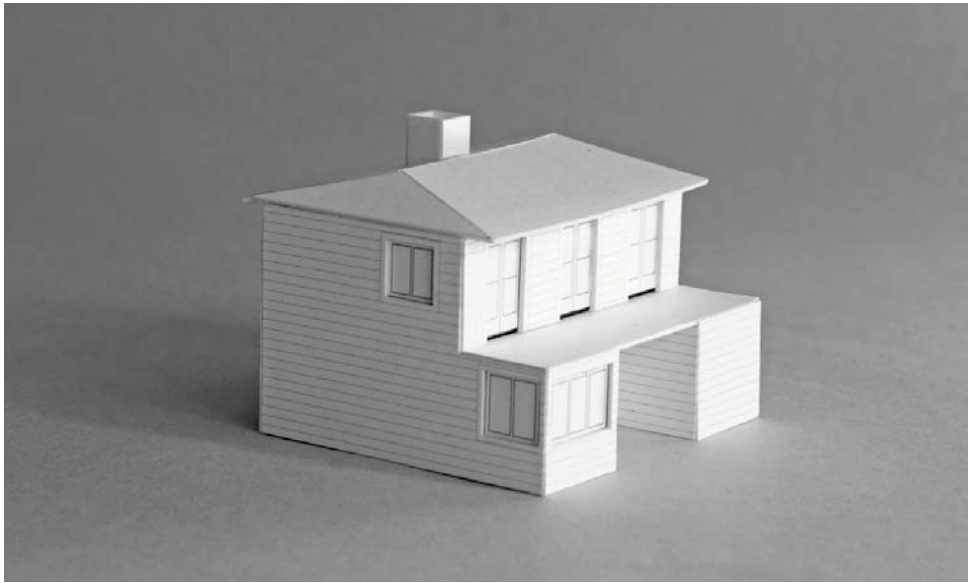
| | | | |
|-----|--------------------|------|---------|
| 作品名 | 住宅 ベーア邸 Villa Beer | 資料番号 | 4-14 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1929-30 |
| 部所名 | 北面 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2011.8.31 | | |



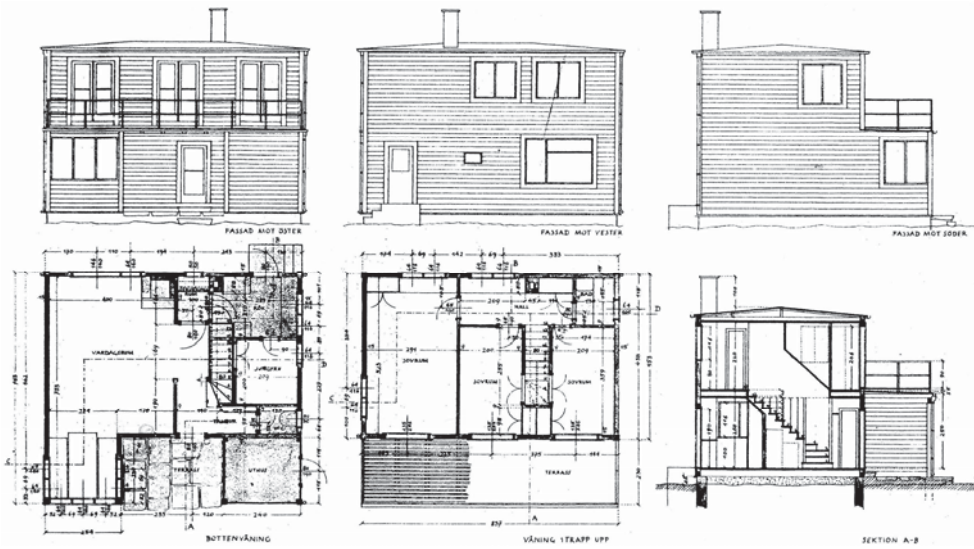
| | | | |
|-----|--------------------|------|---------|
| 作品名 | 住宅 ベーア邸 Villa Beer | 資料番号 | 4-15 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1929-30 |
| 部所名 | 西面 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2011.8.31 | | |

余 白

| | | | |
|-----|--|------|--|
| 作品名 | | 資料番号 | |
| 図名 | | 制作年 | |
| 部所名 | | 所在地 | |
| 出典 | | | |



| | | | |
|-----|--------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 セット邸 Villa Seth | 資料番号 | 5-1 |
| 図名 | 模型 | 制作年 | 1934 |
| 部所名 | 南面 | 所在地 | ファルステルボロー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者モデル作成・撮影 | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 セット邸 Villa Seth | 資料番号 | 5-2 |
| 図名 | 設計図 | 制作年 | 1934 |
| 部所名 | 平面図 率面図 断面図 | 所在地 | ファルステルボロー・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank Falsterbovillorna | | |



| | | | |
|-----|--------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 セット邸 Villa Seth | 資料番号 | 5-3 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1934 |
| 部所名 | 東面 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|--------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 セット邸 Villa Seth | 資料番号 | 5-4 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1934 |
| 部所名 | 南西道路 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|--------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 セット邸 Villa Seth | 資料番号 | 5-5 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1934 |
| 部所名 | 北西道路 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|--------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 セット邸 Villa Seth | 資料番号 | 5-6 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1934 |
| 部所名 | 北西道路 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|--------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 セット邸 Villa Seth | 資料番号 | 5-7 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1934 |
| 部所名 | 西面 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008. 8. 8 | | |



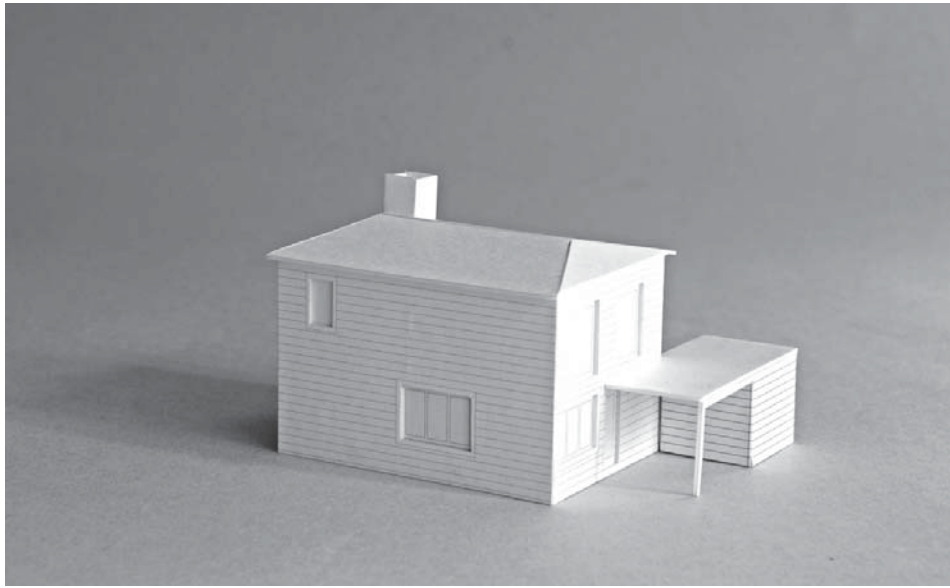
| | | | |
|-----|--------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 セット邸 Villa Seth | 資料番号 | 5-8 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1934 |
| 部所名 | 庭部分より増築部東面 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008. 8. 8 | | |



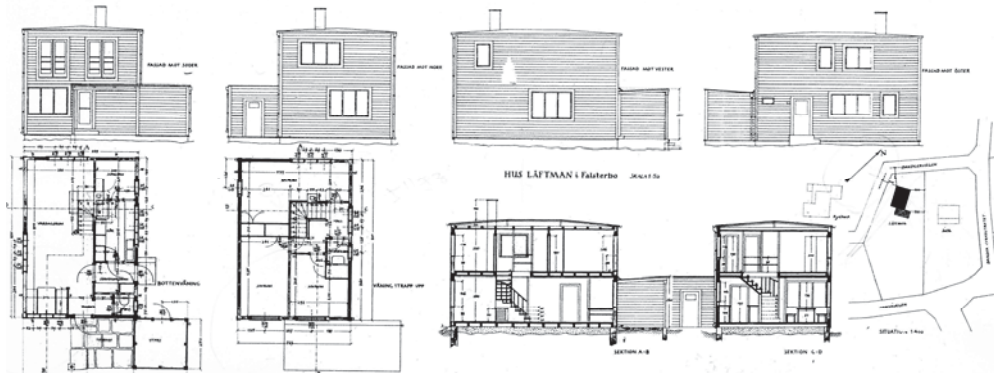
| | | | |
|-----|--------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 セット邸 Villa Seth | 資料番号 | 5-9 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1934 |
| 部所名 | 増築部分 中庭 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|--------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 セット邸 Villa Seth | 資料番号 | 5-10 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1934 |
| 部所名 | 室内 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|--------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 ローフトマン邸 Villa Laftman | 資料番号 | 6-1 |
| 図名 | 模型 | 制作年 | 1934 |
| 部所名 | 南面 | 所在地 | ファルステルボロー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者モデル作成・撮影 | | |



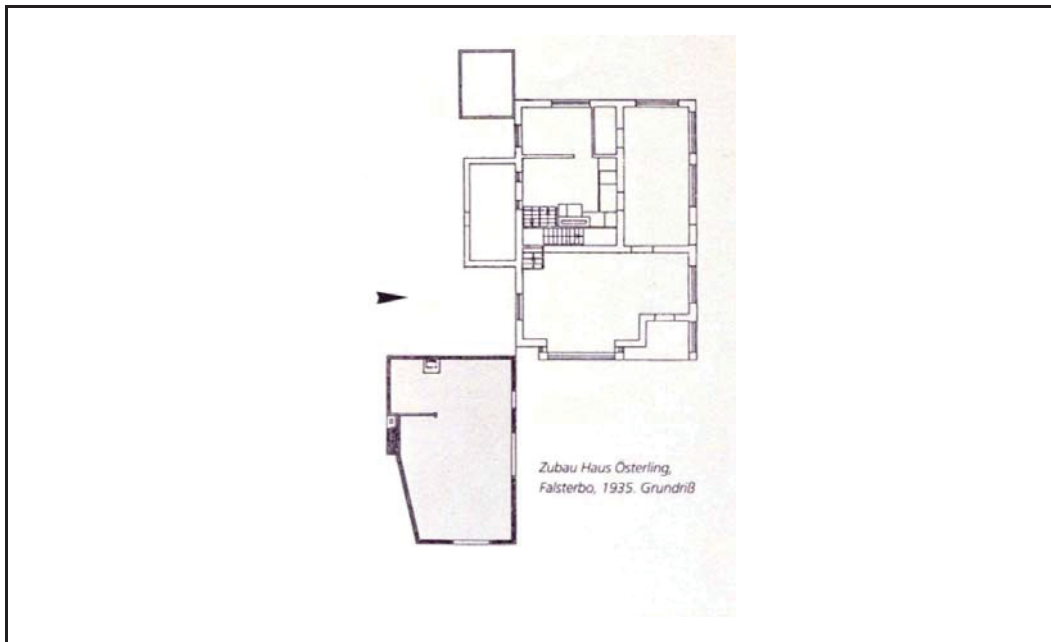
| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 ローフトマン邸 Villa Laftman | 資料番号 | 6-2 |
| 図名 | 設計図 | 制作年 | 1934 |
| 部所名 | 平面図 立面図 断面図 | 所在地 | ファルステルボロー・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank Falsterbovillorna | | |



| | | | |
|-----|--------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 ローフトマン邸 Villa Laftman | 資料番号 | 6-3 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1934 |
| 部所名 | 北東 | 所在地 | ファルステルボーン・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |

余 白

| | | | |
|-----|--|------|--|
| 作品名 | | 資料番号 | |
| 図名 | | 制作年 | |
| 部所名 | | 所在地 | |
| 出典 | | | |



| | | | |
|-----|---|------|-----------------|
| 作品名 | アトリエ エステリング邸 Atelier Osterinb | 資料番号 | 7-1 |
| 図名 | 設計図 | 制作年 | 1934 |
| 部所名 | 平面図 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank 1885-1967, Das architektonische Werk. | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | アトリエ エステリング邸 Atelier Osterinb | 資料番号 | 7-2 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1934 |
| 部所名 | 外観 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2010.9.22 | | |



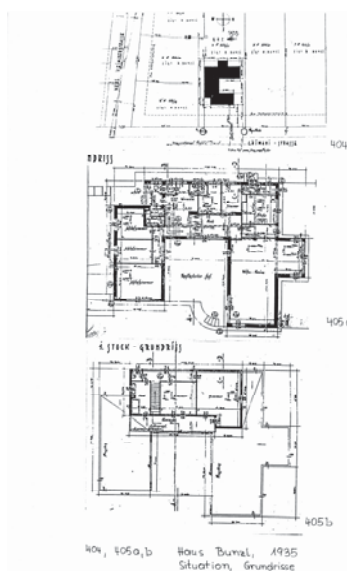
| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------------------|
| 作品名 | アトリエ エステリング邸 Atelier Osterinb | 資料番号 | 7-3 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1934 |
| 部所名 | 外観 | 所在地 | ファルステルボーン・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2010.9.22 | | |

余 白

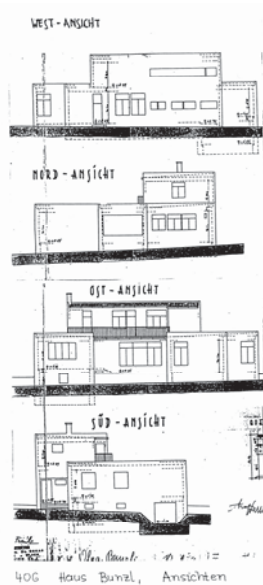
| | | | |
|-----|--|------|--|
| 作品名 | | 資料番号 | |
| 図名 | | 制作年 | |
| 部所名 | | 所在地 | |
| 出典 | | | |



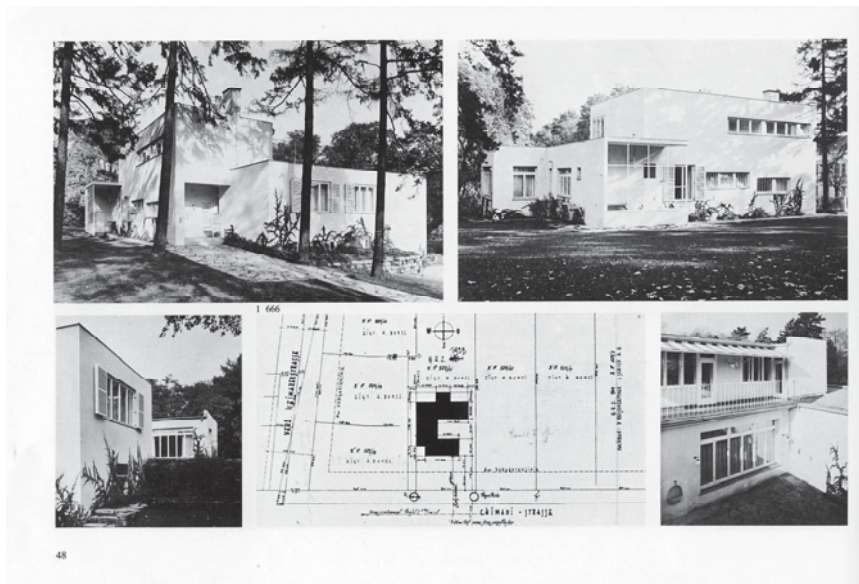
| | | | |
|-----|--------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Buntzl Haus | 資料番号 | 8-1 |
| 図名 | 模型 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 北東側 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者モデル作成・撮影 | | |



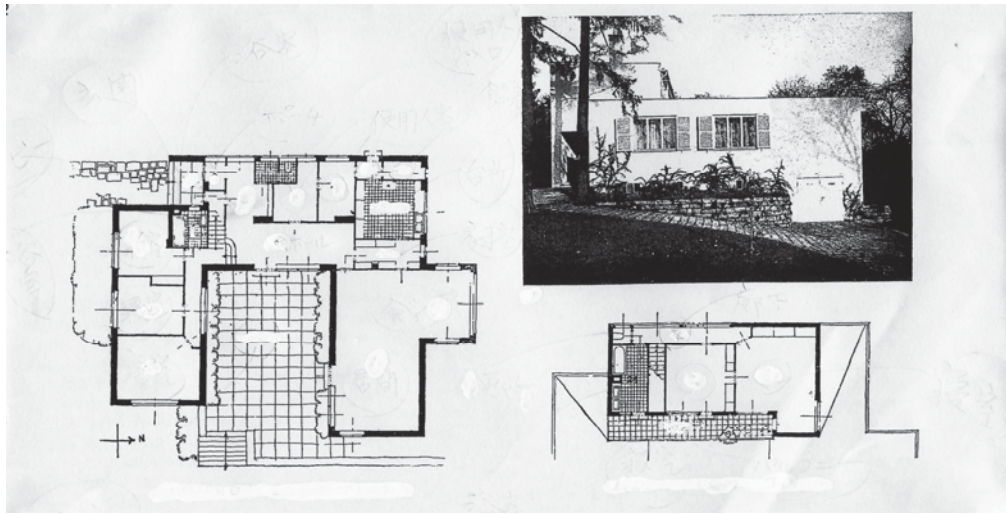
| | | | |
|-----|--------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Buntzl Haus | 資料番号 | 8-2 |
| 図名 | 設計図 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 配置図 平面図 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | Josef Frank 1885-1967 | | |



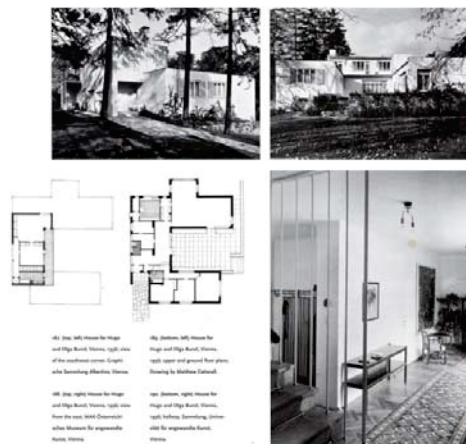
| | | | |
|-----|------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Buzl Hous | 資料番号 | 8-3 |
| 図名 | 設計図 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 立面図 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | Josef Frank 1885-1967 | | |



| | | | |
|-----|------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Buzl Hous | 資料番号 | 8-4 |
| 図名 | 建築当時 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 配置図 外観 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | Josef Frank 1885-1967 | | |



| | | | |
|-----|--------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Buntzl Hous | 資料番号 | 8-5 |
| 図名 | 建築当時 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 平面図 外観南面 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | Josef Frank 1885-1967 | | |



| | | | |
|-----|--------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Buntzl Hous | 資料番号 | 8-6 |
| 図名 | 建築当時 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 平面図 外観 内部 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | Josef Frank:Life and Work | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunzl Hous | 資料番号 | 8-7 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 南面 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunzl Hous | 資料番号 | 8-8 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 北東面 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|--------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunszl Hous | 資料番号 | 8-9 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 東面 中庭 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|--------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunszl Hous | 資料番号 | 8-10 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 中庭より北西面 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunzl Hous | 資料番号 | 8-11 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | ホール | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunzl Hous | 資料番号 | 8-12 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | ホール | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunzl Hous | 資料番号 | 8-13 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 階段室 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunzl Hous | 資料番号 | 8-14 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 1階内部 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunzl Hous | 資料番号 | 8-15 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 1階内部 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunzl Hous | 資料番号 | 8-16 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 1階内部 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|--------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunszl Hous | 資料番号 | 8-17 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 1階内部 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|--------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunszl Hous | 資料番号 | 8-18 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 1階内部 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunzl Hous | 資料番号 | 8-19 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 1階内部 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunzl Hous | 資料番号 | 8-20 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 1階廊下 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunzl Hous | 資料番号 | 8-21 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 1階廊下 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunzl Hous | 資料番号 | 8-22 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 1階個室 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunzl Hous | 資料番号 | 8-23 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 1階個室 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunzl Hous | 資料番号 | 8-24 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 1階個室 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunzl Hous | 資料番号 | 8-25 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 1階個室 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunzl Hous | 資料番号 | 8-26 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 1階個室 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|--------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunsel Hous | 資料番号 | 8-27 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 1階洗面所 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|--------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunsel Hous | 資料番号 | 8-28 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 2階個室 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunzl Hous | 資料番号 | 8-29 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 2階個室 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunzl Hous | 資料番号 | 8-30 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 2階個室 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



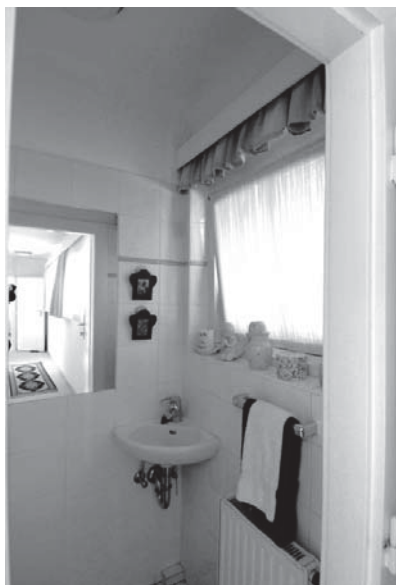
| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunzl Hous | 資料番号 | 8-31 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 2階個室 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunzl Hous | 資料番号 | 8-32 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 2階洗面所 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunzl Hous | 資料番号 | 8-33 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 2階洗面所 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunzl Hous | 資料番号 | 8-34 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 2階洗面所 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunzl Hous | 資料番号 | 8-35 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | 2階廊下 | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunzl Hous | 資料番号 | 8-36 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | バルコニー | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |



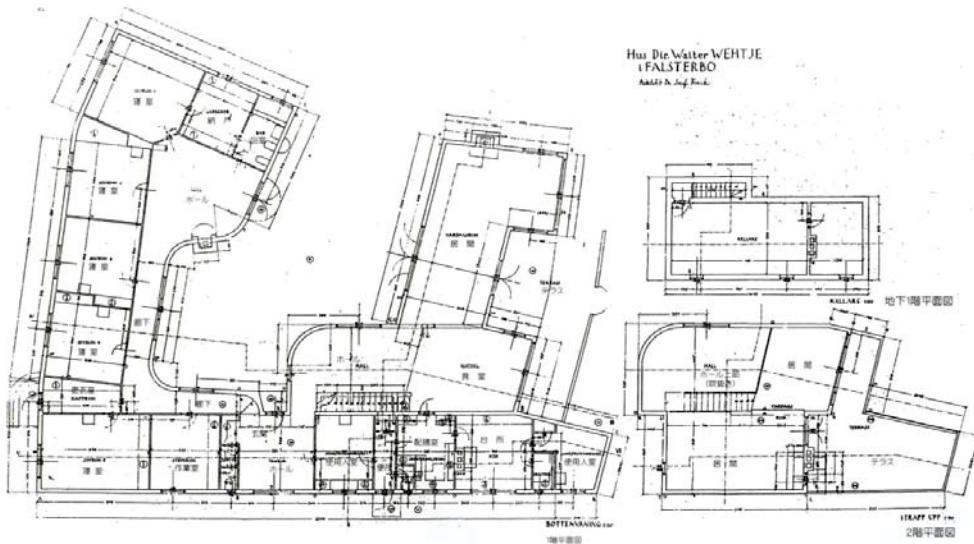
| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------|
| 作品名 | 住宅 第2 ブンツル邸 Second Bunzl Hous | 資料番号 | 8-37 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1935 |
| 部所名 | バルコニー | 所在地 | ウィーン |
| 出典 | 筆者撮影 2009.9.7 | | |

余 白

| | | | |
|-----|--|------|--|
| 作品名 | | 資料番号 | |
| 図名 | | 制作年 | |
| 部所名 | | 所在地 | |
| 出典 | | | |



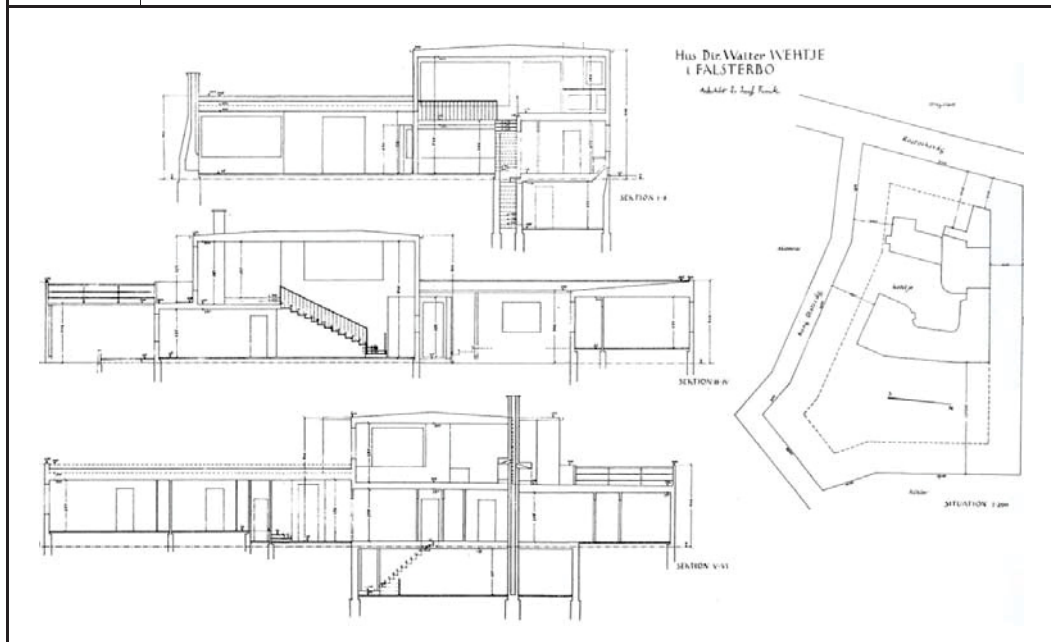
| | | | |
|-----|------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-1 |
| 図名 | 模型 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 南面俯瞰 | 所在地 | ファルステルボロー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者モデル作成・撮影 | | |



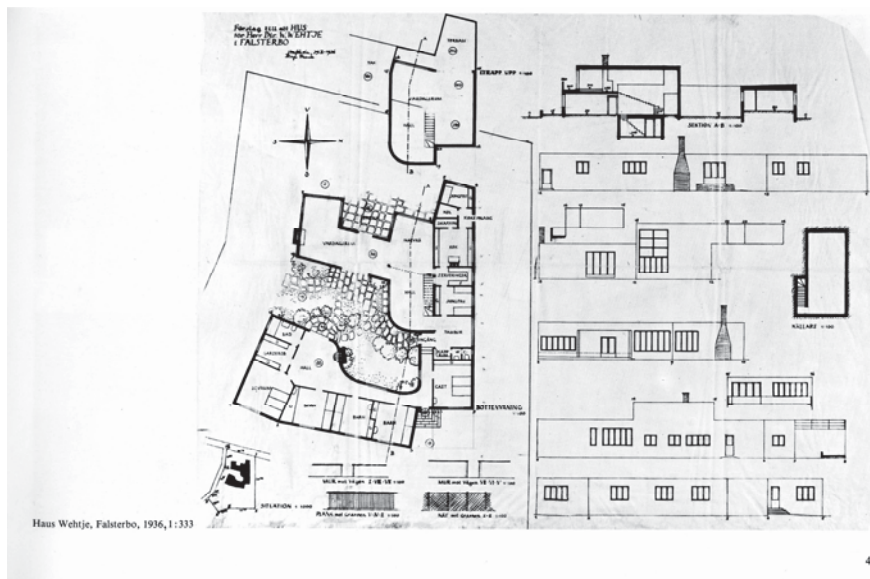
| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-2 |
| 図名 | 設計図 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 平面図 | 所在地 | ファルステルボロー・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank Falsterbovillorna | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-3 |
| 図名 | 設計図 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 立面図 | 所在地 | ファルステルボーン・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank Falsterbovillorna | | |



| | | | |
|-----|-------------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-4 |
| 図名 | 設計図 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 配置図 断面図 | 所在地 | ファルステルボーン・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank Falsterbovillorna | | |



49

| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-5 |
| 図名 | 設計図 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 平面図 立面図 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank 1885-1967 | | |



50

| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-6 |
| 図名 | 建築当時 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 外部 内部 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank 1885-1967 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-7 |
| 図名 | 建築当時 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 中庭 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | Josef Frank 1885-1967 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-8 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 道路より進入部 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-9 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 敷地南東道路角 | 所在地 | ファルステルボーン・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008. 8. 8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-10 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 中庭 | 所在地 | ファルステルボーン・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008. 8. 8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-11 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 1階内部 | 所在地 | ファルステルポー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-12 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 1階内部 | 所在地 | ファルステルポー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-13 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 1階内部 | 所在地 | ファルステルボーン・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-14 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 1階内部 | 所在地 | ファルステルボーン・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-15 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 1階内部 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-16 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 1階内部 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-17 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 1階内部 | 所在地 | ファルステルポー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-18 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 1階内部 | 所在地 | ファルステルポー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-19 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 1階内部 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-20 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 1階内部 廊下 | 所在地 | ファルステルボー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-21 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 1階内部 洗面所 | 所在地 | ファルステルポー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-22 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 2階内部 | 所在地 | ファルステルポー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-23 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 2階内部 | 所在地 | ファルステルポー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|-----------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-24 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 2階内部 | 所在地 | ファルステルポー・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-25 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 2階内部 | 所在地 | ファルステルボーン・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-26 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 2階内部 奥の部屋は増築部 | 所在地 | ファルステルボーン・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-27 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 2階内部 | 所在地 | ファルステルボーン・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |



| | | | |
|-----|------------------------|------|------------------|
| 作品名 | 別荘 ウェッチェ邸 Villa Wehtje | 資料番号 | 9-28 |
| 図名 | 現況 | 制作年 | 1936 |
| 部所名 | 2階内部 | 所在地 | ファルステルボーン・スウェーデン |
| 出典 | 筆者撮影 2008.8.8 | | |